

千浦	藤江	金江	柳津	松永	今津	山波	高須	西	東	本郷	神坂	赤坂	瀬戸	津之郷	神鳥	佐波	草戸
村	村	村	村	町	町	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村
三〇〇	三〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	四〇〇	五〇〇	五〇〇	三〇〇	三〇〇	一五〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

三、事務計畫

一、係員は町村と軍部間の連繫を保ち行軍演習宿舎に關し便宜を與ふるものとす。
 一、演習參加部隊宿營の爲め宿營力を調査し宿營力調査表を調製し關係部隊並演習關係地方市町村に送付す。

一、宿舎主に對しては宿舎主心得を共同印刷に付し演習關係地域内市町村長に送付し豫め舎主に配付せしむ。

一、係員は左の通り大演習地域内に出張し事務に従事す。

旅行豫定

中田屬	御調郡今津野、奥市、上川邊、下川邊附近町村	十一月十二日 同	十二月二日 同	十二月十三日 同	十二月十四日 同	十二月十五日 同	十二月十六日 同	十二月十七日 同
	道土村着						沼隈郡赤坂、柳津神、松永附近	

中丸屬	御調郡八幡 河内附近	道上村着	御調郡吉和、 糸崎附近
神後屬	沼隈郡高須、西、東、今津、松永、深 安郡大津野、春日、八尋、御野附近	道上村着	沼隈郡東、西、高須、 山波、今津附近
立野屬	糸崎、吉和、栗原町附近	道上村着	尾道市
久保 主事補	深安郡大津 野、春日附近	道上村着	栗原町附近
山岡屬	尾道市、沼隈郡 山波村附近		
浮乘屬	沼隈郡赤坂、 柳津村附近		
	(社寺兵事課長隨行)		
	(學務部長隨行)		

一、宿舎に關し注意すべき事項

1. 軍部より要求せる人員を適當に配分して宿舎割當をなしありや。割當不當と認むるときは割當替をなさしむること。宿營は概ね疊二枚に付一人の割合を以て配當するを可とす。
2. 市町村要圖、部落要圖は調製しありや。要圖は軍隊行軍演習事務取扱心得第二十六項及市役所町村役場事務取扱心得第三項に従ひ四枚を調製しあるを要す。
3. 成る可く各部落に就き實地を調査し兵事々務取扱規程第十二條による揭示をなしありや否やを

檢すること。

4. 宿舎心得は各戸に配付しありや否やを調ぶること。
5. 參謀本部送付の軍隊宿營に關する參考事項徹底しありやを調ぶること。
6. 舎主は宿舎料受領方法を熟知しありやを調査すること。舎主は宿泊軍人より舎營券の一片を受領し軍隊出發前役場に於て支拂を受くること。宿泊料は軍隊宿舎料定額表に依る。

一、軍隊の行軍演習地と目さるゝ地點を豫め踏破し左の事項を注意すること。

1. 行軍演習に關係ありと認むる道路、橋梁に破損の箇所はなきや道路に障害はなきや。損害の箇所ありて應急修理をなし得べきものは直に町村長と協議修理を行はしめ障害は除去しむること。
2. 湯茶供給設備は適當なるや。容器には「湯」「茶」と表示し蓋をなし茶腕三十ヶ以上、又は土瓶柄杓を置き係員を置くことを要す。設備不適當なるものは改めしめ場所不適當と認むるときは變更せしむること。
3. 馬用水供給所は適當なりや。

馬用水は清潔なる四斗樽又は半切桶を用ゐる馬用水と標示し柄杓小桶三ヶ以上塩一升を設備し附添人夫を置くこと。

4. 古井戸、肥溜等の危険なる箇所には適當に豫防設備をなしありや。

5. 道路分岐點には指導標の建設ありや。

一、軍隊宿泊の後に於て宿泊地に就き宿泊に不都合なかりしや宿舍料は支拂はれたるやを調査すること。

一、軍隊行軍演習宿營に就き必要あるときは兵事係事務所

(深安郡道上村役場—電話下加茂二四番)と連絡を執ること。

一、演習中損害賠償を要する事實ありたるときは速に損害賠償委員と連絡を取る様豫め町村に對し注意をなし置くこと。

損害賠償委員は左腕に赤、白の腕章を附し自動車に分乘して演習部隊の後方に在り自動車には損害賠償委員を標示する旗を掲揚する筈なり。

一、聯隊長及部隊長の宿舍は兵事係長の名刺を携行し慰問すること。

四、規 程

一、宿營舎主心得

一、演習期間及其ノ前後ハ何時ニテモ軍隊ノ宿營ニ應シ得ル様豫メ心掛ケ置クコト

二、軍旗ニ對シテハ不敬ノ行爲ナキ様特ニ注意スルコト

三、宿營軍人ニ對シテハ舍主ヲ始メ家族一同専ラ親切丁寧ヲ旨トシ誠意ヲ以テ待遇スルコト

四、軍隊ハ時間厳正ナルヲ以テ宿營軍人ヨリ指示ノ時刻ヲ誤ラサル様注意シ殊ニ出發ニ際シテハ最も

注意スルコト

五、家屋内外ヲ掃除シ置クハ勿論使所ハ最も清潔ニ爲シ手洗水ハ一日數回取替ヘ糞便ハ汲取り置クコト

ト但シ夜間ハ點火シ得ル様準備シ置クコト

六、宿舍ニ於テハ舍營前火鉢、湯茶等ノ準備ヲ爲シ浴室アルモノハ入浴ノ用意ヲ爲シ置クコト

七、家族中ニ病者アルトキハ醫師ノ診察ヲ受ケケカ治療ニ努ムルト共ニ其ノ病名ヲ聞キ置クコト

八、宿營スヘキ兵員ニ應シ歩兵ト騎兵トヲ顧慮シ簡易ナル銃架ヲ設ケ且背囊及裝具置場トシテ板ノ間

又ハ椽側等ニ適當ナル位置ニ藁、蔭ノ類ヲ敷キ置クコト

九、被服ヲ掛クルニ備フル爲有リ合セノ物ヲ以テ掛竿又ハ綱ヲ張り且ツ雨天ノ場合ハ焚火其ノ他ノ方

法ニ依リ乾燥ニ助力スルコト

一〇、厩舎アル宿舍ハ其ノ收容馬匹ニ對シテ馬用水其ノ他ニ助力スルコト

一一、寢具ハ一日以上日光ニ曝シ傳染ノ虞アル患者ノ使用セシモノハ之ヲ避ケ其ノ他洗

面器、水桶、提燈等差支ナキ様有合セノ品ニテ用意シ置クコト

一二、宿營軍人宿舎ニ到着シタルトキハ直ニ手足洗用湯水ヲ出シ速ニ休息シ得ル様配慮スルコト

一三、兵員到着後ハ舎主又ハ舎主ニ代ルヘキ者可成在宅スルコト

一四、宿舎賄一切ノ費用ハ規定ノ給額ヲ以テ支辨シ過不足ナキ様注意スルコト

一五、食料ハ總テ新鮮ノモノヲ用ヒ生物及魚貝類ニシテ中毒シ易キモノハ之ヲ避ケ供食ノ時刻ニ遅延セサル様注意スルコト

一六、傳染病患者ハ勿論其ノ他患者ヲシテ軍隊用飲食物ノ取扱ヲ爲サシメサルコト

一七、手數ヲ省カム爲夕朝食辨當ヲ一時ニ炊事スルカ如キコトナキ様注意スルコト

一八、食事ノトキハ兵員各個ニ配膳シ給仕人ヲ付スルニ及ハス一個ノ飯臺ニ茶碗、汁椀等ヲ載セ飯汁ノ如キモ鍋釜ノ儘ニテ差支ナシ但シ食器ハ特ニ清潔ニスルコト

一九、辨當ハ一食分或ハ二食分ナリヤヲ確メ飯量不足ナク且腐敗シ易キモノヲ用ヒサル様注意シ出發時刻迄ニ必ス調製スルコト

二〇、軍隊ハ生水ヲ飲用セサルヲ以テ煮沸水ヲ提供シ殊ニ出發ノ際携帶スヘキ煮沸水ハ一人三合以上ノ準備ヲ爲スコト

二一、軍人ヨリ依頼ノ事柄ニシテ若シ舎主ノ力ニ及ヒ難キ事項アルトキハ市役所、町村役場又ハ其ノ

出張所若クハ係員ニ申立指圖ヲ受クルコト

二二、出發ノ際ハ遺留品ナキ様注意シ若シ遺留品アリタルトキハ直ニ現品ヲ添ヘ市役所、町村役場又ハ其ノ出張所若クハ係員ニ届出ツルコト

二、軍隊宿營ニ關スル參考

昭和五年四月 參 謀 本 部

演習間軍隊ノ宿營ニ關スル事項概ネ左ノ如シ

一、宿營ノ際軍隊ノ給養ハ自炊ニ依ルヲ本則トスルヲ以テ舎主ヨリ供膳ニ及ハス單ニ湯茶火鉢等ノ類ヲ供給セラルレハ足ル

然ルニ從來往々舎主ニシテ軍人ニ對スル好意上過分ノ響應ヲ爲シ恰モ賓客ヲ待遇スルカ如キ向アルモ是等ハ舎主ノ好意ニ外ナラスト雖モ斯クテハ舎主ノ迷惑ヲ増スノミナラス困苦缺乏ニ堪フヘキ演習ノ目的ニモ悖ル所以ニシテ日常軍隊ノ生活状態ニ鑑ミル時ハ彼等ノ宿營ニ方リテハ寧ロ家庭的ニ遇セラレ遠慮ナク心身ヲ寛キテ休養シ得シムルコトニ著意セラレンコトヲ望ム

又連日ノ演習ニ參加シ疲勞後ナルヲ以テ入浴ハ錢湯ナキ部落ニ於テハ特ニ配慮ヲ煩シ度シ
二、從來宿營ニ方リ兵卒ハ武器尊重ノ念ヨリ銃ヲ座敷ニ持入り居間ノ壁或ハ床間ニ立掛ケ爲ニ是等ヲ毀損セシ例尠カラサルヲ以テ可成屋内ニシテ入口ノ土間等出發ノ際銃ニ便ニシテ雨露ヲ避ケ得ル所ヲ選定シ豫メ銃架（竹竿等ニ繩ヲ卷キタルモノ）準備ヲ爲シ置カルレハ好都合ナリ

三、背囊及裝具等ヲ往々居室ニ持入り疊、敷物等ヲ毀損シ含主ニ迷惑ヲ及ホセシコト尠カラス故ニ爲シ得レハ板間又ハ椽側等適當ナル位置ニ葎ヲ敷ク等裝具置場トシテ豫メ選定シ置カル、ヲ可トス

四、軍隊行動ノ際湯茶ヲ供給セラル、ニ方リテハ兵卒カ行進途中等ニ水筒ニ入レ得ル様土瓶類ヨリ注キ込ミ得ルカ或ハ漏斗ヲ準備シ置カルレハ最モ好都合ナリ

五、雨天ノ際ニ於テハ被服乾燥ノ便ヲ與ヘラレ度之カ爲納屋或ハ土間等ニ於テ物干ヲ行ヒ得ル如ク材料ヲ提供セラレ度シ

六、宿營軍人ヨリ舍營券ヲ受領セハ捺印ノ上速ニ市町村役場ニ差出サル、コト

部隊號、人員等ハ便宜書キ留メ置キ宿舍料受領ノ際參考ニ供スルヲ便トス

之ヲ要スルニ軍隊ノ宿營ニ方リテハ總テ精神的待遇ヲ主トシテ物質的ノ待遇ハ成ルヘク之ヲ避ケラレ度

(昭和五年四月參謀本部)

統監部職員陪觀者等ノ旅籠料定額表

備考	區分	食				宿舍料	計
		朝	晝	夕	食		
一、本表ニ示ス食餉料、宿舍料ハ欠食或ハ宿泊セサルトキハ之ヲ支拂ハサルモノトス	將官	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	四、九〇〇	
	准佐官	一、〇〇〇	八〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	三、七〇〇	
	下士、判任文官	七〇〇	六〇〇	七〇〇	六四〇	二、六四〇	
	兵	五五〇	五〇〇	五五〇	四五〇	二、〇五〇	
	備人(二圓以下給)						

(昭和五年四月參謀本部)

區分	朝食	食晝	食夕	食	宿舍料	計
將官					〇、六五〇	
准佐士官					〇、四五〇	
下士、判任文官	現品給與ヲ本旨トス含主ニ委任 スル場合ハ米麥及脂肪等ニテ一 人約四十錢トス					〇、三二〇
備兵					〇、三二〇	
備考	一、本表ノ食料ハ米麥ノ時價ニ脂肪ヲ加ヘタル概算トス 二、尙各部隊ハ食料ヲ若干増額スルコトアルモ部隊ノ適宜ナルヲ以テ其ノ額ヲ掲記スル ヲ得ス					

第四款 陪觀及拜觀

演習の陪觀は野外統監部に於て概して大本營憲兵の警戒線内で觀戰するを言ひ、拜觀は此の警戒線外演習の妨害ならぬ地點で拜觀するに止まるものである。從て陪觀を被仰付又は許可せらるるものは皇族、親任官、陸海軍武官、外國武官、貴衆兩院議員、陪觀願出の新聞記者及職務の爲め演習地出張する關係地方廳の高等官に限定せられ、其の他の縣廳職員、縣市會議員、地方官公衙、學校職員、地方名望家等は統監部附近に適當な位置の指定を受け(稻月山)其處で特別拜觀を許さるゝこととなつた。

一般民衆の演習拜觀は御警衛に支障なく又軍隊の行動を妨害しない限りは隨意に拜觀出来るが、學校兒童、生徒其の他の公共團體に對しては統監部より拜觀場所を指定せられた。本係に於て取扱ふ事務に付參謀本部と打合せた事項は左の通りである。

一、演習陪觀者願出の範圍。

參謀本部庶務課長口演要旨「演習陪觀並拜觀ニ就テ」中には貴衆兩員議員に止まれり然るに愛知縣(前例)にては縣會正副議長、市長、市會議長(名古屋市に於ては助役及縣會副議長)に陪觀を許可せられあり本縣に於ては如何。

二、特別大演習中は兩縣何れに於ても陪觀拜觀を許可せらるるや。

三、演習陪觀者、特別拜觀者、傷痍軍人等の陪觀拜觀所の設備程度。

四、傷痍軍人及特別拜觀者に對し天幕、椅子等の準備要否要するにせは奉送迎の場所に設備を爲し差支なきや。

五、特別拜觀者中縣會議員のみ別に位置を與へらるべき哉。(二百名の範圍)

一、陪觀及拜觀有資格者調査
イ、陪觀許可手續。

參謀本部の直轄事項に屬し、縣としては職務上演習地に出張する高等官にして陪觀の希望ある者を取纏め稟御をなされた所許可せられた者は左表の通りである。尙陪觀期日は本縣關係の演習第一日に限られ第二日以後は知事以下三部長にのみ許可せられた。

部	係	官	職	氏	名
總務部長		知事		川	馬
兵務部長		內務部長		吉田	治太郎
警務部長		學務部長		藤岡	長敏
總務	秘書係長	警察部長		藤岡	長敏
		地方事務官		沖森	源一

庶務係長	同	同	同	熊野	周二
天覽品係長	同	同	同	奧	久登
委員	同	同	同	峰	松真三郎
同	同	同	同	二宮	實二郎
同	同	同	同	牧野	謙二
設備係長	同	同	同	上野	節夫
委員	同	同	同	藤井	滋香
委員	同	同	同	花井	太一
同	同	同	同	吉村	良
同	同	同	同	犬飼	顯
經理係長	同	同	同	藤井	覺
調査係長	同	同	同	佐藤	利生
接待係長	同	同	同	木村	政司
委員	同	同	同	中丸	平次郎

警務										兵務																																						
衛生係長	特別高等係長	同	委員	保安係長	天覽成績品係長	御親關係長	委員	同副係長	奉送迎係長	兵事係長	同	委員	新聞係長	同	地方小作官	地方農林主事	地方事務官	同	社會事業主事	地方事務官	地方視學官	地方警視	地方警察技師	建築技師	地方警視	地方技師	衛生技師	同	衛生技師	同	委員	救護係長																
赤松	重田	木下	富樫	猪俣	久保	郡山	嶮南	市來	玉置	大道	深瀬	諸橋	赤松	重田	木下	富樫	猪俣	久保	郡山	嶮南	市來	玉置	大道	深瀬	諸橋	赤松	重田	木下	富樫	猪俣	久保	郡山	嶮南	市來	玉置	大道	深瀬	諸橋										
太郎	保	潔	郎	郎	郎	夫	海	郎	一	清	夫	昇	太郎	保	潔	郎	郎	夫	海	郎	一	清	夫	昇	太郎	保	潔	郎	郎	夫	海	郎	一	清	夫	昇	太郎	保	潔	郎	郎	夫	海	郎	一	清	夫	昇

救護係長	同	同	同	委員	衛生技師	地方技師	衛生技師	地方事務官	同	衛生技師	地方技師	衛生技師	地方事務官	
堀田	菅	岩	伊	津	堀田	菅	岩	伊	津	堀田	菅	岩	伊	津
秀次	夫	忠	隆	廣	秀次	夫	忠	隆	廣	秀次	夫	忠	隆	廣

縣職員以外の縣下勅任官等の陪觀に付ては參謀本部當局と打合せを爲した上、許可せらるゝ見込の者に對しては希望の有無を問合せて稟請の結果左の通許可せられた。但し廣島控訴院長、同檢事長、廣島地方裁判所長、同檢事正及廣島遞信局長は夫々主務省より直接に願出で本係より希望の有無を問合せて見るに既に許可済みになつてゐる等事務の連絡上遺憾な點もあつた。

記

- 廣島高等工業學校長 川口 虎雄
- 同 高等學校長 十時 彌
- 同 稅務監督局長 野村 盛康
- 同 地方專賣局長 華山 儀一郎

- 同 市長 伊藤 貞次
- 福山市市長 中野 有光
- 尾道市長 松田 協輔
- 廣島縣會議長 望月 乙也

ロ、特別拜觀許可手續

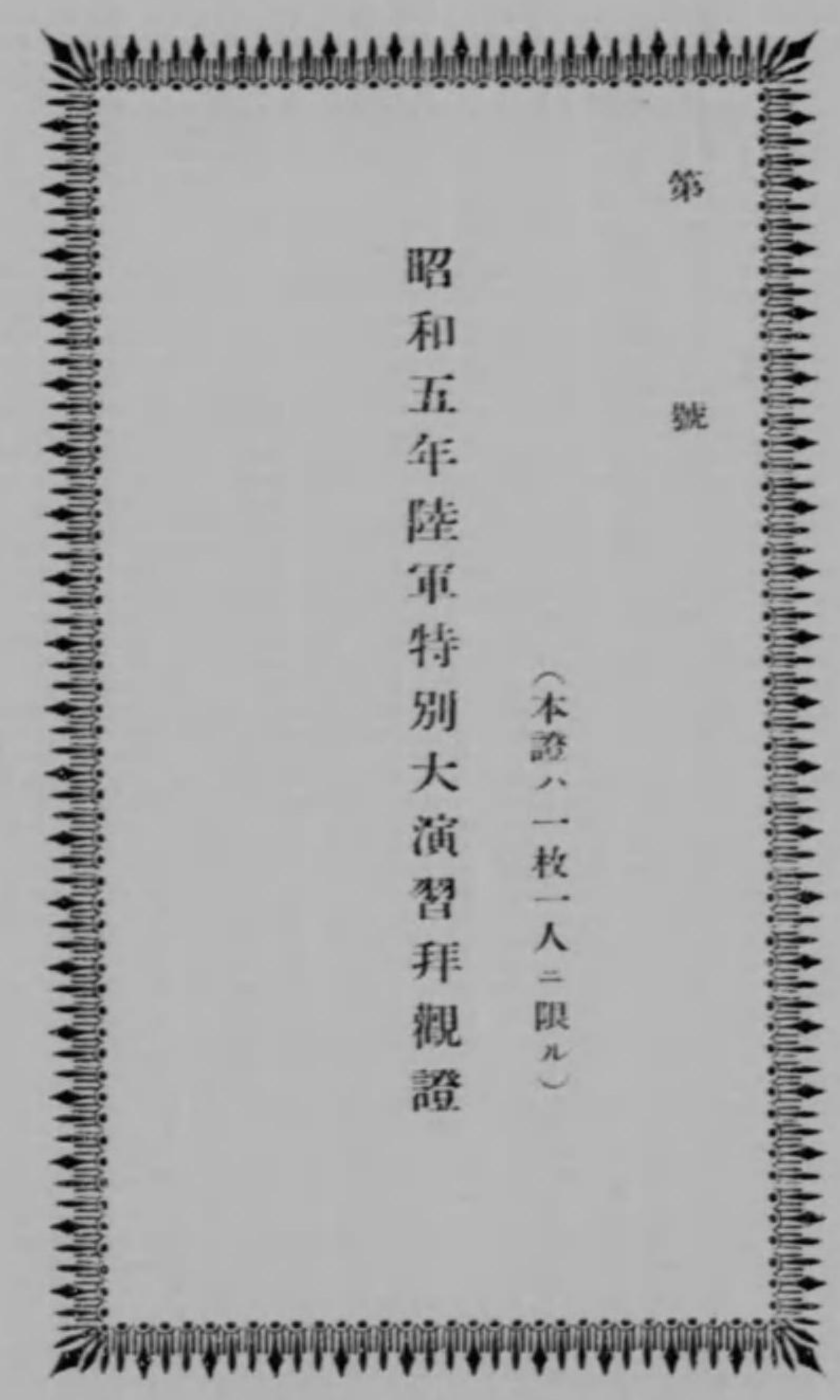
特別拜觀者に付いては參謀本部と打合の上、其の人員を二百人に限定し人選に付ては縣に一任せらるゝ事に決定したので、縣會議員、各種功勞者、各官衙長、中等學校長、奏任待遇を受くる小學校長同補習學校長、神職、市長、市會議長同副議長、町村長、商工會議所會頭、褒賞受領者等の中より野外統監部近接地在住者を考慮し、本人の希望の有無も參照して別表の通り決定した。拜觀者に對しては拜觀證を交付し左の要項を通牒した。

記

- 一、拜觀者兩備鐵道萬能倉驛東方縣道四辻を北に曲り約一丁左側宇宮の下（稻月山）山麓の受付に届出ること。
- 一、當日鐵道及道路公共交通最も混雜すべきを以て可成早く參集せらるゝを可とす。受付は午前七時より開始す。

第 號

面 表



- 一、拜觀者の服装は拜觀證に示す通りなるも當日別途に拜調を賜はる者は所定の服装に依ること。
- 一、拜觀者は警戒線通過の際拜觀證を提示する場合あるを以て必ず携帯すること。
- 一、旅館は斡旋し難きに依り宿泊を要する人は適宜選定すること。

二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
吳市	同	佐伯郡	同	同	安藝郡	廣島市	福山市	尾道市	同	同	吳市	廣島市	同	同	同	同	同	同
朝日町	友和村	小方村	大屋村	江田島村	音戸町	稻荷町	本町	十六日町	濱田町	中通一丁目	市本通八丁目	鐵砲町	幟町	立木町	材木町	船入町	段原町	的場町
仁	森	廣	川	村	池	肥	江	中	山	大	栗	加	福	長	中	山	大	小
田	河	瀬	手	井	田	草	山	本	村	村	藤	田	岡	村	本	井	川	早
竹	憲	太	之	政	一	之	太	太	龍	信	米	俊	五	清	桂	久	新	新
一	三	郎	助	一	二	助	郎	郎	二	二	一	夫	郎	藏	堂	雄	島	一

裏 面

五	四	三	二	一	番 號				
同	同	同	同	同	種 別				
同	同	同	同	同	住 所				
同	同	同	同	同	氏 名				
南	河	福	段	廣	角	西	木	吉	任
竹	原	島	原	島	森	村	岡	都	栗
屋	竹	原	原	市	好	榮	初	栗	太
町	屋	町	町	市	藏	藏	茂	郎	司

特別拜觀者名簿

一、拜觀者ハ十一月十四日午前八時三十分迄ニ左記場所ニ到リ
 本證ヲ提示シ係員ノ指示ヲ受ケルコト
 深安郡下加茂村字宮ノ下(稻月山)
 二、拜觀者ハ靜肅ヲ旨トシ喧騒ニ涉ラサル様注意スルコト
 三、拜觀者ノ服裝ハ「フロックコート」又ハ「モーニングコ
 ト」黒山高帽ヲ常例トスルモ其ノ他ノ洋服、羽織、袴等、
 不敬ニ涉ラサルモノニテ差支ナシ
 四、拜觀者ニハ當日喪食辨當ヲ望ム
 五、警戒線通過ノ際ハ係員ニ本證ヲ提出スルコト

二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四
廣島 刑務所 長	同 監 督 判 事	同 監 督 判 事	尾道 區 稅務 署 長	同	紺受 褒章 受領者	宗教 功勞者	消防 功勞者	軍事 功勞者	社會 事業 功勞者	教育 功勞者	同	同	同	同	同	同	同	同
				福山市	御調郡	深安郡	沼隈郡	廣島市	廣島市	沼隈郡	蘆品郡	福山市	御調郡	福山市	福山市	沼隈郡	福山市	蘆品郡
				深津町	下川邊村	御野村	本郷町	尾長町	水主町	鞆手村	戸手村	新馬場町	立花村	入船町	松永町	鍛冶屋町	新市町	
吉川	中川	田中	河原	藤井	喜多	佐藤	石井	天野	柏野	高田	平林	小田	瀬林	河相	甲斐	丸山	安部	福原
三	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
雄	明	智	右	清	範	喜	太郎	太郎	秀	之	照	大	三	三	茂	和	寅	
司	八	作	潔	門	人	雄	一	郎	九	雄	助	旭	郎	郎	助	助	吉	

三	二	一	七五	七四	七三	七二	七一	七〇	六九	六八	六七	六六	六五	六四	六三
同	同	實業功勞者	福山市 商工會議 所	福山市 會議 所	福山 南 尋 常 小 學 校 長	福山 高 等 女 學 校 長	福山 師 範 學 校 長	地方 技 師	福山 工 場 長	神石 支 廳 長	同 檢 事	監 督 判 事	福山 區 稅 務 署 長	福山 區 稅 務 署 長	社會 事業 功勞者
沼隈郡	福山市	蘆品郡													福山市
浦崎村	住吉町	戶手村													雙三郡 三良坂町
田	河	信	坂	三	相	橫	戶	橋	石	佐	山	原	石	坂	河
頭	村	岡	本	谷	原	田	津	橋	橋	々	木	根	田	井	野
玉	榮	錦	政	芳	道	泰	吉	爪	龜	類	三	左			野
吉	一	一	七	松	登	邦	助	陽	雄	郎	治	近	潔	守	市

四一	蘆品郡府中町 商工學校長	遠藤	市忠
四二	尾道市筒湯尋高 小學校長	兒玉	市衛
四三	松永尋高小學校長	篠原	市衛
四四	嚴島神社宮司	池原	文衛
四五	速谷神社宮司	山田	文衛
四六	沼名前神社宮司	林順	文衛
四七	吉備津神社宮司	川保	道郎
四八	福山市助役	石田	道郎
四九	尾道市會議長	野田	吉郎
五〇	深安郡道上村長	中山	造郎
五一	同 神邊町長	重政	造郎
五二	同 中條村長	松岡	量造
五三	同 千田村長	藤井	郎
五四	深安郡中津原外 三ヶ村組合村長	好井	郎
五五	同 湯田村長	茂原	夫
五六	同 手城村長	佐藤	勇
五七	同 引野村長	土肥	市

二三	福山營林署長	水口	三文
二四	蠶業試驗場長	大竹	郎
二五	廣島師範學校長	淺賀	郎
二六	三原女子師範學校長	山崎	郎
二八	尾道中學校長	中山	吉郎
二九	尾道中學校長	佐藤	知
三〇	女松永高校長	堀島	重
三一	女府中高校長	松本	正
三二	尾道商業學校長	前田	正
三三	戶手實業學校長	大久保	清
三四	沼南實業學校長	後藤	郎
三五	市村農學校長	福原	郎
三六	深安實業學校長	原田	郎
三七	尾道中學校長	吉田	吉郎
三八	濟美實科高等 女學校長	北村	最
三九	尾道商業實務學 校長	占部	一
四〇	御調郡重井村 公民學校長	佃俊	夫

九四	九三	九二	九一	九〇	八九	八八	八七	八六	八五	八四	八三	八二	八一	八〇	七九	七八	七七	七六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	沼隈郡	同	同	同	同	同	同	同	同	同
松永町長	今津町長	山波村長	高須村長	東村長	本郷村長	神村長	山手郷分長	網引村長	網引村長	有磨村長	岩谷村長	府中町長	福相村長	栗生村長	常金九村長	阿字村長	服部村長	服部村長
橋	河	小	井	小	石	橋	三	高	大	井	市	橋	福	岡	長	後	高	大
高	本	林	上	川	井	高	谷	橋	村	上	川	高	島	田	岡	藤	橋	元
銀					紋							松	利					重
三	基	辰	一	貫	次	範	吉	泰	芳	類	壽	太	太	主	健	關	太	
郎	一	吉	郎	一	郎	一	太	一	松	稟	藏	一	郎	治	殿	一	藏	郎

七五	七四	七三	七二	七一	七〇	六九	六八	六七	六六	六五	六四	六三	六二	六一	六〇	五九	五八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
廣谷村長	新市町長	國府村長	河佐村長	大正村長	宜山村長	近田村長	蘆品郡驛家村長	深安郡御野村長	春日村長	川口村長	廣瀬村助役	山野村長	村組合長	八尋外二ヶ	吉津外三ヶ	市村長	大津野村長
赤	奧	豐	前	三	石	信	門	山	藤	多	川	藤	猪	土	增	内	秋
毛	田	田	原	木	井	岡	利	下	井	木	中	原	原	屋	成	山	田
百	直			丈	半	龜	忠	利	精	英	賀	政	勝	百			
太	太	芳	義	左	五	太	右	久	太	太	太	太	太	之	義	利	孝
郎	郎	郎	人	門	郎	郎	門	治	一	三	郎	一	郎	助	男	一	一

一一九	一二八	一二七	一二六	一二五	一二四	一二三	一二二	一一一	一一〇	一一九	一一八	一一七	一一六	一一五	一一四	
紺綬褒章受領者	尾道商工會議所長	神職支會長	沼隈郡支會長	福山市教育支會長	蘆品郡御野村神職	同賀茂村神職	同湯田村神職	同中津小學校長	同岩成小學校長	長成寺自強小學校	深安郡下加茂校	同神邊小學校長	深安郡道上小學校	同栗原町長	同吉和村長	同糸崎町長
蘆品郡府中町																
延坂	貫井	中島	津田	宮永	岡田	德永	清水	柏原	三好	黒瀬	武田	杉原	畑原	内藤	藤	知
藤吉兵衛	井善兵衛	井常	島博	田論	永信	永正	水嘉	原喬	好松	瀬正	田財	野原	又	藤	知	之
衛	衛	司	光	吉	義	明	進	郎	彦	郎	美	一郎	一郎	一	一	一

一一三	一一二	一一一	一〇九	一〇八	一〇七	一〇六	一〇五	一〇四	一〇三	一〇二	一〇一	一〇〇	九九	九八	九七	九六	九五	
同今津村長	同八幡村長	同河内村長	同市村助役	同上川邊村長	同上川邊村長	同美濃郡深田村長	同御調郡諸田村長	同山中村長	同三原町長	同御調郡原田村長	同賀茂郡西條町長	同山南村長	同藤江村長	同金江村長	同草組外ヶ長	同津ノ郷村長	同西村長	
前新																		
原田兼	村上壽	光清	原和	崎九	末治	庭辨	庭佳	田仲	田	口	峰	野	山	山	前	小	青	
兼	壽	清	和	九	末	治	辨	佳	仲	田	口	峰	野	山	山	前	小	青
衛	衛	司	光	吉	義	明	進	郎	彦	郎	美	一郎	一郎	一	一	一	一	一

二、諸 規 程

一、拜 觀 者 心 得

廣島縣告示第六百七十七號

本年施行ノ陸軍特別大演習ニ關スル演習拜觀者ノ心得左ノ通定ム

昭和五年十月七日

廣島縣知事

川

淵

洽

馬

特別大演習拜觀者心得

- 一、演習拜觀者ハ警察官吏、憲兵又ハ演習係員ノ指圖ニ從ヒ濫リニ指定地外ニ在リテ軍隊ノ行動ヲ妨害セサル様注意スルコト
- 二、拜觀者ハ靜肅ヲ守リ軍隊ノ指揮號令等ヲ妨害セサル様注意スルコト
- 三、拜觀者ハ軍旗ニ對シ敬禮ヲ行フコト
- 四、拜觀者ハ可成團體ヲ成シ引率者ヲ定メ各個ニ行動セサル様注意スルコト
- 五、拜觀者ハ演習係員又ハ陪觀者用ノ徽章其ノ他ノ標識ト紛ハシキ物ヲ用キ或ハ旗幟等ヲ掲ケサルコト
- 六、老幼者、病弱者ニハ必ス相當ノ保護者ヲ附シ特ニ小兒ハ迷子トナラサル様注意スルコト
- 七、耕地ニ立入り其ノ他農作物ヲ踏ミ荒シ又ハ垣、塀、樹木等ヲ毀損スルカ如キコトナキ様注意スルコト

ルコト

- 八、野外行幸道路ニ在リテハ路上ニ整列スルヲ避ケ道路外適當ノ位置ニ整列スルコト
- 九、道路ヲ填塞シ又ハ散兵線若ハ密集部隊ノ正面前ニ停止シ或ハ伏兵、潛行兵ノ附近ニ集合スル等軍隊ノ行動及射撃ノ妨害トナラサル様注意スルコト
- 一〇、軍隊ノ行軍ニ遭遇シタルトキハ隊伍間ニ混リ又ハ先頭及兩側ニ進ミ若ハ追尾シテ其ノ行進ヲ妨害スルカ如キコトナキ様注意シ可成他ノ道路ヲ採ルカ相當ノ間隔ヲ置キテ後方ヨリ進行スルコト
- 一一、橋上、凸道、凹道又ハ水田中ヲ通スル道路等ニ於テ砲兵及騎兵部隊ト遭遇シタルトキハ可成速ニ通過シ停止シテ拜觀スルカ如キコトナキ様注意スルコト
- 一二、軍隊ノ休憩中ト雖隊伍ノ附近ニ集合シ又ハ銃器ノ置場、軍馬ノ繫留所、糧秣ノ集積地等ニ近寄ラサルコト
- 一三、防禦陣地、歩哨線又ハ軍隊ノ露營地附近ニ集合シ若ハ露營セサルコト
- 一四、演習中ハ晝夜ニ拘ラス喇叭ヲ吹奏シ又ハ屋外ニ於テ焚火ヲ爲シ若ハ煙火ヲ打上クルコトナキ様注意スルコト
- 一五、砲兵ハ木彈ヲ發射スルヲ以テ砲兵陣地附近ハ危險多ク從來ノ演習ニ於テ即死者又ハ重傷者ヲ出シタル例少カラス故ニ陣地ノ前方ニ接近セサルハ勿論假令後方ト雖俄然砲車ヲ轉回スルコトア

ルヲ以テ砲車ノ位置百米以内ニ接近セサル様特ニ注意スルコト

一六、小銃、機關銃ト雖空包發射中(小銃ハ五十米、機關銃ハ百米以内)ハ勿論兵器ノ手入中ハ危険多キヲ以テ接近セサル様注意スルコト

一七、小銃空包及打殼、藥莢、照明彈等ハ危険ノ虞アルヲ以テ之ヲ拾得シタル時ハ速ニ警察官吏又ハ憲兵ニ差出スコト

一八、糧秣集積地、航空機格納庫及彈藥庫ノ附近ニ於テ喫煙セサルコト

一九、野外統監部及御發着停車場、御休所附近ハ統監部職員、陪觀者並車馬輻輳スルヲ以テ接近セサル様注意スルコト

二〇、臨時架設ノ電線ハ其ノ架設方法極メテ簡單ニシテ樹木ニ添架シ又ハ地上ニ敷設スルヲ以テ之ニ觸レサル様注意シ若切斷、損傷等ヲ發見シタルトキハ軍隊、警察官吏又ハ憲兵ニ通報スルコト

二一、軍馬ニシテ白布ヲ繫ニ附セルモノハ咬癖、尾毛ニ附セルモノハ蹴癖アルヲ示スモノナルカ故ニ注意シテ近寄ラサルコト

二二、傷病者アルトキハ警察官吏又ハ市町村吏員ニ通報スルコト

二三、飛行機觀覽ニ就テハ左ノ各項ニ注意スルコト

イ、飛行隊ノ許可ナクシテ飛行場ニ立入ラサルコト

ロ、飛行機ノ離着陸方向ニ位置スルハ極メテ危険ナルヲ以テ注意スルコト

ハ、着陸後ト雖全然停止スルニ至ル迄ハ危険ニ付注意スルコト

ニ、不時着陸ノ状態ヲ示シタルトキハ其ノ近傍ニ在ル者ハ直ニ退避スルカ若ハ樹木、家屋、堤防等ノ許ニ集合スルコト若其ノ邊ナキトキハ直ニ伏臥スルコト

ホ、飛行機ノ降下ハ概ネ發動機ノ爆音不規則又ハ停止、プロペラノ廻轉緩徐ナル等ノ顯著ナル異状ニ依リ之ヲ豫知スルコトヲ得ルヲ以テ濫ニ周章狼狽シテ着陸ノ支障ヲ來サシメサル様注意スルコト

ヘ、飛行機ノ着陸ニ際シ異状ヲ認メタルトキハ速ニ救護ニ努メ一面最寄軍隊又ハ警察官吏若ハ演習係員ニ急報スルコト

ト、不時着陸ノ際人命ニ異状アリタルトキハ救護上必要ナルモノヲ除キ器材ハ其ノ儘トシ當局ノ臨場アル迄現狀ヲ保存スルコト

參 課 本 部

二、昭和五年特別大演習陪觀者心得

一、陪觀者ノ宿舍ハ統監部ニ於テ岡山市ニ準備シマス

二、陪觀ヲ許可セラレタル者ハ十一月十三日岡山市ニ到着ノ上直ハ岡山驛前ニ在ル統監部管理部出張

所ニ届出テ下サイ

三、陪観者ニシテ制服ナキ者ノ服装ハ左ノ各項ニ據ルコトニナツテキマス

(イ) 大本營ニ奉伺シ又ハ拜謁ヲ賜ハル場合及賜饌場ニ參入スル場合ハ「フロックコート」、「シルクハット」デアリマス但シ大本營ニ奉伺シ又ハ拜謁ヲ賜ハル場合ニハ「モーニングコート」、「黒山高帽ヲ用フルコトガ出来マス

(ロ) 野外ニ於テ演習ヲ陪観スル場合ハ「フロックコート」又ハ「モーニングコート」、黒山高帽ヲ著用スルヲ例トシテ居リマスガ場合ニ依テハ不敬ニ亙ラナイ服装ヲ爲シ(側近ニ位置スル場合ヲ除ク)又乗馬者ハ短袴^{色ハ適宜}長靴ヲ著用スルモ差支アリマセン

(ハ) 親兵式ヲ陪観スル場合ハ洋服若ハ羽織袴等不敬ニ亙ラナイ服装ヲ差支アリマセン

四、統監部指定ノ宿舍ニ宿泊スル者ノ旅籠料ハ左表ノ通りデ各自直接舍主ニ仕拂ツテ下サイ

區	分	朝食料	晝食料	夕食料	宿舍料	計
勅任官及之ニ準ズル者	一	一圓三十錢	一圓	一圓三十錢	一圓三十錢	四圓九十錢
奏任官及之ニ準ズル者	一	圓	八十錢	一圓	九十錢	三圓七十錢
判任官及之ニ準ズル者	七十錢	六十錢	七十錢	六十錢	六十四錢	二圓六十四錢

五、演習開辨當ヲ要スル時ハ陪観者各自デ準備シテ下サイ

六、陪観ニ關スル指示、通報及演習ニ關スル圖書等ハ宿泊地ニ到着、統監部掛員ニ届出ノ際交付シマス

七、陪観者ニハ陪観徽章ヲ交付シマスカラ演習間(親兵式終了迄)之ヲ左腕^{雨覆ヲ着用シタル場合ハ外面相當部}ニ纏フテ下サイ但シ用済後ハ必ず統監部(參謀本部)ニ返納シテ下サイ

八、演習地ニ於テハ軍隊ノ動作ヲ妨害スル地點ニ位置セザル様注意シテ下サイ

九、見聞セル兩軍ノ位置及行動等苟モ對手軍ノ參考トナルベキ事項ハ演習終了迄他ニ漏洩シテハイケマセン

一〇、車ニ關シテハ別紙(車準備要領)ヲ御覽下サイ

二、宿舍到着日時決定ノ上ハ速ニ參謀本部庶務課^{十一月九日以後ハ岡山市女子師範學校内統監部管理部}宛ニ御知ラセ下サイ

三、以上規定セル外陪観者ニ關スル一切ノ事項ハ統監部管理部(演習前ハ參謀本部庶務課)ニ於テ處理致シマスカラ必要アル方ハ同部(課)へ御問合ハセ下サイ

參謀本部電話番號

銀座

自四一四一
至四一五二

(注意)

一、從來往々豫定ノ日時ニ宿舍ニ到着セラレナイカ又ハ其日時ヨリ早く到着セラルル爲宿舍準備

上離離ヲ來シ含主ニ對シ迷惑ヲ掛ケタル實例ガ尠クナイノデ若シ豫定日時ニ到著スルコトガ出來ナイカ或ハ陪觀ヲ取止メラルルカ若ハ豫定ヨリ早ク到著セラルル方ハ豫メ其到著日時又ハ取止ノ旨ヲ參謀本部庶務課十一月九日以後ハ岡山市女子師範學校内統監部管理課宛ニ通知シテ下サイ

二、岡山市ニ於ケル知人ノ宅ニ宿泊セラルル方ハ其町名及含主ノ氏名ヲ前項ニ準シ遅クモ十月二十日迄ニ御知ラセ下サイ然ラザレバ統監部ニ於テ他ノ宿舍ニ充當スルコトガアリマス又自己ノ便宜上岡山市以外ニ宿泊セラルル場合ハ演習開始前ニ在ツテハ前項ニ準ジ成ルベク速ニ通知シ演習間ニ在ツテハ統監部管理課宿舍掛及同陪觀者掛ト協議ノ上含主ニ豫報シテ下サイ

此場合ニ於ケル宿舍ハ統監部ニ於テ準備シマセン又遠隔ノ地ニ宿泊セル方ノ爲ニハ戰況其他ニ關シ特別ノ通報ヲ發スルコトガ出來マセンカラ適當ナル連絡ノ途ヲ講ジテ下サイ

三、前各項ノ通知往々ニシテ直接宿主ノミニ發送セラルル爲諸準備ニ離離ヲ來スコトガアリマスカラ必ズ統監部管理課(參謀本部庶務課)へ御通知ヲ願ヒマス

昭和五年十月

三、特別大演習拜觀者取締ニ關スル參考

拜觀者取締ニ關シ軍部ノ希望トシテ警察官ノ參考ニ供スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一、日々統監部又ハ一般拜觀者掛將校ニ就キ軍隊ノ行動ヲ妨害スルコトナク而モ拜觀者ニ便ナル地點ノ指示ヲ受ケ拜觀者ヲ努メテ指示セラレタル地點ニ誘導セラレ度

但シ傷痍軍人、在郷軍人、學校生徒等ノ拜觀團體ニ對シテハ別ニ之ヲ規定ス

二、拜觀者ヲシテ靜肅ヲ守リ演習軍隊ノ指揮ト號令又ハ行動等ヲ妨害セサル様注意アリタシ

拜觀者ハ市街ニ於テハ行幸道路ノ廣狹ニ依リ一側若クハ兩側ニ整列スルハ已ムヲ得サルモ野外ニ於テ行幸道路附近ニ在ル民衆ハ努メテ路外適宜ノ地ニ整列セシメラレタシ

三、拜觀者道路ヲ填塞シ又ハ部隊ノ正面前ニ停止スル等凡テ軍隊ノ行動又ハ射撃ノ妨害トナルヘキ行爲ナキ様注意セラレタシ

四、凹道、凸道又ハ水田中ヲ通スル道路等ニ於テ砲兵及騎兵部隊ト遭遇スルハ甚タ危險ナルヲ以テ拜觀者此等ノ部分ヲ通過スル際ハ深甚ノ注意ヲ拂ヒ且可成急速ニ通過シ終ラシメ又凸道及水田中ヲ通スル道路上等ニ於テ拜觀スルコトハ可成避ケシメラレタシ

五、砲兵ハ木彈ヲ發射スルヲ以テ決シテ砲口前ニ出サシメサルハ勿論假令後方ト雖モ俄然砲車ヲ轉回スルコトアルヲ以テ甚タシク砲車ノ位置(百米以内)ニ接近セシメサルヲ要ス又附近ノ草叢等ノ後方ニ遮蔽シアルカ如キハ特ニ危險ナリ

從來ノ演習ニ於テ是等ノ注意ヲ缺キ往々拜觀者ニシテ即死又ハ重傷セルコトアリ

- 六、小銃、重機關銃ト雖モ空包發射中（小銃ハ五十米、機關銃ハ百米以内）ハ勿論其他兵器手入中等ニ於テモ過度ニ接近スルハ危険ナルヲ以テ注意セシメラレタシ
- 七、行進スル軍隊ノ先頭及兩側ニ集團行進セシメサルコト又學校生徒ノ如キ集團シテ拜觀スル者ハ數團トナリ行軍スル軍隊ノ間ニ入ラシムルコトナク他ノ道路ヲ採ルカ或ハ軍隊ノ後方ヨリ行進セシムル如ク指導セラレタシ
- 八、防禦陣地、歩哨線又ハ軍隊ノ露營地附近ニ拜觀者群集シ又ハ露營スル等ノコトハ避ケシメラレタシ
- 九、拜觀者ヲシテ濫ニ焚火ヲ爲サシメサル様注意アリタシ軍用電線就中地上ニ敷設シアル被覆線ノ附近ニアリテハ特ニ然リトス
- 一〇、野外統監部及御發著停車場、御講評場、賜饌場、附近ハ統監部職員、陪觀者、並車馬輻輳スルヲ以テ一般拜觀者ヲ接近セシメサル様注意アリタシ
- 一一、觀兵式ノ際一般拜觀者ヲ軍隊及陪觀資格者ノ後方ニ整列セシメ拜觀セシムルハ差支ナキモ軍隊及陪觀資格者トノ間ニ相當ノ距離（約三十米）ヲ取り兩者ト判然區別シ得シメ又御警衛上遺漏ナキ様注意セラレタシ
- 一二、臨時架設セシ軍用電線ハ樹木ニ添架セルモノアリ又單ニ地上ニ敷設セルモノアリ斯ノ如ク架設

法單簡ナルヲ以テ往々拜觀者若ハ住民等之ニ觸レ或ハ之ヲ蹂躪スルコトアリ特ニ一種好奇ノ念ヲ以テ被覆線ノ接續部ヲ分解シ或ハ電線ノ一部ヲ切り取ル等ノコトアルヲ以テ嚴ニ注意ヲ加ヘラレタシ

若シ取締警察官ニシテ軍用電線ノ破損、切斷等ノ事實ヲ見聞セラレシトキハ速ニ最寄統監部員、又ハ軍隊ニ通報セラレタシ

一三、拜觀者ヲシテ可成耕地ニ立入ラシメヌ又已ムヲ得ヌ立入ルモ耕作物ヲ損傷セシメサル様特ニ注意セラレタシ

拜觀者ノ與ヘタル損害ニ對シテハ陸軍官憲固ヨリ賠償ノ責ニ任セス而モ從來ノ經驗ニヨレハ此種損害ハ軍隊ノ與フルモノニ比シ却テ多大ナリ取締警察官ニシテ拜觀者ノ耕作物ヲ損傷スルヲ現認セラル、場合ニ於テハ口頭若ハ筆記（可成筆記トシ共用紙、形式等ハ隨意トス）ニテ損害賠償掛、統監部又ハ最寄軍隊ニ其日時、場所及程度等ヲ通告セラレタシ

一四、軍馬ニシテ白布ヲ繫ニ附セルモノハ咬癖、尾毛ニ附セルモノハ蹴躓アルヲ示スモノナルヲ以テ特ニ注意ヲ加ヘラレタシ

一五、拜觀者其他ノ取締ニ關シ演習部隊ノ指揮官ヨリ臨時要求アルトキハ努メテ便宜ヲ與ヘラレタシ

三、事務分擔表

月 日	分 擔 事 務	委 員 名
十一月十二日	傷痍軍人宿舍設備並食事交渉	吉田
	傷痍軍人ノ食事及寢具交付	吉田、山崎、小林
十一月十三日	同受付及徽章並食券交付	遠山、新谷
	特別拜觀及團體拜觀場ノ設備	山崎、小林、永井
	傷痍軍人ノ食事交付及寢具受取	吉田、小林
	特別拜觀團體ノ受付及食事券徽章交付	山崎、遠山
	傷痍軍人受付及食事券徽章交付	新谷、吉田
十一月十四日	特別拜觀團體ノ接待誘導	山崎、渡邊、中原、石井
	傷痍軍人ノ接待誘導	吉田、小林、遠山、新谷
	一般拜觀團體ノ湯茶供給誘導	小林、永井

四、事務概要

イ、事務細目

種 別	區 分	實 行 事 項	委 員
演習陪觀及拜觀 ニ關スル事項	野外統監部	一 陪觀ヲ許サル者ノ人員調査 一 陪觀者心得送付 一 陪觀徽章送付 一 陪觀證送付	一人
	特別拜觀者	一 縣廳職員、縣市會議員及地方官公 一 街學校職員及地方名望家人員調査 一 拜觀者名簿作製 一 拜觀證調製 一 拜觀者心得交付 一 拜觀所設備	五人 三人兼
		一 宿料給與 一 敷物準備 一 宿舍斡旋 一 拜觀徽章交付	

	傷夷軍人拜觀者	五人	二人兼
	團體拜觀者	五人	四人兼
觀兵式陪觀ニ關スル事項	觀兵式陪觀者	全員	山崎、小田 河野、楡垣 吉田、神崎 小林、村上 遠山、山岡

ロ、陪觀及特別拜觀

- 一、職務を以て演習地に出張する縣高等官並に判任官に對する陪觀徽章及標識を交付せられ度旨九月三十日付を以て參謀本部庶務課長に照會したるを以て送付あり次第關係者に交付すること。
- 二、縣職員、縣市會議員、地方官公衛、學校職員及地方名望家等野外統監部附近に於て特に演習を拜觀せしめらるべき者（特別拜觀團體）は調査中に付人員決定次第拜觀許可の旨夫々通知すること。
- 三、特別拜觀者に對する拜觀證及注意事項は目下調製中に付出來次第送付すること。
- 四、縣特別拜觀團體及廣島、岡山兩縣の在郷將校を接待すること。
- 五、學校生徒其の他公共團體の演習拜觀に付ては其の希望を取纏め本年九月五日參謀本部庶務課長に照會したるに十一月一日其の集合場所、日時、注意事項等通知ありたるを以て同月四日日本縣學務部長より關係團體へ通知並に注意したり。

學校其の他團體演習拜觀一覽表

拜觀月日	拜觀場所	拜觀團體數	人員
十一月十四日		五五	九、六〇八

同	深安郡湯田村要害山	二三三	二、三七六
同	岡山縣金光驛附近	二四	四九七
同	岡山縣總社町附近	一二	一、〇〇五
同	岡山縣總社町附近	五	二四九

演習當日業務

- 一、縣特別拜觀團體係員は午前七時迄に深安郡下加茂村字宮の下（稻月山）入口に集合の上受付を設けし尙敷物及湯茶供給の設備を爲すこと。
- 二、午前十時頃縣特別拜觀團體及在郷將校に茶果の饗應を爲し同十一時頃縣特別拜觀者のみに晝辦當を配給すること。
- 三、縣特別拜觀者中福山市役所に於て拜謁を賜はるものに對しては零時三十分方能倉驛發汽車にて出發方注意すること。
- 四、學校其他公共團體演習拜觀係員は午前七時深安郡湯田村要害山に集合し湯茶供給の設備をなすこと。

ハ、傷痍軍人演習拜觀

事務經過

一、參謀本部青木副官口演要旨に基き奉送迎並演習拜觀を希望する傷痍軍人調査方本年七月十一日付を以て本縣學務部長より神石支廳長及各市町村長に對し照會したるに夫々回報ありたるを以て、拜觀希望の傷痍軍人名簿三通を作製し九月三十日知事より參謀本部へ送付したり。其内譯左の如し。

將 校 三名
 下士以下 三百二十五名
 附 添 人 二十七名
 計 三百五十五名

- 二、傷痍軍人にして遠距離より來集する者の爲め野外統監部の附近たる深安郡道上村道上尋常高等小學校の敷室を借り受け之か宿舍に充當すること、せり。
- 三、傷痍軍人宿泊に要する寢具（毛布）壹千枚借用方第五師團經理部へ照會したるに貸與方回報ありたるを以て十一月十一日通運會社をして荷造の上同月十二日中に深安郡道上尋常高等小學校へ到着する様命し置きたり。

四、演習拜觀の傷痍軍人に對し十月三十一日付を以て學務部長より市町村長經由演習拜觀證を夫々送付したり。

五、係員は本兼務の別なく十一月十三日午後二時迄に道上尋常高等小學校に集合し當夜宿泊すへき傷痍軍人の接待並に就寢の斡旋を爲すこと。

演習當日業務

一、係員は午前七時迄に傷痍軍人の奉送迎並演習拜觀場所（正戸山東南側入口）適當の位置に受付を設置し尙敷物及湯茶供給の設備を爲すこと。

二、演習を拜觀する傷痍軍人に對しては奉送迎の際侍從武官を御差遣の上御慰問あらせらるゝに付拜觀希望の傷痍軍人を調査し最終（異動なき分）の名簿を三通調製の上參謀本部係員に提出するべし。

三、前夜道上尋常高等小學校に宿泊せる傷痍軍人を第一項の場所に着御一時間三十分前迄に誘導奉迎せしむること。

四、戰況拜觀希望の傷痍軍人に對しては統監部職員の指示に従ひ之を拜觀せしめ還御の際再び舊位置に整列奉迎せしむること。

五、午前十一時三十分頃傷痍軍人に對し晝辦當を交付すること。

二、觀兵式陪觀

事務經過

一、觀兵式陪觀を許可せらるへき者の希望概數回報方本年四月十七日付を以て參謀本部庶務課長より照會ありたるを以て五月七日日本縣學務部長より神石支廳長、中等學校長、市町村長に對し之か希望者調査方を照會したり其の回答に依り同月二十六日參謀本部庶務課長に回答したり其の種類左の如し。

記

第一號	八人	第二號	十五人
第三號	四百二人	第四號	七百五人
第五號	百五十四人	第六號	六十團體 千六百六十一人
第七號	八人	第八號	六十八人
第九號	九百十四人	第十號	百五十五人
計	三千五百七人		

二、觀兵式陪觀者輸送に關し廣島、岡山兩運輸事務所に對し臨時列車増發方照會せしに増發の旨回答ありたるを以て關係者に夫々通知済なり。

三、十月七日參謀本部庶務課長より陪觀證、陪觀位置圖、注意書等送付ありたるを以て同月二十九日日本縣學務部長より關係者に對し書留郵便を以て夫々送付濟なり。

四、觀兵式陪觀係の者は十一月十六日岡山市に到着し觀兵式當日の事務に付岡山縣當局と打合せ置くこと。

五、係員は當日觀兵式場に至り各擔任事務に従事すること。

五、設 備

一、特別拜觀團體演習拜觀所として深安郡下加茂村宇宮の下（稻月山）に五十人分の腰掛（打付）又岡山西南の位置に二間三間の天幕一張建設方設備係へ照會し十一月十三日迄に建設を了した。

二、岡山麓東南の位置凹地に一ヶ所便所を設備した。

三、團體拜觀場所たる要害山及茶臼山の數ヶ所に假便所を設備した。

第五款 馬 繫 場

一、業務計畫要領

一、荒谷兼康技手は十一日正午迄に深安郡神邊町役場に到着し左記事項を統監部員及神邊町長と打合せをなす。

1. 統監部員並に馬匹の宿泊すへき確定數。

2. 馬繫場の設備。

3. 馬糧（麥、藁、干草）の有無但し急遽必要の場合の設備。

4. 人夫自十一月十一日十四日四日間毎日三人の豫定。但し十四日は二人。

備考 人夫は左記によるもの

一、人夫は可成青年團員、在郷軍人にして年齢二十歳より四十歳迄のものとし健全にして可成

一名は自轉車に乗り得るもの。

一、賃金は一日金壹圓貳拾錢迄支給

5. 縣廳、縣出張所、兵事課出張所（道上村役場）との連絡。

6. 馬匹の警戒の爲め在郷軍人會及青年團に依頼。

7. 馬繫場の設備に關し左の事項を協議す。

イ、馬糧を給する器具（桶）の入否

ロ、馬飲水を使用する爲實業學校、小學校の兩馬繫場にバケツ備付に關する件

ハ、馬洗に使用するためバケツを兩馬繫場に備付に關する件

ニ、藁切器械を兩馬繫場に備付の件

ホ、馬糧集積所の濕氣、火氣に關する件

へ、馬糞を除去する爲め兩馬繋場に各筈五本塵掻き五挺塵取五挺を設備するの件
ト、不審番に要する薪炭及火鉢等の入否に關する件

8. 以上に要する經費に關する件

一、檜垣屬は尾道市、御調郡吉和村、市村及沼隈郡松永町等に宿泊せる馬匹の馬糧配給狀況を視察す。

十一月十二日

一、荒谷技手、兼安技手は馬繋場並に馬糧供給に要する器具の清潔整頓に注意し要すれば人夫三名を役して之を爲さしめ常に軍部並に町村役場吏員と協議し馬糧供給其他諸般の事務をなす。

一、荒谷技手、兼安技手は交互に馬繋場を巡視し馬匹の衛生保健に注意す若し病馬を發見したるときは速に軍部係員に通知す。

一、馬糧供給に關し經費支出に關する事項若くは重要職務にして上司の指揮を得ることあらは直に特使若くは神邊町役場又は最寄電話を以て道上村役場(電話下加茂局二四番)に打合せをなす。

一、檜垣屬は福山市に至り福山市に於ける馬繋場の設備及馬糧の設備供給等に關し市の關係吏員と打合協議す。

十一月十三日

一、荒谷技手、兼安技手は人夫三名を役して軍馬の手助け又は馬糧配給の補助を爲し若くは時々馬繋場を巡視し馬匹の衛生保健に注意す若し病馬を發見したるときは便宜の方法を以て軍部に通知す。

一、檜垣屬は馬糧配給の補助をなし若くは他町村より馬糧を購入する等のことあらは之か手續を爲し又は馬糧給與に對する器具等の一切の世話をなす。

一、檜垣屬は神邊町の馬糧供給準備終りたるときは道上村役場に到り左の打合せをなす。

1. 馬糧の準備。(麥、粟、干草等)
2. 馬繋場及馬糧集積所、馬糧配給に努むる方法。
3. 馬飲水の使用する桶(五個)の設備。
但し桶は清潔なるものにして可成漬物桶を使用せざること。
4. 水を運搬するに使用する桶。(二個)
5. 「バケツ」。(四個)
6. 人夫三名。

備考 人夫は既に契約済なるも其役差支若くは衛生上に關し本人の支障の有無。

一、道上村に於ける馬糧配給の諸準備終りたるときは檜垣屬は直に上岩成村、下岩成村及蘆品郡驛

家村に到り急遽馬糧の必要に備ふる爲め豫め馬糧(麥、粟、干草)に就き調査し置き當日必要あるときは特使若くは電話に依り通知すへきに付便宜の方法により運搬せしむる様用意せしむ但し人夫は時刻により立入り禁止しあるを以て可成當係の人夫を使役す。

一、市原屬は神邊町馬繋場にありて馬糧配給の補助をなし若は道上村馬繋場と連絡を要するものあらは之か通信の業務に服す。

一、野外統監部附近假馬繋場に馬飲水の設備をなす。

十一月十四日

一、市原屬、兼安技手は神邊町の馬匹全部出發したるときは馬繋場の跡片付をなし道上村役場に出張す。

一、荒谷技手は道上村に到り檜垣屬と協力し前日準備したる以外若くは左の如きことあらは人夫三名を使役して之を爲す。

1. 馬飲水の必要。

2. 馬糧配給若くは器具の必要。

3. 急遽馬糧の必要を生したるときは人夫二名を引卒し道上村役場に必要數を通知し直に荷車等により運搬せしむ。

4. 急遽大量の馬糧を要するに道上村のみにて調達し能はずして他町村に依頼を要することあらは人夫一名を引卒し必要數を調達し荷車若くは馬車等により運搬せしむ。

十一月十五日

一、荒谷技手は福山市に於て馬糧配給に當り縣にて爲したることあらは其の後片付をなし又本業務に就き市に於て執りたる事項にして將來の参考に資することあらは聞き糺し置き歸應す。

一、市原屬、兼安技手は神邊町の憲兵隊馬匹に就き馬糧に要する業務あらは之か世話をなし終了後に到り歸應す。

一、檜垣屬は神邊町に於ける憲兵隊馬匹の馬糧に就き世話をなす。

十一月十六日

一、神邊町に於ける憲兵隊馬匹の馬糧配給に就き世話をなし馬匹出發したるときは馬繋場の清潔整頓をなす。

一、神邊町役場に到り町並個人に對し馬糧配給に要したる經費あらは之か支拂の手續をなし尙將來本業務に就き参考となるへき事項あらは聴取し道上村役場に到る。

十一月十七日

一、道上村役場にて同役場に於て馬糧配給に要したる經費あらは之か支拂をなし尙將來本業務に就

参考となるべきことあらは聴取し歸應す。
 一、十月二十八日神邊町兵事主任松本書記に對し大演習期間中左の日時により宿泊すべきに付旅館の斡旋方依頼す。十一日、十二日二名、十三日三名、十四日三名、十五日一名。
 一、遺族名簿調製の爲十一月一日より八日迄八日間寫字生を雇備す。
 一、傷病兵名簿調製の爲十一月一日より五日迄五日間寫字生を雇備す。
 一、十月二十八日山崎屬深安郡道上村役場に出張したるに付馬糧供給係にて使用する人夫三名雇備方依頼せり。

馬糧供給係業務一覽表

市原屬	泊宿	務勤	檜垣屬	泊宿	務勤	日
			松永町		尾道市、吉和村、市村、松永町	十一月十一日
			神邊町		福山市	十一月十二日
	神邊町		道上村		道上村、上岩成村、下岩成村、驛家村	十一月十三日
	神邊町	道上村	同上		道上村	十一月十四日
	神邊町		神邊町		神邊町	十一月十五日
			道上村		神邊町	十一月十六日
					道上村	十一月十七日

第六款 損害賠償

一、事務計畫要領

一、十月二十、二十一日の二日間賠償評價の標準協定作製の爲鈴木技師を岡山市に出張せしめ黒住技師と會合せしむ。
 二、岡山縣との協定に依る評價標準表は十月下旬印刷し損害賠償委員等に配布す。
 三、十一月十一日正午賠償評價標準表へ調印の爲參謀本部側損害賠償係（將校四、書記一）と本縣評價委員とは福山市に會合し同時に本縣損害賠償係一同も列席し損害賠償方法等に關し最後の打合せをなす。會場は參謀本部側と協議し決定の豫定なり。
 四、係員の出張豫定並に所要旅費額。

兼安技手	泊宿	務勤	荒谷技手	泊宿	務勤
神邊町		神邊町	神邊町		神邊町
神邊町		神邊町	神邊町		神邊町
神邊町		神邊町	神邊町		神邊町
神邊町		道上村	神邊町		道上村
		神邊町			福山市

出張月日	用務地	氏名	旅費概算額	摘要
自十一月十七日 至同十七日	福山、深安、沼隈	鈴木技師	六七、〇〇〇	
自十一月十七日 至同十七日	福山、深安、沼隈	熊田技師	六四、〇〇〇	
自十一月十八日 至同十八日	同	小田 屬	五八、五〇〇	
同	同	村上 屬	五五、〇〇〇	
自十一月十五日 至同十五日	(福山)	田邊技手	三三、七〇〇	十二日道上村へ通勤
同	(深安)	伊田技手	三三、七〇〇	同
同	(沼隈)	蘆立技手	二六、〇〇〇	同
同	(蘆品)	矢部技手	二五、八〇〇	同
自十一月十五日 至同十五日	同	松野技手	三九、〇〇〇	
同	同	辻 書記	三七、〇〇〇	
計			四八、九〇〇	

1. 福山市田邊技手及深安郡伊田技手は十一月十一日正午福山市に於ける參謀本部員との打合會に參會せしむ。

2. 十一月十二日午前九時本縣係員は深安郡道上村役場内兵事係出張所に參集し諸般の事項を打合協議す。

五、損害賠償係自動車乗用區分を左表の通豫定し乗用者は相互連絡を保持し宿泊地決定の場合は兵事係出張所に通報すること。

自動車別	假番號	附隨軍隊別	乗用者
參謀本部(提供)	I	西	參謀本部將校、同書記鈴木技師
同	II	東	參謀本部將校、熊田技師、田邊技手、蘆立技手
縣廳(提供)	III	西	參謀本部將校、小田屬、伊田技手、松野技手
同	III	東	參謀本部將校、村上屬、矢部技手、辻書記

六、參謀本部提供の自動車二臺及縣廳提供の自動車二臺は十一月十三日演習地勤務に就く。

但し縣廳のIIII號自動車は午前八時より縣係員五名宛を分乘せしめ本隊(西軍)の宿營地附近より激戦地として損害相當あるへしと認めらるゝ町村(府中、市、新市、近田、湯田、御野、川南、千田、松永、赤坂、大津野)附近の地理の概要を調査の午後二時迄に道上村に歸着し參謀本部員と合し夫々乗用區分に依り四臺に分乘し參謀本部員の指示に従ひ演習地に出發す。

七、十一月十三日午後係員は四臺の自動車に分乗し出發せは十五日正午迄は會合するの機會なき爲其の間時機ある毎に可成電話を以て兵事係出張所に通報し連絡を密にすること。
其の際出張所に係自動車か損害状況を視察せず通過し損害地調査の要求か町村側よりありしや否やを聞き糺すことを要す。

尙出張所詰員にして損害賠償請求の爲町村側より申出ありたる場合は可成速に係員に通報し貰ふこと。

八、十一月十五日午前中早く損害地調査は終了し參謀本部員は岡山縣方面に送り届くる必要上同日拂曉より活動を開始し可成午前十時にはⅡ號の自動車は岡山縣後月郡高屋町役場にⅠ號の自動車は同縣小田郡城見村役場に至り岡山縣と交代し熊田技師及田邊、蘆立の兩技手はⅡ號自動車に乗換へ同車に乗組中の參謀本部員は同所にて下車し岡山縣の自動車に乗換へⅠ號自動車乗組中の鈴木技師は城見村役場にて下車しⅡ號自動車に乗換へ同車へ乗車中の參謀本部員は同所にて下車し岡山縣自動車に乗換へたる上Ⅲ號の自動車は遅くも正午迄には道上村の兵事係出張所に引揚ぐること。

九、十一月十五日正午係員一同出張所に販着の上は直に各町村に於ける損害状況の大略を談合し損害賠償状況に就て別狀なき限り午後二時田邊、伊田、蘆田、矢部の各技手及松野土木技手、辻書記は解散せしむ。

一〇、十一月十五日正午Ⅲ號の自動車は用済に付返納す。

一一、十一月十五日午後より小田、村上、兩屬は道上村役場内出張所に詰切り損害賠償事務を處辨し鈴木、熊田兩技師も同所において萬一調査洩れの町村より損害賠償地調査の要求ありたる時は直に岡山市統監部損害賠償係將校に電話し實査を申請し技師の一名は之に立會すること。

一二、損害賠償金の請求及支拂

1. 市町村長より損害賠償請求書正副二通（損害物件内譯書を添付しあり）を兵事係出張所に確實なる方法を以て速に提出せしむるを以て之を調査し岡山市統監部に送付す。
2. 參謀本部經理係は十一月十八日迄岡山市に滞在するを以て十六日午前中迄に到着見込の請求書は出張所にて調査の上速に同所に送付す。
3. 損害賠償金は參謀本部より十一月十六日午前中には大部分現金又は證券に依り送付せらるゝにより之を受領し關係町村に電話を以て通報し吏員を召集し交付す。
4. 尙十一月十七日午前中受領したる場合も可成午前中に町村側に交付し若し交付不能の場合は歸縣の上送付す。
5. 損害賠償に關する出張所に於ける事務は十七日を以て打切り十八日午前中殘務整理の上午後出發歸應す。

二、損害賠償に関する参考事項

七二四
参 課 本 部

損害賠償に關しては動もすれば取扱上の手違を生し又は不平の聲を聞くの虞あるを以て特に考慮を拂ひ各當事者は固より廣く一般に對し其主旨を徹底せしめられんことを希望す。

既往演習の實例に鑑み二、三の参考事項を述べれば左の如し。

一、拜觀者に依る損害を取締ること

從來土地、耕作物に對する損害は演習軍隊の行動に起因するものに比し一般拜觀者の爲生するもの比較的多きを例とす。

而して陸軍は拜觀者の與へたる損害迄も賠償すること能はざるを以て各所有者の自衛及市町村吏、警察官並地方團體等の協力に依り此等拜觀者をして損害を發生せしめざる様十分取締られ度演習の際軍隊の生ずる損害を少なからしむることに就ては夫々陸軍演習令にて規定取締ありて演習上眞に已むを得ざるものに限之か損害を認め其賠償の爲には必ず證明書を交付し後日の證とすること共に前記拜觀者の與へたるものと區別す。

二、他日物議を生せしめざること

演習終了後損害賠償に關し兎角物議を生ずるは賠償の處置に缺陷あるか又は其取扱の公平ならざるに起因する場合多し又既往の事實に徴するに所有者側は拜觀者の與へたる損害をも軍隊か與へたる

損害と誤解し物議を生したる例尠なからざるを以て此等に就ては特に注意せられ度。

三、損害賠償の要求不當ならざること

從來往々損害の範圍を殊更に誇張して申出づるものあり陸軍は自己の生せしめたる實際の損害賠償に就ては敢て躊躇せざるも不當の要求には應し能はざるを以て演習混雜の際を好機とし不當の賠償を得んとするか如きものは十分取締られ度。

四、損害賠償の査定を公平ならしむること

評價を公平に行ふ爲評價委員を設け市町村毎に異なる取扱を爲さざることを期するも縣に於ける調査に際しても最も公平に取扱はれ度。

五、損害視察に就て

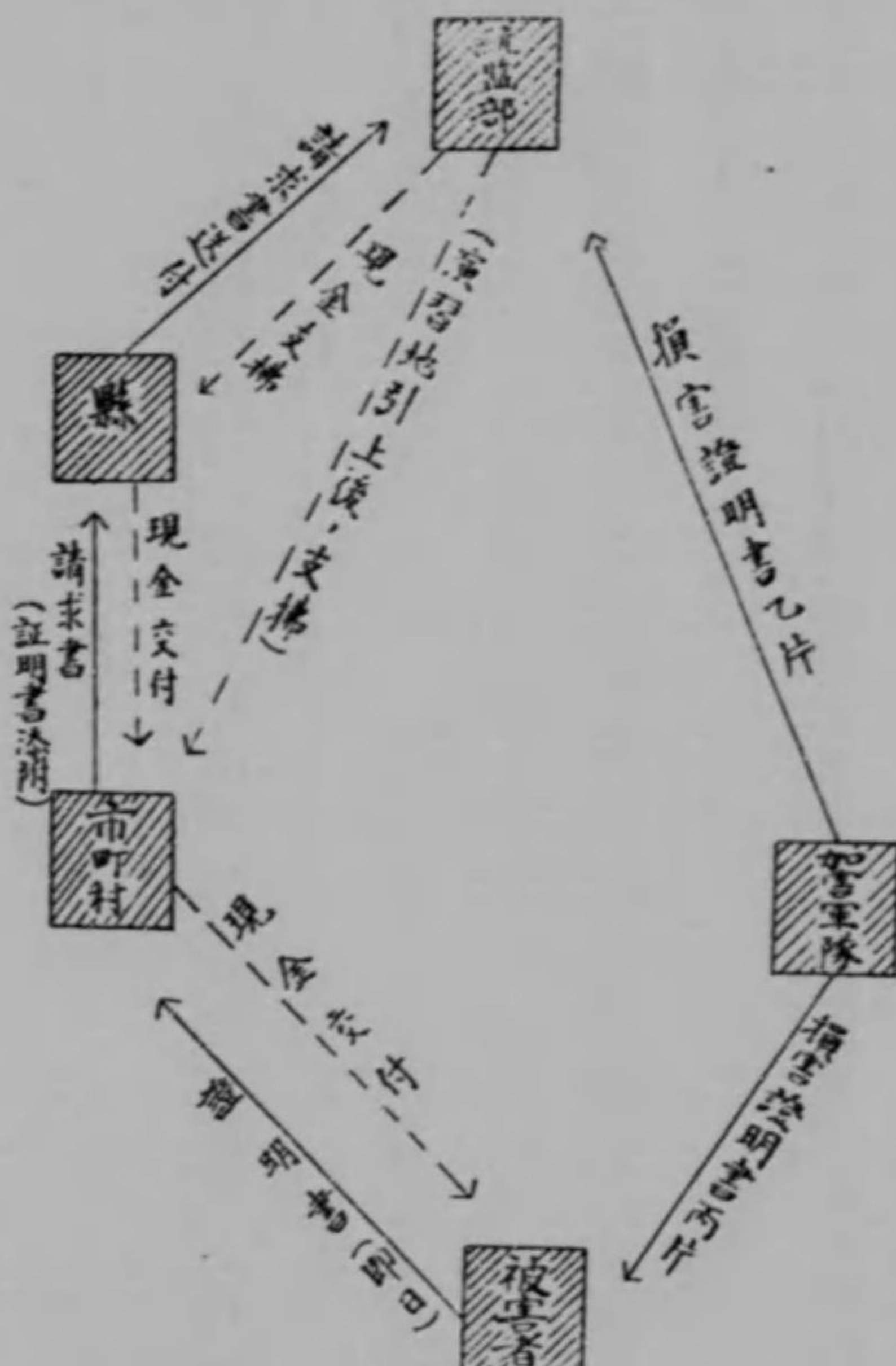
市町村に於ては演習間絶えず損害の状況を視察し損害賠償を迅速且圓滿に解決せしむる如く指導せられ度。

六、其他賠償取扱上の手續に就て

1. 軍隊の與へたる損害は必ず證明書を交付し此證明書あるものに付賠償するを以て損害賠償を要求せんと欲せは遲滞なく該軍隊に申出て證明書を受けしめられ度否らされは後日の調査困難となり解決遅延するを免れ難し。
2. 證明書受領後は速に當方關係者に申出づる等處置迅速なるを必要とす。

3. 損害賠償の手續を圖示すれば左表の如し。
以上の事項は市町村吏員、所有者等に周知せしめ置かれんことを望む。

損害賠償請求手續圖解



三、損害賠償手續

- 一、特別大演習に係る損害賠償の事務は損害賠償掛に於て處理す。
- 二、損害賠償掛は軍部主計正以下若干名、縣高等官二名以上、同判任官若干名及關係市町村吏員若干

名宛を以て組織す。

- 三、損害賠償掛中軍部主計正、主計及縣高等官二名以上を以て評價委員を組織す。
- 四、損害賠償掛は損害状況を調査し賠償を決定す。
- 五、評價委員は農作物に就ては豫め賠償評價の標準を協定し其他の損害に就ては損害發生の都度賠償價格を協定す。
- 六、損害賠償を爲すは演習部隊に於て發行せる損害證明書あるもののみとす、但し損害證明書なきもこの雖も演習部隊に於て損害を加へたること明白なるものは臨時詮議す。
- 前項損害證明書は成るべく現地に於て演習部隊より當該地主又は所有者若しくは地方官(公)吏に交付するものことす。
- 演習部隊より損害證明書を受領し得ざることは速に統監部に届出て調査を受けるものことす。
- 七、各市町村長は損害賠償掛の決定に基き評價委員の定めたる價格に據り被害者を代表して請求書を縣に提出し縣は之を調査して請求書を參謀本部に送付す。
- 損害賠償請求書(正、副二通)は別紙附録の様式に依り調製し損害證明書を添付するものことす。

(附) 演習参加部隊には特別大演習命令を以て左の如く指示あり。
特別大演習間に於ける土地、耕作物等の損害は統監部に於て賠償す之か爲各部隊は其状況を審査し附表の様式に依りて證明書を調製し當該地主又は所有者若しくは地方官(公)吏に交付すると同時に並に其屬する審判官若しくは損害賠償掛を経て統監部に報告すへし。

(用紙半紙)

損害證明書ノ例

(※印ヲ附シタル欄所ハ記入ノ例ヲ示ス)

(此ノ片ハ原隊ニシテ管保ニシヘス)

甲 號	被 害 種 類 物	面 積、幅 員	損 害 ノ 程 度	住 害 物 ノ 所 有 者 氏 名	損 害 ヲ 生 セ シ 理 由	部 隊 號
晚 稻	何 町 步	收 穫 ノ 十 分	約 十 減	何 縣 何 郡 何 村 大 何 番 地 某	何 月 何 日 何 々 附 近 ノ 演 習 ニ 於 テ 師 團 總 隊 進 出 ノ 際 踏 踏 シ テ 損 害 ヲ 生 ス	何 兵 第 何 聯 隊

(此ノ片ハ成ルニシテ部ニシテ送付シヘス)

乙 號	被 害 種 類 物	面 積、幅 員	損 害 ノ 程 度	住 害 物 ノ 所 有 者 氏 名	損 害 ヲ 生 セ シ 理 由	部 隊 號
土地、耕作物	耕作物損害證明書					

(此ノ片ハ地方官ニシテ送付シヘス)

丙 號	被 害 種 類 物	面 積、幅 員	損 害 ノ 程 度	住 害 物 ノ 所 有 者 氏 名	損 害 ヲ 生 セ シ 理 由	部 隊 號
土地、耕作物	耕作物損害證明書					

(用紙半紙罫紙)

損害賠償請求書

一金何圓何錢也

名 稱	數 量	單 價	小 計	摘 要
麥 畑	參 百 坪	一 坪 四 〇	一 二 〇 〇	歩 兵 散 兵 壕 構 築 ノ 爲 堀 開 ニ 付 復 舊 ヲ 要 ス
同	百 五 拾 坪	同 〇 四 〇	六 〇 〇 〇	砲 兵 陣 地 構 設 ノ 爲 堀 開 ニ 付 復 舊 ヲ 要 ス
同	貳 百 坪	同 〇 一 〇	二 〇 〇 〇	部 隊 集 合 ノ 爲 踏 荒 シ 作 物 損 害
雜 木	五 百 本 (徑 二 寸 至 五 寸 長 六 尺)	一 本 〇 一 〇	五 〇 〇 〇	射 界 清 掃 及 陣 地 進 入 路 修 繕 ノ 爲 伐 採
何 々	、	、	、	、
何 々	、	、	、	、

但シ昭和何年特別大演習中何月何日及何月何日ニ於ケル損害
(損害物件内譯書ノ通)

右請求候也

昭和何年何月何日

何縣何郡何町(村)長 氏

名 印

特別大演習統監部御中

注意 一、集計上賠償金額ニ錢位未満ノ端數ヲ生シタルトキハ各人毎ニ切捨ツルコト
 二、本書ハ正、副各一通ヲ要ス

(用紙半紙算紙)

損害物件名稱		數	量	請求書ト對 照用番號	住 何縣何郡何村字何番地	所 所有者氏名
麥	畑					
同		同		貳		
同		同		參		
同		同				

雜		何	本	請求書ト對 照用番號	住 何縣何郡何村字何番地	所 所有者氏名
同	木					
同		何	々	五		

注意 本書ハ正、副各一通ヲ要ス

損害賠償基準額評定書

昭和何年何縣下ニ於テ施行セラレタル陸軍特別大演習ニ際シ演習實施上同地ニ加ヘタル土地、耕作物等ノ損害ニ對スル賠償標準ヲ左ノ通評定ス
 昭和何年何月何日於何所

評價委員

官 氏 官 氏
 名 印 名 印

左記

名	稱	單位	金額	摘要
---	---	----	----	----

大	根	坪	二〇						
何	々								

注意 本書ハ正二通、副一通ヲ要ス

第二節 奉送迎係

第一款 計畫概要

班別	擔任事務	官職	氏名
一、一般計畫	一、關係諸官廳及他係トノ交渉連絡	屬	主任 井上 松太郎
一、關係諸官廳及他係トノ交渉連絡	一、參加各團體トノ連絡統一	屬	豐田 實
一、文書往復	一、記錄		
一、救護			

特別奉送迎者	一般奉送
一、特別奉送迎者ノ調査 イ、有資格奉送迎 ロ、高齡者同 ハ、代表者同 ニ、配置圖調製 ヒ、標識 ホ、特別奉送迎者指揮	一、團體奉送迎者調査 イ、學校兒童生徒奉送迎 ロ、青年訓練所生徒同 ハ、在郷軍人及消防組員同 ニ、男女青年團員同 ホ、少年團員同 ヘ、一般奉送迎者調査 ヒ、位置ノ決定並標識 ホ、奉送迎團體係員トノ連絡統一 ニ、一般並團體員奉送迎心得ノ制定
社會事業主事 屬 社會事業主事補 福山市書記	方面主事 屬 社會事業主事補 同 社會事業事務囑託 屬 同 同 社會事業主事補 屬 福山市書記
主任 阿 廣 山 岡 林 木 有 嶋 應 井 田 岡 村 地 南 特 本 田 延 徹 寅 慧 務 日 忠 次 太 英 吉 曹 太 茂 郎 郎 英 吉 長 郎 茂 郎 郎 英 吉	主任 佐 松 三 龜 中 岡 後 村 豐 大 竹 本 田 村 澤 野 田 藤 松 石 勇 文 國 信 好 義 義 忠 市 昇 雄 吉 房 治 浩 郎 實 司

班理經	班 者 迎	主任
一、會計	同	青 山 正 雄
一、奉送迎設備	同 同 福山市書記補	日 和 佐 右 衛 門 島 原 清 八 桑 原 特 務 曹 長 谷 本 軍 曹 川 上 陸 軍 屬 杉 原 陸 軍 屬
	同 屬	後 岡 田 好 治 藤 浩

當係の事務は福山市内のみならず御沿道筋數町村に亘り相當廣範圍に及ぶので事務の進捗に伴ひ係員に不足を感じたので前表記載の通り福山市吏員八名福山縣隊區司令部員五名に臨時係員を委嘱して各班に配置した。

二、事 務 計 畫

一、奉送迎位置及範圍

(イ) 特別奉送迎者

○ 位 置 別紙圖面の通 (福山驛前より市役所迄)

○ 人 員 收容し得べき豫定人員 二、八八〇人

○ 範 圍 (別紙告示の通) 約四千人

(ロ) 學校生徒兒童其他團體奉送迎者

○ 位 置 (別紙圖面の通)

○ 人 員 收容し得べき人員豫定左の如し

福山市内御通御沿道筋 一四、三九〇人

大門驛構内 四、〇〇〇人

吉津、奈良津村道路 二、二〇〇人

千田村 四、三六〇人

横尾神邊間 四、九〇〇人

道上驛構外 九二〇人

計 三〇、七七〇人

外に盆進商業運動場 二〇、一〇〇人

當 該 地 尋常三年生以上

○ 範 圍 小學校兒童 片道二里以内の地 尋常五年生以上

(同) 三里以内の地 高等料

其の他 青年訓練所生徒、在郷軍人、消防組員

男女青年團員、補習學校生徒、中等學校生徒、少年團員

右何れも片道三里以内(忠、福山、大津野、道上、千田)

一、特別奉送迎者は午前、午後の二回に分ち各別に奉送迎せしむること。

一、學校生徒及團體奉送迎者は福山市内に限り午前、午後の二回に分ち其他は午前一回とする。

一、奉送迎者の希望取纏。

九月末迄に特別及團體共奉送迎希望者を取纏むること。

一、奉送迎心得の告示。(別紙)

九月十日一般奉送迎者の心得及學校教員生徒兒童並各種團體奉送迎心得を縣報に登載して告示すること

一、資格證及奉送迎心得の配付。

(イ) 特別奉送迎者の資格、心得書及奉送迎日時通知書を十一月十日迄に本人に到着する様本人宛書留郵送すること。

(ロ) 學校生徒及其他團體、奉送迎者に付ては奉送迎位置圖、奉送迎人員及日時を十一月十日迄に其の學校長又は團體長に到着する様通知すること。

(ハ) 一般奉送迎者に對する心得書は別に印刷に付し十一月一日關係市町村長をして各戸に配付せしむ。

一、奉送迎者位置の標示

前々日より係員は備人を使役して奉送迎者位置標札を樹立すること。

第二款 特別奉送迎

一、事務概要

本係に於て取扱ふ事務の中特別有資格者の調査は其の範圍並人員に付應内他係又は軍部側との交渉が多いので屢々協議會、打合會を開いて決定した。其の希望申出期限は十月二十五日と限定したが、期限經過後各方面より澤山の申出があつて其の取扱に悩んだ。之等の申込者の中には高齢者もあつて恐らく今回が最後の光榮の日であらうことを思へば私情に於て忍び難い所もあつたが、止むを得なかつた。

奉送迎場所は驛前奉迎門直下より市役所迄の御沿道筋兩側とし資格別として收容した。其の中高齢者は一度所定の場所に就いた上は再び他に移動さす事は困難であるから係員は其の整頓に全力を傾注した。それでも容易に意の様にならず付添人はあつても何等訓練も統制もない地方人であるから、高齢者一人の取扱は一般人數十人の取扱以上の手数を要した。

高齢者の接待に付便所の設備、食場所の選定には非常に杞憂を抱いたが、幸ひにも福島紡績工場の好意に依り工場の便所を利用し工場内の廣場を休憩所及食場として提供せられたので、總てが極めて圓滑に運んだのは係員一同感謝に堪へなかつた。

二、事務経過

八月二十日

「大正六年十一月三日付地方幸啓ノ節關係各驛ニ於ケル奉送迎ニ關スル件並ニ地方幸啓ノ節關係各驛ニ於ケル奉送迎ニ關スル件適用ニ就テ」の例規に基き奉送迎有資格者の人員調査を開始す。

九月三日

三日間一般奉送迎係と共に奉送迎位置の實地踏査をなす。

九月五日

茨城縣、愛知縣の前例を參考として特別奉送迎資格範圍に關する第一回協議會を開く。

九月十一日

各課長宛其の課關係の本省並縣表彰者の住所氏名及特別奉送迎資格者と認むべき希望の關係團體代表者の住所氏名を照會す。

九月十二日

廣島、福山兩聯隊區司令官並吳海軍人事部長に對し在郷將校の住所氏名を照會す。

九月二十日

特別奉送迎者範圍に關する第三回協議會を開く。

十月十日

奉送迎者心得並特別奉送迎者資格を告示す。特別奉送迎資格者に對し奉送迎入場申告に關する注意方を赤十字社支部外關係團體に通牒す。

十月十三日

特別奉送迎資格者名簿並入場申告書取纏提出方を各市町村長へ通牒す。

十月二十日

特別奉送迎入場申告書及資格名簿受附開始。

十月二十五日

福山市役所に於て市奉送迎係員と打合會を開く。

十月三十日

特別奉送迎位置配置圖並入場證を決定す。

十一月二日

特別奉送迎者名簿作製、入場申告總數千二百三十名内高齢者五百一名に及ぶ。

十一月 八日

特別奉送迎入場申告者に對する入場證並位置圖を書留便を以て關係市町村長宛送附す。

十一月十二日

各係員福山市に出張し市並軍隊側の係員と奉送迎者指揮に關する事務分掌打合を爲し現状を調査す

十一月十三日

特別奉送迎場所の各設備を整ふ。

十一月十四日

午前七時より兩受付に於て受付開始す。奉送迎者七百七名(内高齢者三四八、傷痍軍人一四)附添人三百五十名なり。

三、規 程

一、特別奉送迎者心得

- 一、特別奉送迎者ノ資格ハ別記ノ通トス
- 二、特別奉送迎資格者ニシテ特定ノ場所ニ於テ奉送迎ヲ爲サムトスル者ハ左ノ各號ニ依ルコト
- イ、特定ノ場所ニ於テ奉送迎ヲ爲サムトスル者ハ別記様式ノ奉送迎入場申告書ヲ差出シ入場證ノ交

付ヲ受クルコト

奉送迎入場申告書ハ十月二十日迄ニ居住地市町村長ニ差出シ市町村長ハ之ヲ取經メ十月二十五日迄ニ兵務部奉送迎係長(學務部社會課内)ニ送付スルコト

入場證ハ居住地市町村長ヲ經テ之ヲ交付ス

- ロ、服裝 男子ハ通常禮服(燕尾服、シルクハット)禮裝通常服(フロックコート)通常禮裝紋付羽織袴、女子ハ通常服(ローブモンタント)桂袴、白襟紋付トス但シ服制アル者ハ制服トス
- ハ、勳章各種褒章及記章アル者ハ佩用規程ノ定ムル所ニ依リ總テ之ヲ佩用スルコト
- ニ、高齢者ハ必ス適當ナル保護者一名ヲ附添フルコト
 - 高齢者及保護者ノ服裝ハ成ルヘク禮服トスルモ不敬ニ涉ラサル服裝ナラハ差支ナシ
- 三、法定傳染病ニ罹リ治癒後間モナキ者及其ノ病原體ヲ保有スル者並流行性感冒、麻疹、百日咳其ノ他ノ傳染性疾病ノ罹病者ハ奉送迎ヲ遠慮スルコト

特別奉送迎者ノ資格

- 一、宮中席次第三階以上ノ者
- 一、宮中席次第六階以上ノ者
- 一、奏任官及奏任待遇者

- 一、神佛各宗派管長
- 一、門跡寺院住職
- 一、縣會議長、同副議長
- 一、市長
- 一、市會議長、同副議長
- 一、紅、綠、藍、黃、紺綬褒章拜受者
- 一、福山商工會議所會頭、同副會頭
- 一、町村長及福山市助役
- 一、縣會議員
- 一、福山市會議員
- 一、縣農會長
- 一、第一號ニ該當スル者ノ夫人
- 一、赤十字社特別社員以上ノ者
- 一、帝國水難救濟會名譽會員以上ノ者
- 一、日本海員救濟會特別會員以上ノ者

- 一、帝國海事協會特別會員中銀鑰銀色章、黑鑰金色章、金鑰金色章、有功章帶用者
- 一、忠勇顯彰會維持會員以上ノ者
- 一、同仁會特別會員以上ノ者
- 一、帝國飛行協會白、黃、藍色會員章ヲ有スル者
- 一、濟生會綠葉特別會員章佩用以上ノ者
- 一、赤十字社支部長、支部副長
- 一、赤十字社篤志看護婦人會支會長、副支會長
- 一、愛國婦人會支部長、支部副長及同會三等有功章附加章以上佩用者
- 一、帝國在郷軍人會聯合支部長、支部長、郡市聯合分會長
- 一、大日本武德會一、二等有功章佩用者
- 一、大日本蠶糸會二、等以上有功章佩用者
- 一、警察協會二百圓以上寄附者
- 一、公私立中等學校長
- 一、福山市ニ於ケル官署長タル判任官及同待遇者
- 一、各省表彰者（自治、教育、産業、社會事業其ノ他ノ功勞者——團體ハ代表者）

- 一、縣表彰者（自治、教育、産業、社會事業其ノ他ノ功勞者——團體ハ代表者——孝子、節婦、義僕）
- 一、帝國在郷軍人會有功章授與者
- 一、警察官及消防官吏功勞記章佩用者
- 一、宮内省又ハ内務省ヨリ獎勵金又ハ助成金ヲ下付セラレタル社會事業ノ代表者
- 一、縣教育會長
- 一、日刊新聞社長及同支局長（本社ヲ縣外ニ有スルモノ）
- 一、縣醫師會長、同齒科醫師會長、同藥劑師會長
- 一、廣島辯護士會長
- 一、福山市農會長
- 一、福山市教育會長
- 一、福山市醫師會長、同齒科醫師會長、同藥劑師會長
- 一、福山市消防組頭
- 一、方面委員正副常務及福山市方面委員
- 一、縣社ノ社司
- 一、高齢者（八十歳以上ノ者）

一、傷痍軍人

奉迎送入場申告書

（用紙半紙半裁）

資格住所

昭和五年十月 日

氏

名印

廣島縣知事 川 淵 治 馬 殿

二、大演習行幸特別奉迎送ニ關スル件

（昭和五年十月十三日 演兵第二〇號通牒）

標記ノ件ニ關シ昭和五年十月十日告示第六百八十八號ヲ以テ公布相成候ニ付テハ貴市町村居住ノ有資格者中福山驛前ニ於ケル特別奉迎送希望者至急御取調ノ上期日迄ニ申告書取經別紙様式ノ有資格者名簿ト共ニ御提出相煩度

但演習陪觀及特別拜觀ヲ許サレタル者ハ時間其他ノ關係上奉迎送ハ困難ト思考セラレ候條爲念御注意相成度

尙申告書ノ資格欄ニハ特別奉迎送者資格中本人ノ有スルモノ全部ヲ記載セシメラレ度

（有資格者名簿様式）

特別奉迎送有資格者名簿

何々市（町村）

奉迎送希望	住	所	資	格	氏	名
有						
無						

備考

- 一、資格欄ニハ特別奉迎送者資格中本人ノ有スルモノ全部ヲ記載スルコト
- 二、奉迎送希望有無欄ニ「有」ト記入シタル者ノ數ト申告書ノ數ハ必ス符合セシムヘキコト

四、設備要領

- 一、昭年五年十月十日告示第六百八十八號並十月十三日附市町村長宛通牒に基く奉迎送入場申告書提出者千二百三十名（内高齢者五百一名傷痍軍人五十六名）に對し別紙入場證並奉迎送位置圖を送附して入場の方法を示した。
- 二、奉迎送位置は別圖路面兩側幅員一間に繩を以て之を示し、別紙配列圖にある入場證番號札（白何番、高齢者至何番）五十番毎に緒立して各員奉迎送の場所を示す。

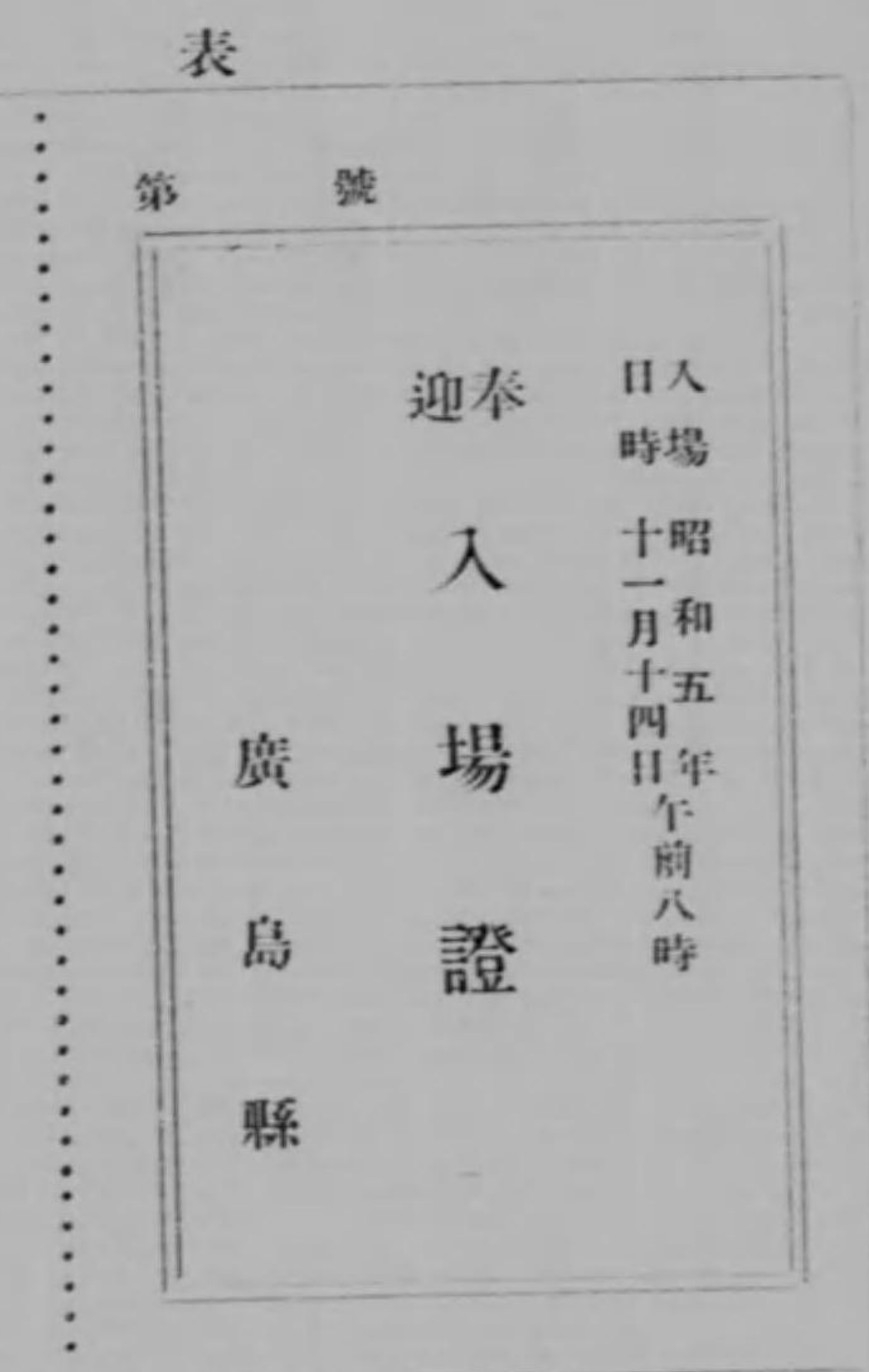
三、高齢者奉送迎場所には莖百枚を敷き高齢者を二列に坐せしめ附添人を後側に立たしむることとする。

四、奉送迎場所隣接福島紡績第一工場に交渉し同工場門内空地を高齢者休息所とし莖を敷く。（但雨天の際は同工場食堂の豫定）

五、受付、圖表の位置二ヶ所に受付を設け受付の混雜を防ぐ爲木柵を設く。

六、奉送迎入場者に對し受付に於て徽章（赤線白蝶形）附添人は（赤色同型）を入場證と引換に交付して入場せしむることとする。

一、入場證様式



面

第 號

日入場 和昭五年 十一月十四日 午後零時三十分
送奉 入場證
廣 島 縣

裏

注

- 一、本證ハ當日定期マテニ受付ニ提示シ係員ノ指揮ヲ受ケ入場スルコト
- 二、場内ニ於テハ係員警察官等ノ指示ニ從フコト
- 三、本證ヲ有スル者ト雖服裝ノ適合セサルモノ、又ハ定期ニ運參シタル者ハ入場ヲ拒絶スルコトアリ
- 四、奉迎送入場者ノ服裝左ノ如シ
 - 男子 燕尾服、シルクハット、フロツクコート、黒山高帽、モーニングコート、黒紋付羽織袴
 - 女子 白禮装(ローブモンタント) 袴、白禮装付
- 五、但服裝アルモノハ制服(禮装通常服)高齡者及附添人ハ成可ク禮装トスルルモノ不敬ニ涉ラサル服裝ナラハ差支ナシ

面

- 一、場内ニハステツキ(高齡者ノ杖ヲ除ク)手荷物等ヲ携帶セサルコト
- 二、通御後ハ係員ノ指揮ニ從ヒ徐々ニ退散スルコト
- 三、本證ハ本人以外ノモノハ使用スルヲ得ス
- 四、第一 受付 福島紡績第一工場正門前
- 五、第二 受付 福山市 公會堂前
- 六、午後奉送入場ノ受付ハ第二受付(公會堂前)ヲ廢止シ
- 七、全部第一受付(福島紡績第一工場正門)ニテ取扱フニ付注意セラレタシ
- 備考 入場者整理の爲め白(第一、第二、第三、第四)黄(第五、第六)鼠(第七、第八)青(第九、第十)に色別けした。

二、高齡者附添人入場證

第 號

特別奉迎送 高齡者附添人	入場證	廣島縣
高齡者氏名	高齡者トノ關係	附添人氏名
市町村長 ノ印		

注意

- 一、本證ニ市町村長ノ印ナキモノハ無効トス
- 二、本證ハ高齡者ノ入場證ト共ニ受付ニ提示シ係員ノ指揮ヲ受ケ入場スルコト
- 三、服裝其ノ他ニ關シテハ高齡者入場證裏面注意書ニ依ルコト

備考

- 一、鼠及青に色別けした。
- 二、裏面の記載事項無し。

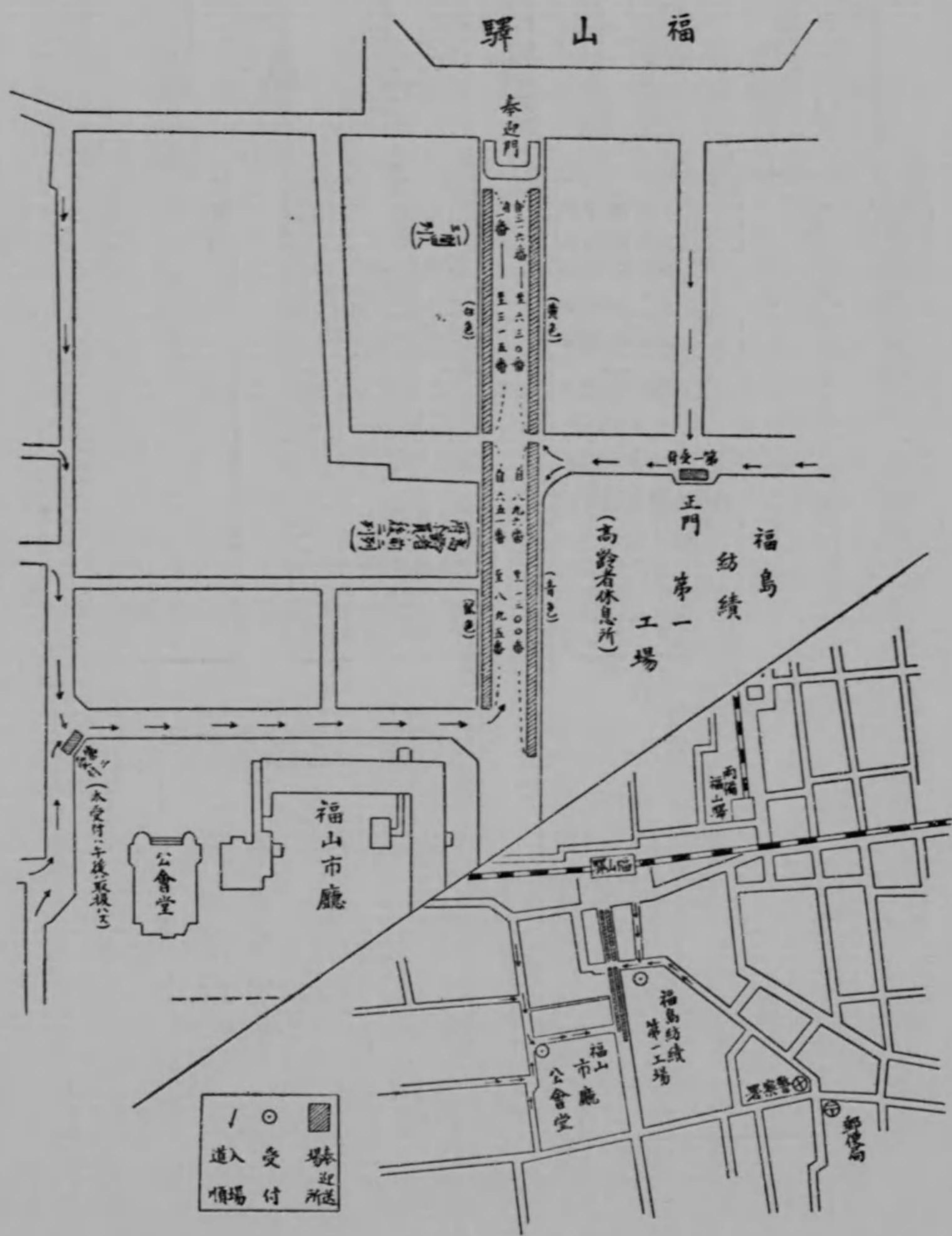
第三款 一般並團體奉送迎

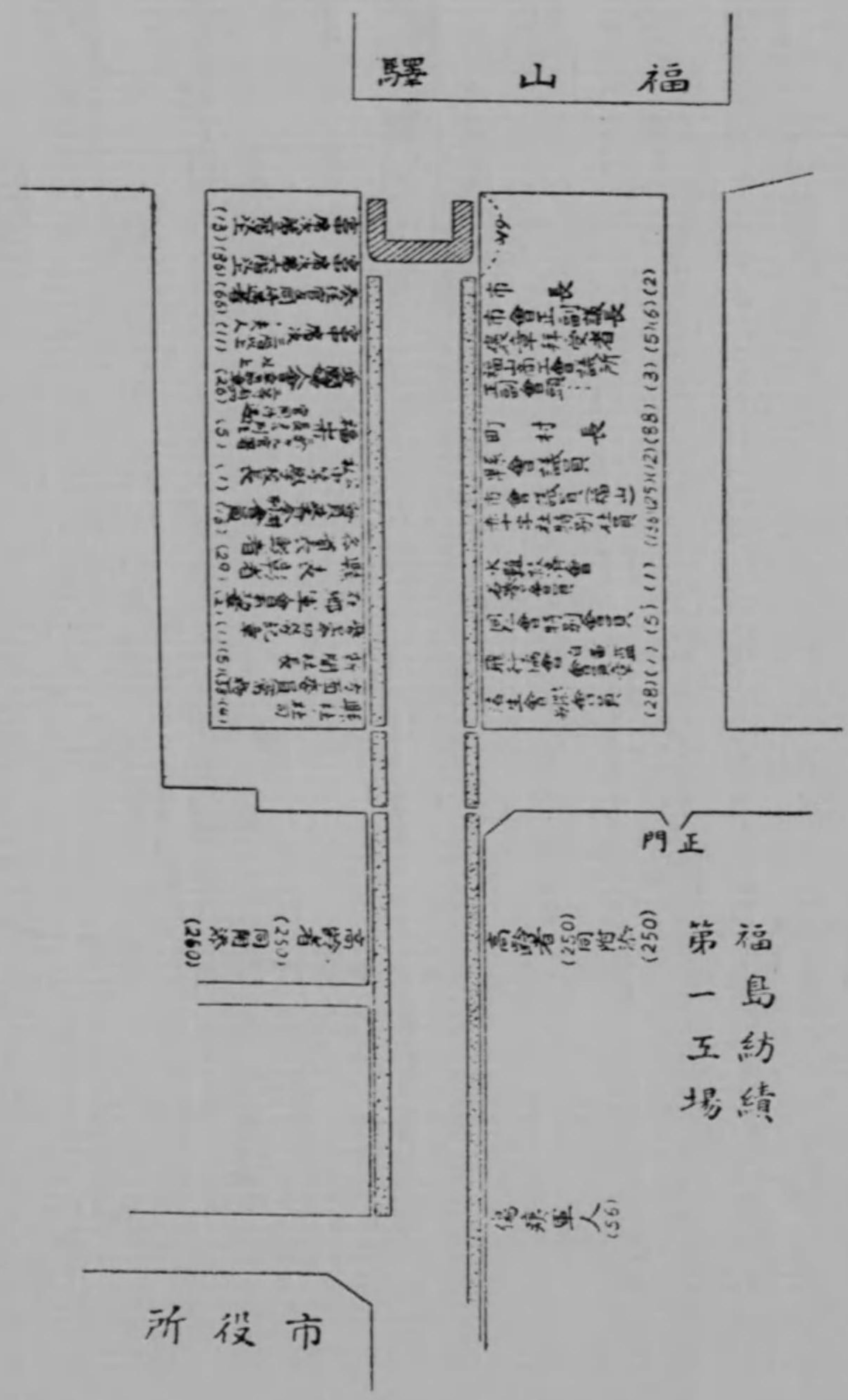
一、事務概要

一般奉送迎者として取扱ふものの範圍は學校兒童生徒、青年訓練所生徒、在郷軍人、消防組員、男女青年團員、少年團員とし本係の事務はそれ等の調査並奉送迎位置の決定等であつた。準備事務はすべて係員に於て處理したが、行幸當日の事務は多人數を相手のことで到底係員だけでは人員が足りない。それ故關係市町吏員に委嘱し係員は其の協議に預り又は沿道堵列者の監督に任じた程度であつた。幸にして一般奉送迎者の自覺と町村吏員諸氏の熱心な努力に依り何等の故障なくして光榮の日を過した。

二、事務分掌

1. 準備事務 係員全部之に當る。
2. 當日の事務 (別圖参照)
 - 福山市中心 其の一 井上屬、豊田屬、川上軍屬
 - 福山市中心 其の二 佐竹主事、桑原曹長
 - 福山市中心 其の三 佐竹主事
 - 福山市中心 其の四 杉原軍屬、谷本軍曹





- 千田村中心 溜池 向奥 後藤屬
- 千田村中心 溜池 敷路附近 村松主事補
- 千田村中心 敷路 附近 松本屬
- 千田村中心 一松院境内 岡田屬
- 道上村中心 驛 附近 三田村主事補、中野囃託
- 大津野村中心 大門附近 亀澤主事補

三、事務經過

十月一日

奉送迎團體の範圍を決定すると共に奉送迎の中心地を左の通定めた。

深安郡大津野村(大門驛)

福山市

深安郡千田村

深安郡道上村(道上驛)

十月七日

奉送迎學校團體申込の提出方を關係市町村長中等學校長に通牒す。

十月 十日

奉迎送者心得を公布す。

十月十五日

一般奉迎送者心得は公布式に依る告示の外特に一枚刷りなし關係市町村長を経て各戸に配布す。

十月二十日

學校生徒兒童團體奉迎送者申込の受付を開始す。

十月二十三日

學校生徒兒童團體奉迎送者申込を締切る。

十月二十六日

係員全部奉迎送場所の實地調査をして打合をなす。

十月二十七日

福山警察署に於て警備係及聯隊側との打合會を開く。

十一月四日

團體學校生徒兒童の奉迎送位置の配置決定す。

十一月四日

學校團體奉迎送に關し人員配當に關する通牒を關係市町村長、中等學校長に發す。

十一月六日

福山警察署に於て同署管内の市町村長を招集し奉迎送事務に關する打合會を開く。

十一月七日

學校團體に對し奉迎送の位置配置圖等に關し通牒す。

四、諸 規 程

一、一般奉迎送者心得

一般奉迎送者心得

(昭和五年十月十日
廣島縣告示第六八八號)

一、一般奉迎送者ハ係員又ハ警察官吏ノ指示ニ從ヒ豫メ指定シタル場所ニ於テ夫々奉拜シ通御後ハ警戒ヲ解ク迄其ノ位置ヲ保チ解散ニ當リテハ各自混雜ヲ避クルコト

二、幅員狹キ道路上ニ於テハ奉拜ヲ許サレサル場合アルヘキヲ以テ係員又ハ警察官吏ノ指示ニ從フコト

三、二階其ノ他瞰下シ得ヘキ高所ヨリノ奉拜ハ絶對ニ之ヲ爲ササルコト

四、雨籬通御ニ際シ雙眼鏡ヲ使用セサルコト

五、隙間又ハ目隠シ等アル場所ヨリ視見セサルコト

六、老幼婦女等ハ成ルヘク前列ニ立タシメ且押合フコト等ナク秩序ヲ保ツコト

- 七、高齢者其ノ他起立ヲ困難トスル者ハ敷物ヲ用キテ跪坐スルモ妨ナシ
- 八、老者幼者等ニハ適當ナル保護者附添フコト
- 九、通御ノ際ハ先驅通過ノ時函簿（御召車）ニ注目シテ敬禮シ直ニ姿勢ヲ復シテ目迎目送スルコト
- 一〇、異様ノ形装ヲ爲シ又ハ函簿ヲ指シ又ハ着帽ノママ奉拜スルコトナキ様慎ムヘキコト
- 一一、狹隘ナル場所又ハ危險ナル場所ニ立入ラサルコト
- 一二、御道筋ハ洒掃整理ニ留意シ之ヲ汚損シ又ハ通御ニ先チテ無斷立入り若ハ横斷セサルコト
- 一三、臭氣ヲ發散シ又ハ危險性ヲ有スル物其ノ他他人ニ迷惑ヲ及ホスヘキ物品等ヲ携行セサルコト
- 一四、田圃ヲ踏ミ荒シ牆壁ヲ毀損シ又ハ他人ノ所有物ヲ濫ニ使用セサルコト
- 一五、演習期間中ハ煙火ノ類ヲ揚ケサルコト
- 一六、本縣ニ御駐紮中ハ各戸軒頭ニ國旗ヲ掲揚スルコト此ノ場合ハ其ノ傾斜ノ度ニ留意シ軍馬ノ往來其ノ他通行ニ障害ヲ與ヘサル様注意スルコト
- 一七、奉迎送ノ爲線門其ノ他多額ノ經費ヲ要スル設備ハ之ヲ避クルコト
- 一八、法定傳染病ニ罹リ治癒後間モナキ者及其ノ病原體ヲ保有スル者並流行性感冒、麻疹、百日咳其ノ他ノ傳染性疾病ノ罹病者ハ奉迎送ヲ遠慮スルコト

二、學校職員生徒兒童並各種團體員奉迎送心得 （昭和五年十月十日 廣島縣告示第六八八號）

一、奉迎送

- イ、奉迎送ヲ爲スヘキ場所、日時、學校又ハ團體及其ノ員數等ハ別ニ之ヲ定メ縣ヨリ通告ス
- ロ、前項ノ通告ヲ受ケサル者奉迎送ヲ爲サトスル場合ハ豫メ係員又ハ警察官吏ト協議スルコト
- ハ、御召列車御通過驛及御沿道筋ニ於テハ當該驛長、係員、警察官吏等ノ指揮ヲ受ケ指定ノ場所ニ於テ奉迎送ヲ爲スコト

二、引率及整列

- イ、奉迎送ノ生徒、兒童、團體員ニハ其ノ監督上必要ナル員數ノ引率者ヲ配置シ且成ルヘク校醫等ヲ附添ハシムルコト
- ロ、學校職員團體引率者ハ部隊ノ各要所ニ相當ノ間隔ヲ保チ前列地線ニ位置シ指揮者ハ部隊ノ右翼（右ヨリ通御ノ場合）又ハ左翼（左ヨリ通御ノ場合）ノ適宜ノ場所ニ位置スルコト
- ハ、奉迎送ノ際ハ約一時間前ニ指定ノ場所ニ參着整列ヲ了ヘ靜肅ヲ旨トスルコト
- ニ、生徒、兒童、團體引率者ハ通御後係員ノ指揮ニ依リテ隊伍ヲ組ミタルママ他ノ地點ニ退去シ後混雜セサル様解散セシムルコト

ホ、生徒、児童、團體員中傳染性疾病ニ罹リ又ハ其ノ治療後間モナキ者ハ勿論其ノ他ノ疾病アル者及身體虛弱ニシテ奉迎送ニ堪ヘ難キ者ハ遠慮セシムルコト

ヘ、通御ニ際シ團體旗、手旗等ヲ振り動かササルコト

三、敬禮

奉迎送ノ際ニ於ケル敬禮方ハ指揮者カ前驅ノ見エタル時「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ一齊ニ脱帽セシメ適當ナル時機ヲ見計ラヒテ「禮」ノ號令ニテ最敬禮セシメ「直レ」ノ號令ヲ下シテ元ノ姿勢ニ復セシメ鹵簿カ指揮者ノ前ニ達シタル時ハ直立不動ノ姿勢ヲ以テ目迎目送セシムルコト

四、服裝

一般ニ華美ヲ避ケ且敬意ヲ失セサルコトニ注意シ左ノ標準ニ依ルコト

イ 引率代表者

男 子

洋裝 成ルヘクフロックコート、シルクハット又ハモーニングコート、黒山高帽、黒革製靴

和裝 紋付羽織、袴、白足袋

女 子

和裝 成ルヘク白襟紋付、白足袋

ロ 其ノ他ノ男女教員

成ルヘク禮服用ノコト

ハ 生徒、児童、團體員

服制アル者ハ制服、和服ノモノハ袴、履物ハ成ルヘク靴又ハ草履ヲ用キルコト

五、設備要項

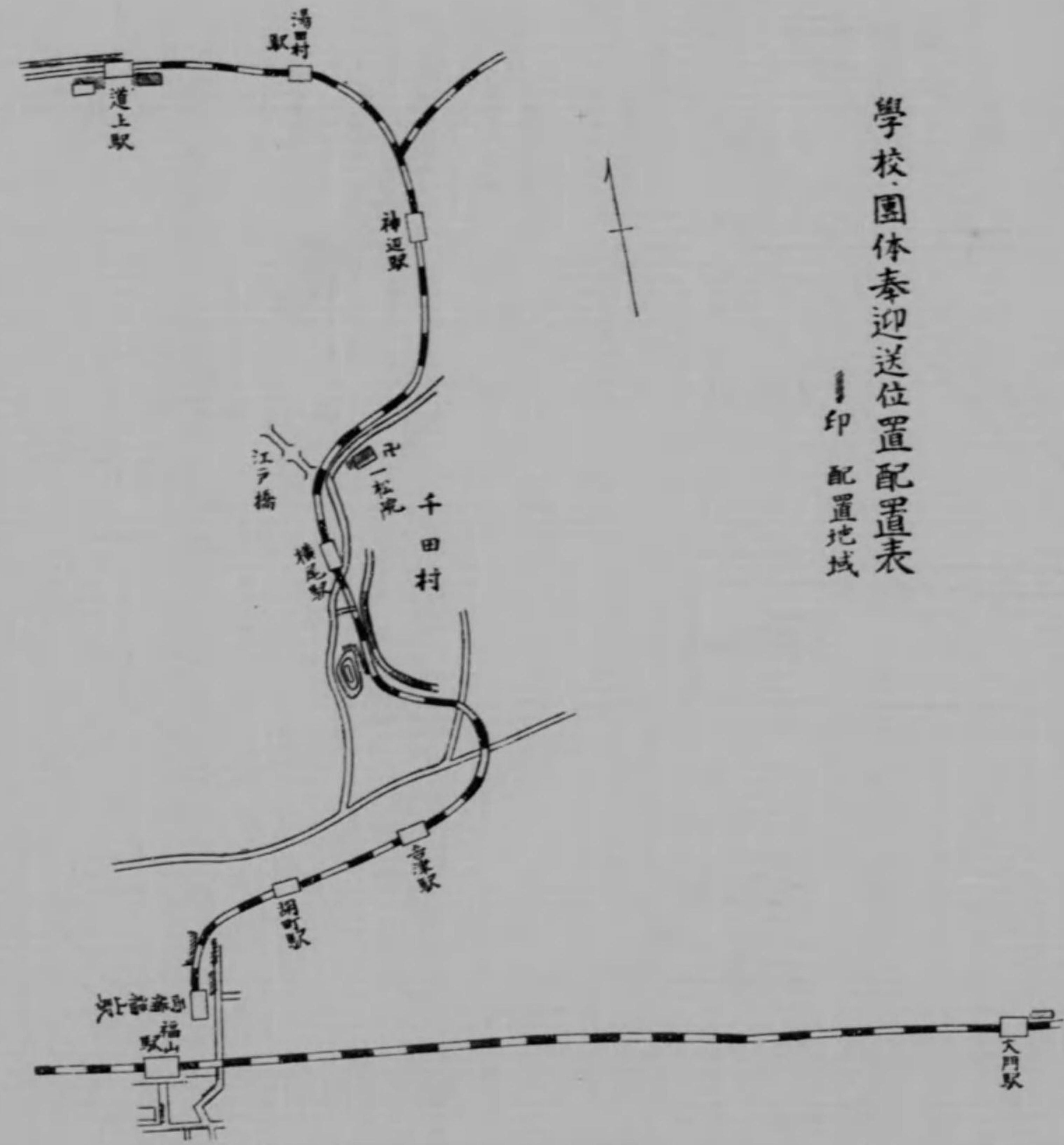
1. 奉送迎の場所では各列の最前線に繩を張りて列を整頓した。
2. 整列の便を圖る爲に各學校團體名を記した立札を作り各所屬學校團體の最後方に建てた。

學校團體奉迎送人員表

團體別	市町村		福		實業補習生徒	青年團員	青年訓練所生徒	軍人	消防組員	少年團員	計
	小學	同上	福山市	瀬戸村							
赤坂村	一四五年以上	八〇	五〇	五〇	二〇	一	一	一	四三一		
深津村	三三五年以上	二五	五〇	五〇	五	一	一	六〇六			
福山市	三、四、一三年以上	一三〇	七〇	一五三	一〇〇	七	五〇	四、一九八			
計									五七八		

心中村田千							心中驛門大					
道	合	千	神	組下	加	中	服	合	坪	大	引	春
上	計	田	邊	合加	茂	條	部	計	生	津	野	日
村		村	町	村茂	村	村	村		村	野	村	村
三三三	二、三三九	四三三	五五七	三七五	二九五	六七五	三八五	一、〇九九	二九五	四三三	三五三	三四五
以上		以上	以上	以上	以上	以上	以上		以上	以上	以上	以上
六四	四八〇	一七〇	一三五	三五	一五	五五	八〇	二二四	三五	八九		
												女男
七二	六五	一五〇	一〇〇	二〇〇	三〇〇	五〇〇		二六七	一七〇	一〇〇		四〇五
七六	三五	三五	八〇	二〇〇	三〇〇	五〇〇			一〇〇	五〇〇		
二六	五五			二五	三〇			一〇三	一五	八七		
七三	三三〇	一〇〇	八〇	四〇	五〇	三〇	三〇	五〇		五〇		
一三〇	三七〇	一〇〇	七〇		一〇〇	五〇	五〇	五〇		五〇		
六五三	四、一八九	九九七	一、〇一三	五三一	五五九	五五二	五四八	一、六八三	一八六	八六七	三五五	三〇四

心中市山												
合	森	市	御	宜	手	水	吉	草	熊	山	津	川
計	脇	村	野	山	城	呑	津	戸	野	手	ノ	口
村	組		村	村	村	村	組	組	村	組	郷	村
七、二一五	二二五	三五三	二六五	六四五	二四五		五八三	八三五	二〇〇	三二五	三三五	四〇〇
	以上	以上	以上	以上	以上		以上	以上	以上	以上	以上	以上
六三四	三三	五六	四〇	六	一六			四	三	三	二五	一〇〇
一、三四五	一〇〇	三三〇	三三〇		三六		三〇〇	一九五	二〇〇	三二	四〇	六八〇
七七五	六七	四三	六〇		三六		一八	八	六〇	四三	三五	三〇
四六五	五〇	三三	三〇		三	五		一五	二〇		三	
三三〇	一〇〇	五〇	三〇		三				五〇			
五〇												
一〇、七二四	六〇〇	五五五	三三六	三四五	三六		七三六	一七三	四三〇	三二三	四四三	六七〇



學校・団体奉迎送位置配置表
印 配置地域

中等學校
 福山師範學校 三八〇
 門田高等女學校 三四六
 增川高等女學校 二六五
 濟美實科高等學校 一八六
 合計 一二七七

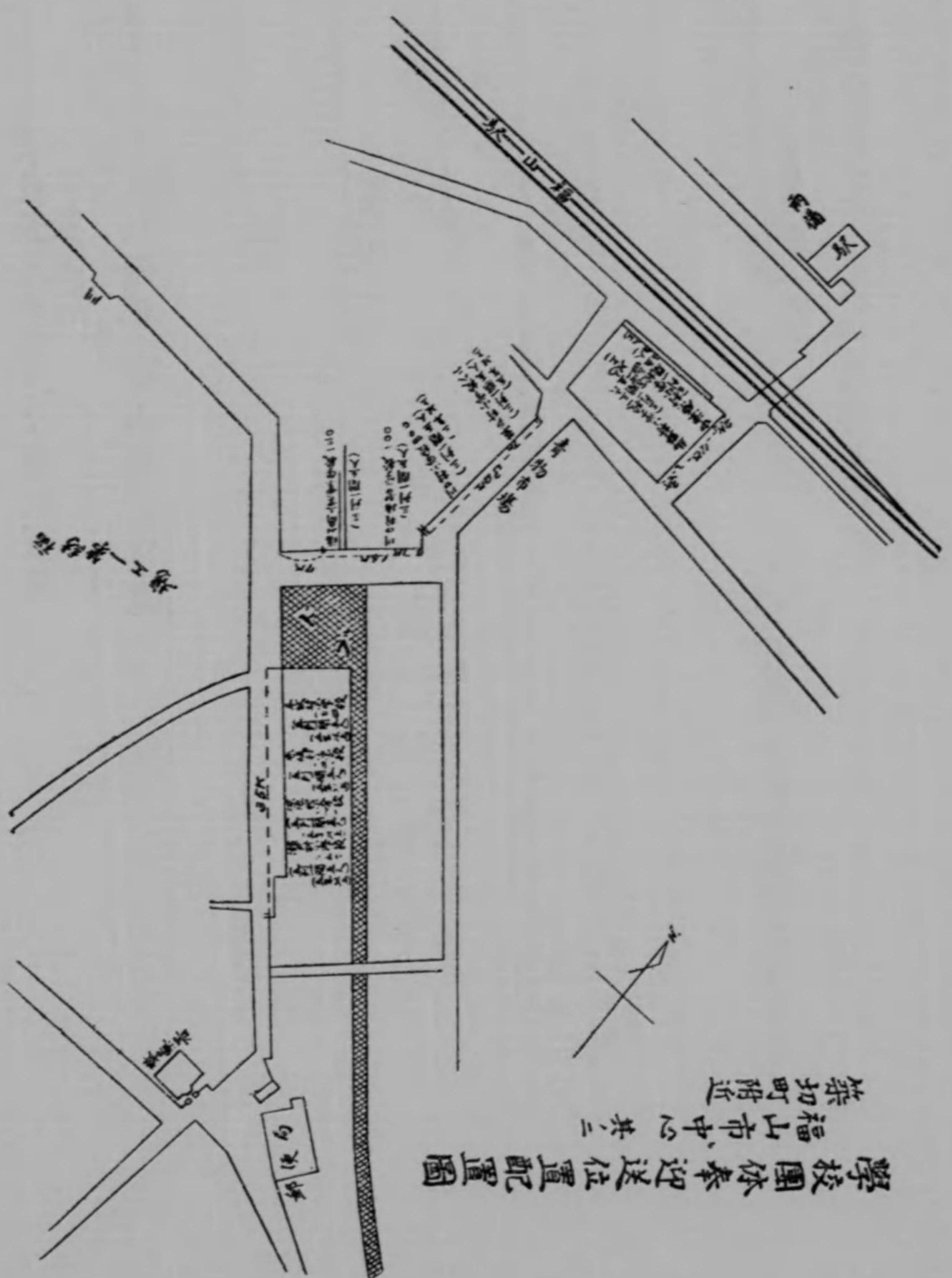
深安技藝女學校 二〇〇

道		上		驛		中		心	
湯田村	驛家村	近田村	戸手村	廣瀬村	福相村	新市町	合計	總計	
三三	三六	三三	一七	一四	九	七	一、三九〇	一、九四三	
三	三	三	三	三	一	一		一、五〇一	
六九	六五	三〇	一	三	一五	一	二七三	二、七八三	
五三	七〇	一五	四〇	一〇	一	三	五五六	一、三〇五	
八六	四〇	一	一	四	四	三	二七三	一、二一三	
三	八〇	一〇	一	一	五	五	二六八	一、〇七〇	
三	一〇〇	三	一	三	三	三	三三〇	五〇	
六五	七三	二七	二六〇	二七三	二二	三三	三、〇八〇	一九、六六五	七六〇

福山市中心 其一
新馬場延廣町附近
學校園体奉迎送位置配置圖

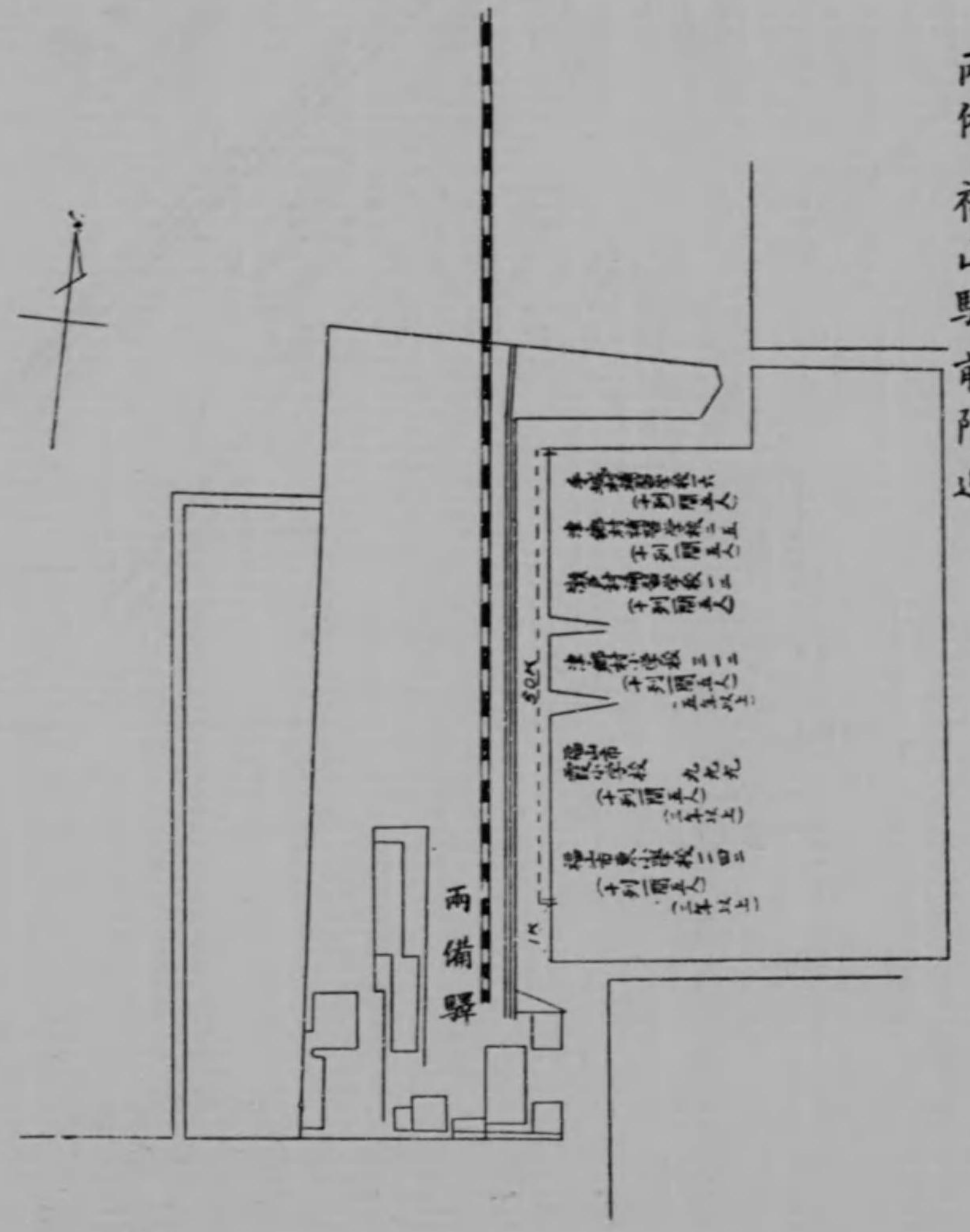


福山市中心 其二
新馬場延廣町附近
學校園体奉迎送位置配置圖

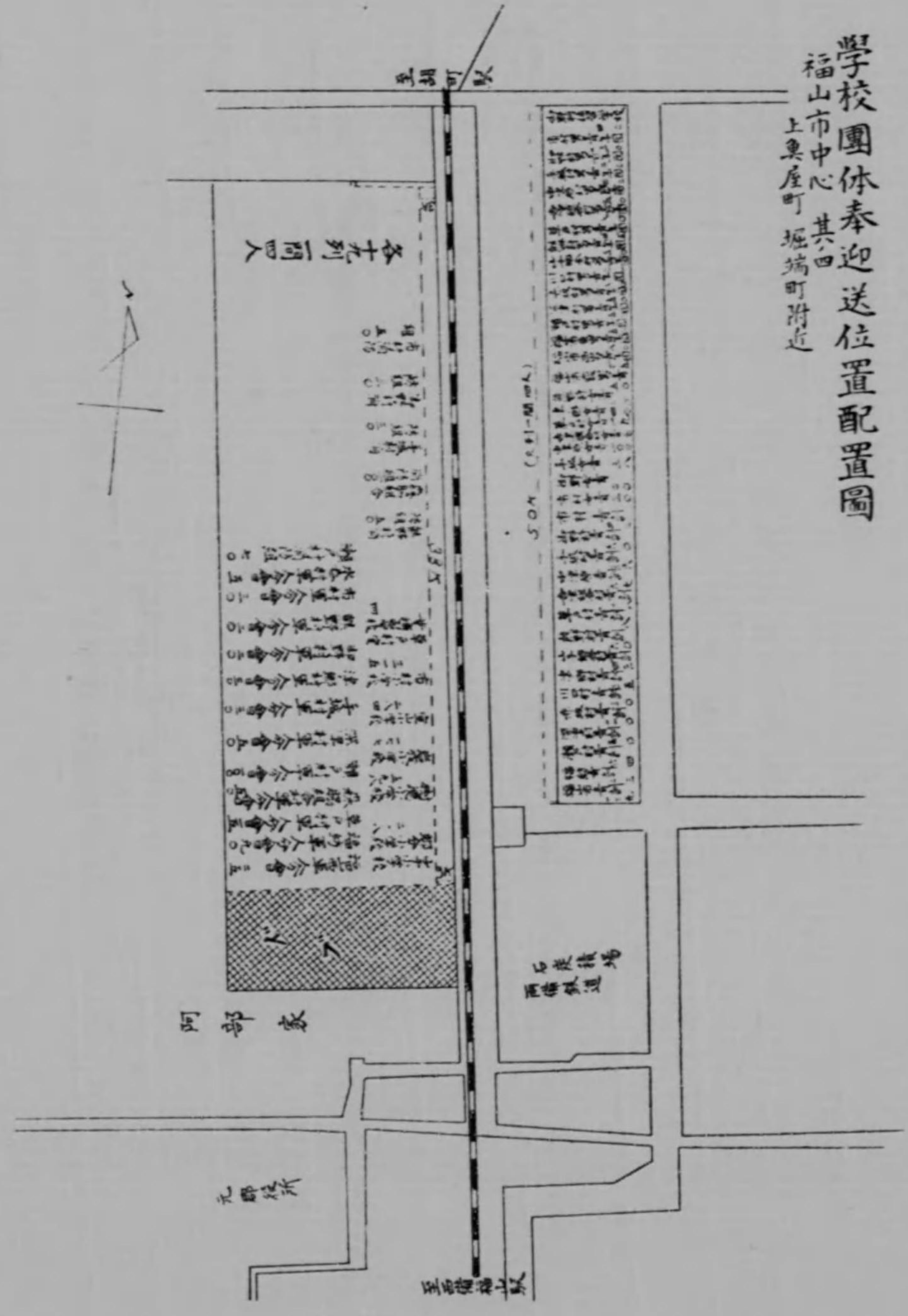


福山市中心 其二
新馬場延廣町附近
學校園体奉迎送位置配置圖

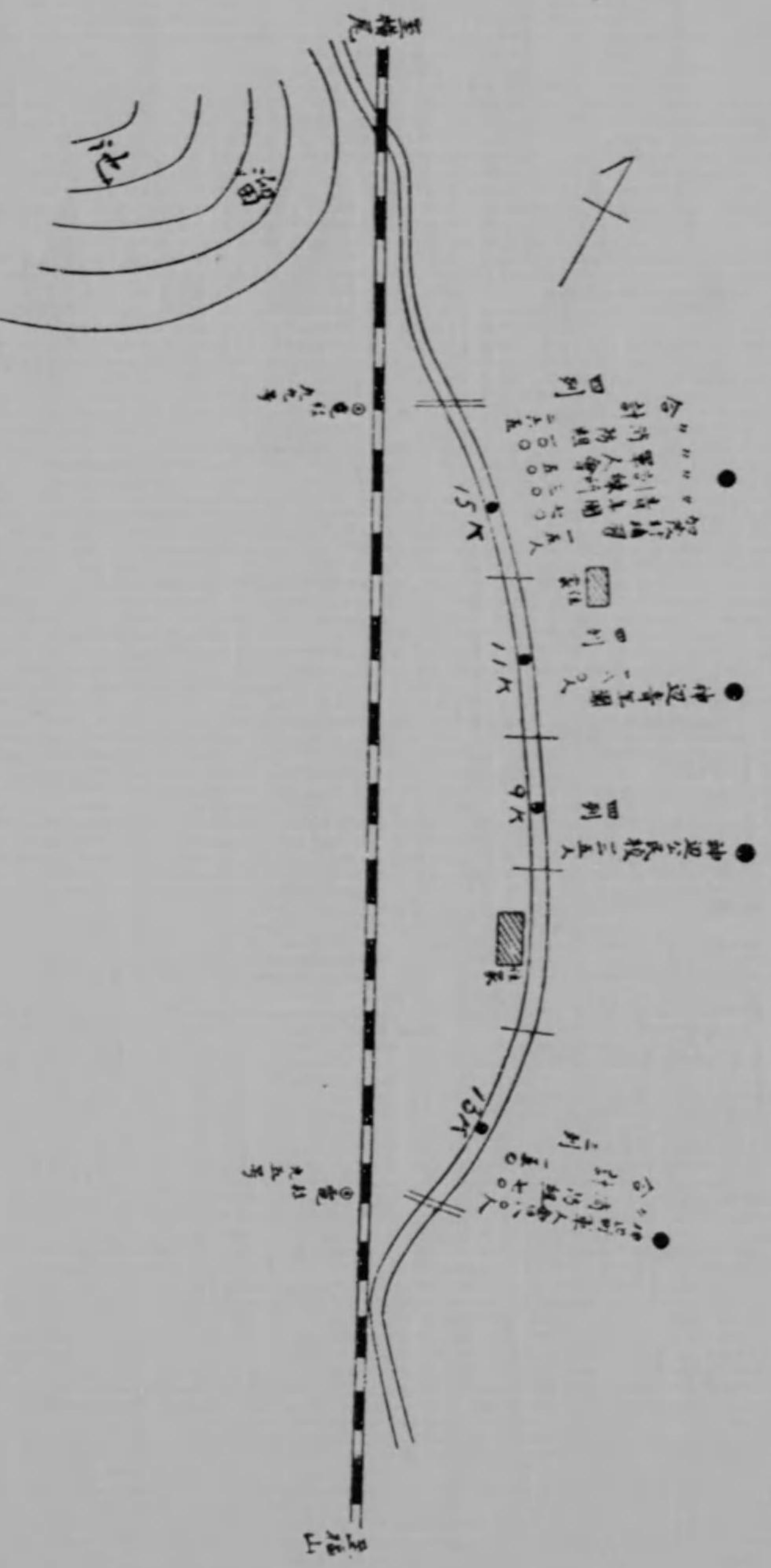
學校團體奉迎送位置配置圖
 福山市中心
 其三
 兩備 福山驛前附近



學校團體奉迎送位置配置圖
 福山市中心
 其四
 上奥庄町 極端町附近



圖置配置位送迎春休園技學
 車甸池留



圖置配置位送迎春休園技學
 近附路款

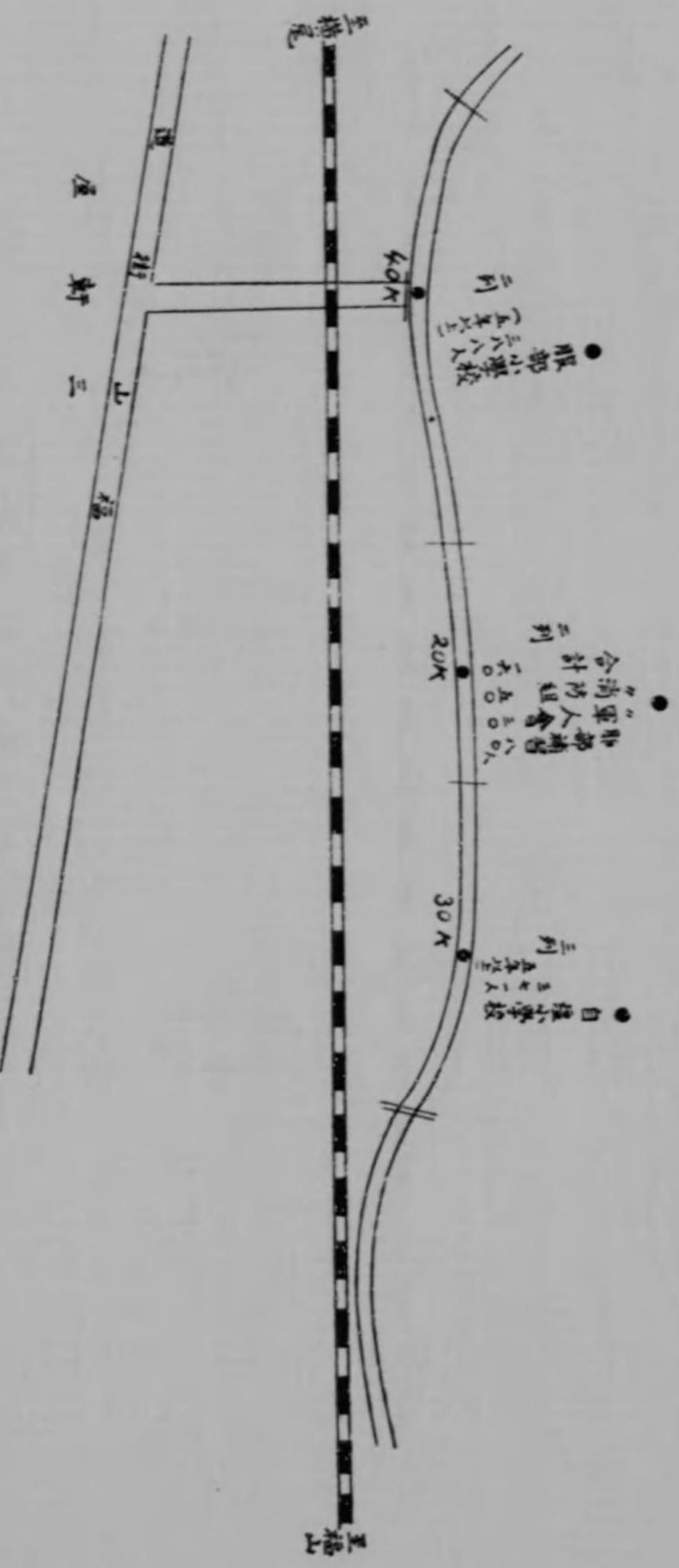


圖 置配置位送迎奉体團校學
近附路筱池溜

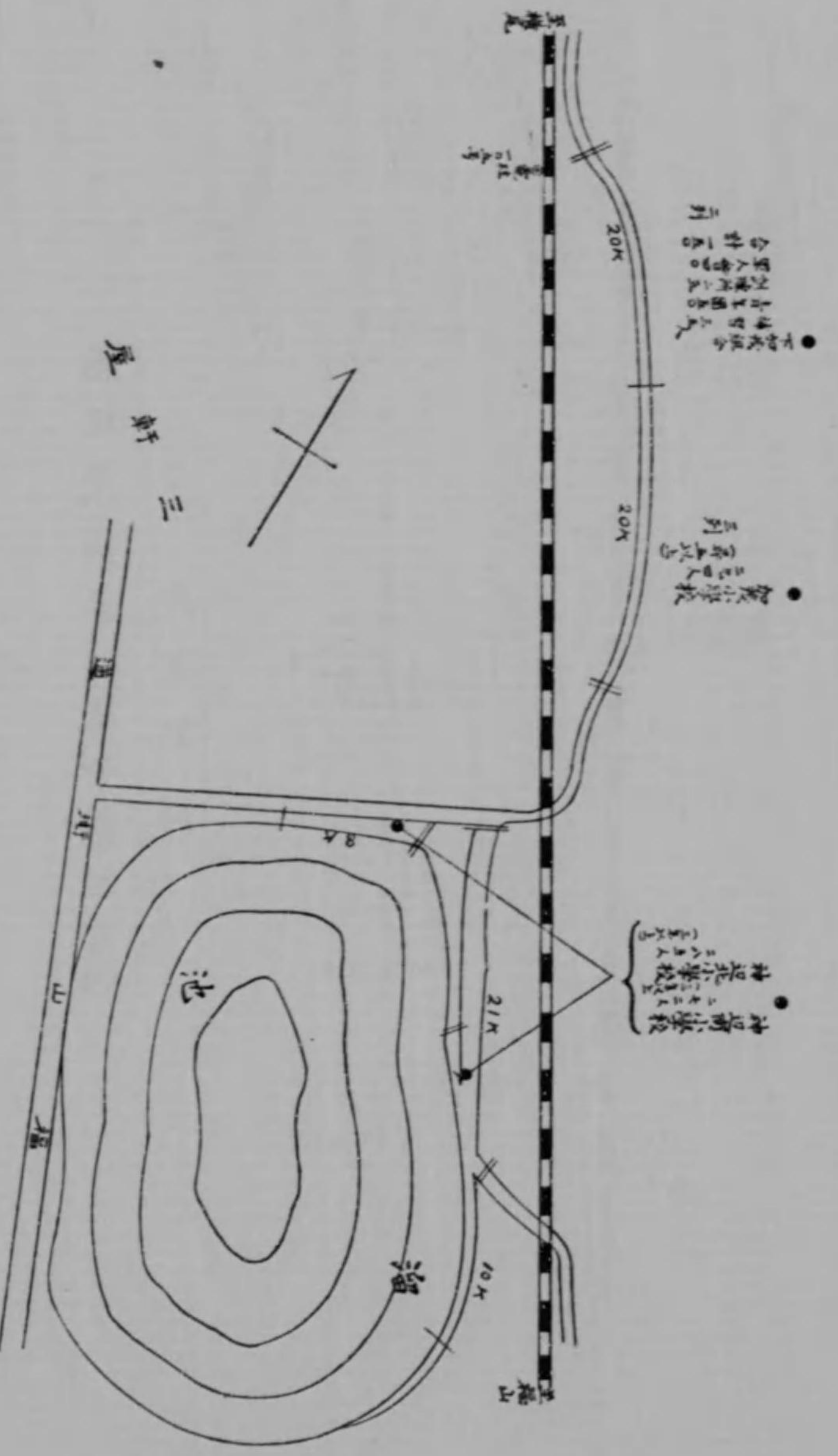
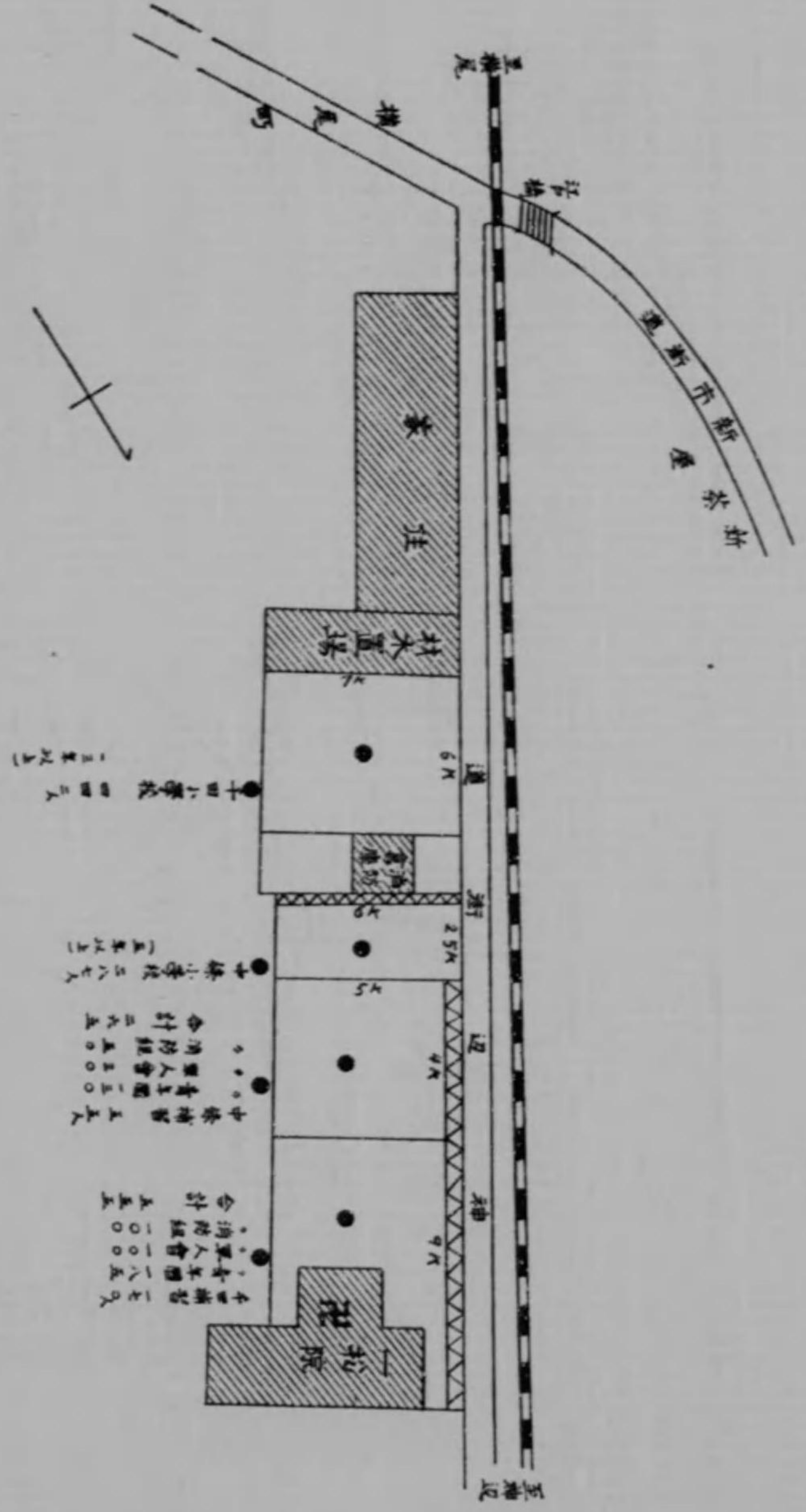
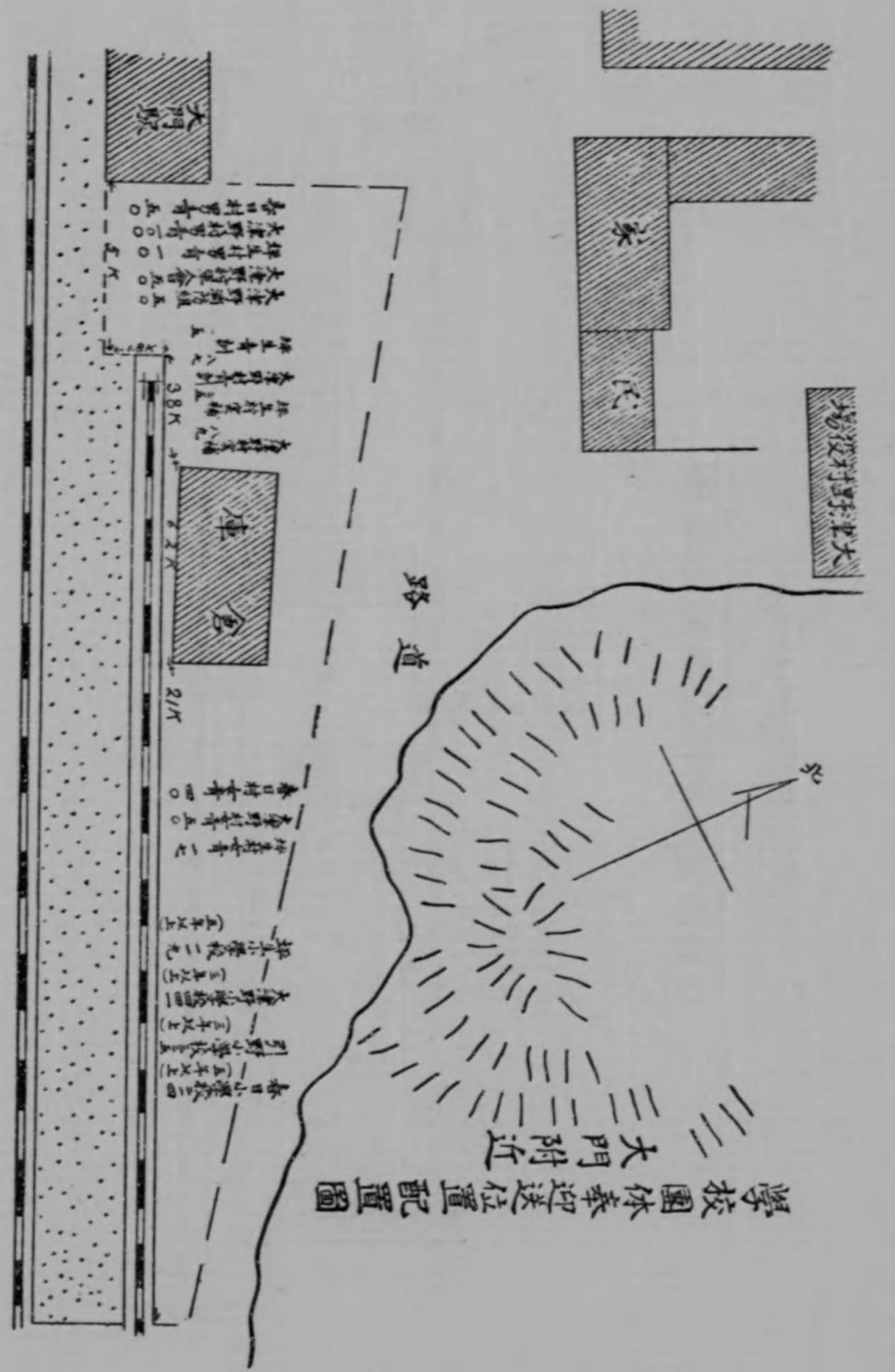


圖 置配置位送迎奉体團校學
內境院括一



學校圍體奉迎送位置配置圖

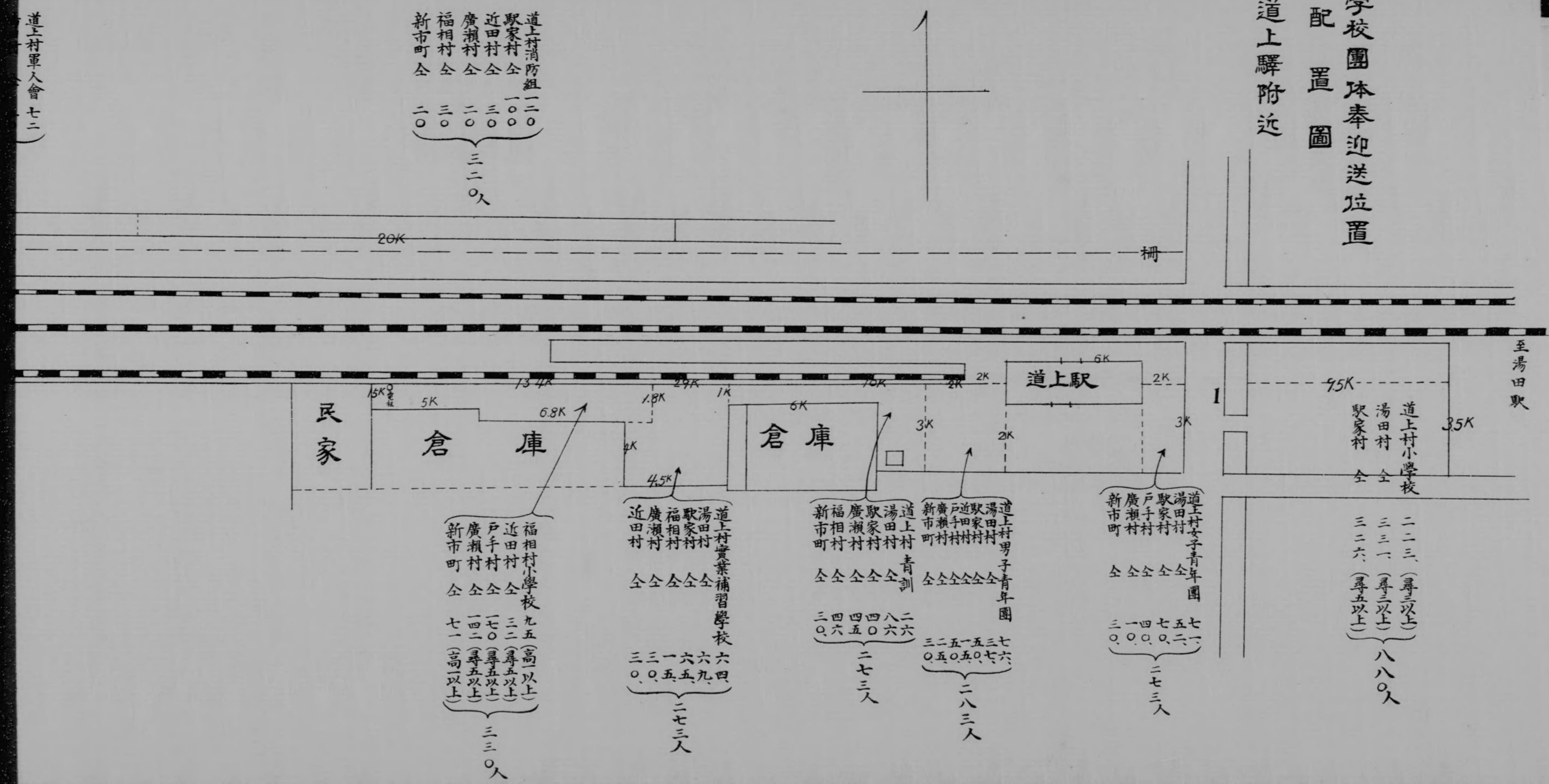


學校團體奉迎送位置
配置圖

道上驛附近

道上村消防組 一二〇
 馱家村 全 一〇〇
 近田村 全 三〇〇
 廣瀨村 全 二〇〇
 福相村 全 三〇〇
 新市町 全 二〇〇
 三二〇人

道上村軍入會 七二



福相村小學校 九五(高以上)
 近田村 全 三二(尋五以上)
 戶手村 全 一七〇(尋五以上)
 廣瀨村 全 一四二(尋五以上)
 新市町 全 七一(高以上)
 三三〇人

道上村實業補習學校 六四
 湯田村 全 六六
 馱家村 全 一六
 福相村 全 一五
 廣瀨村 全 三一
 近田村 全 三〇
 二七三人

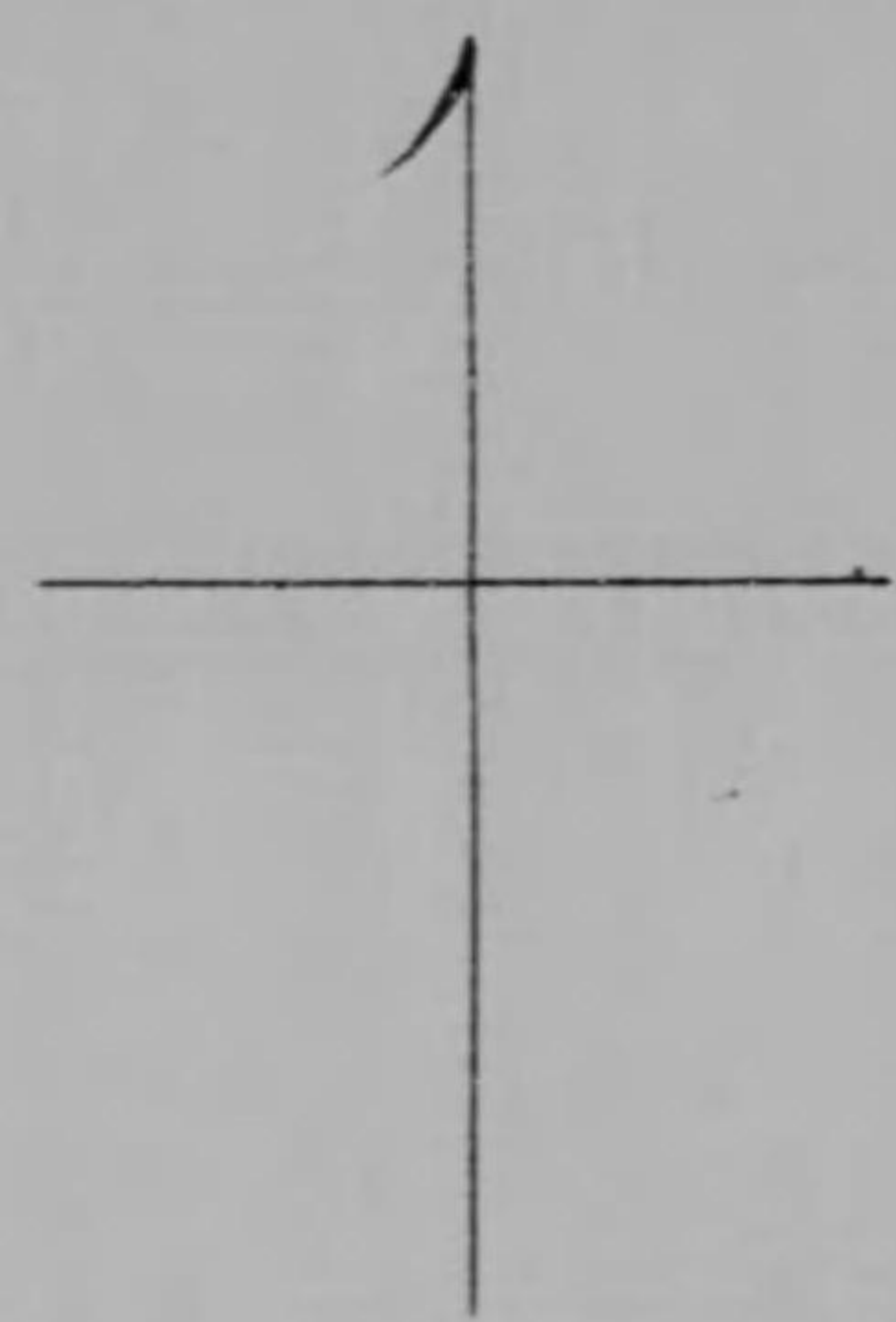
道上村青年團 二六
 湯田村 全 八六
 馱家村 全 四〇
 廣瀨村 全 四四
 福相村 全 四五
 新市町 全 四〇
 二七三人

道上村男子青年團 三七
 湯田村 全 五〇
 馱家村 全 五〇
 廣瀨村 全 五〇
 新市町 全 二五
 二八三人

道上村女子青年團 七二
 湯田村 全 五二
 馱家村 全 七〇
 廣瀨村 全 一四〇
 新市町 全 三〇〇
 二七三人

道上村小學校 二二三(尋三以上)
 湯田村 全 三三一(尋三以上)
 馱家村 全 三二六(尋五以上)
 八八〇人

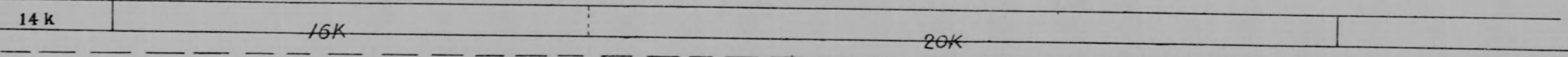
至湯田駅



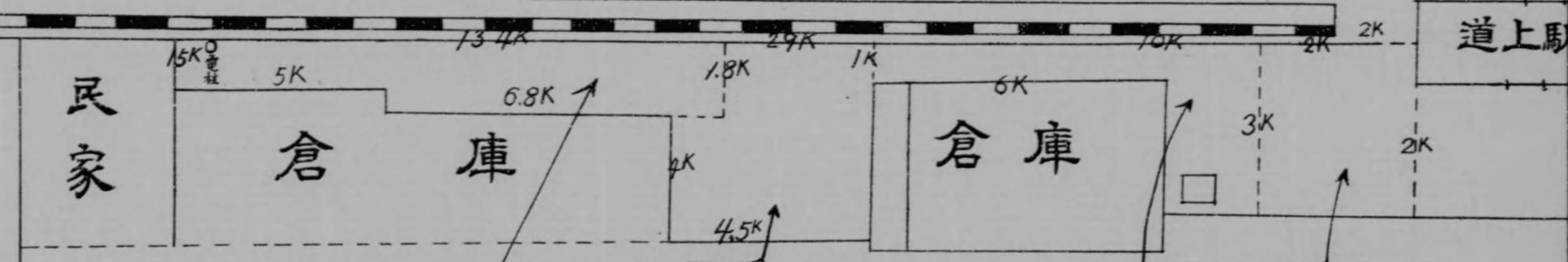
道上村消防組 一〇〇
 近田村 全 一〇〇
 廣瀨村 全 一〇〇
 福相村 全 一〇〇
 新市町 全 一〇〇
 三二〇人

道上村軍入會 七二
 湯田村 全 三〇
 歌家村 全 八〇
 近田村 全 一〇〇
 廣瀨村 全 二六
 新市町 全 五〇
 二六八人

深妻技藝女學校 二〇〇人



至萬能倉駅



福相村小學校 九五(高)以上
 近田村 全 三二(尋五)以上
 戸手村 全 一七〇(尋五)以上
 廣瀨村 全 一四二(尋五)以上
 新市町 全 七一(高)以上
 三三〇人

道上村實業補習學校 六四
 湯田村 全 六六
 歌家村 全 一六
 福相村 全 一五
 廣瀨村 全 三三
 近田村 全 三〇
 二七三人

道上村青年團 二八三人
 湯田村 全 三七
 近田村 全 一五
 廣瀨村 全 五〇
 新市町 全 三二
 二七三人

道上村青年團 二八三人
 湯田村 全 三七
 近田村 全 一五
 廣瀨村 全 五〇
 新市町 全 三二
 二八三人

第三節 御親關係

第一款 準備事務概要

一、事務分掌

係別	擔任事務	官職	氏任者名
係別	一、各係ノ連絡 一、岡山縣下ノ連絡及交渉 一、通 信 一、自 動 車 一、豫 算 整 理 一、他係ニ屬セサル事項	官 職	主 任 岡 太 住 谷 一 東 歸 松 島 譽 司 巖
係別	一、輸 送 指 揮 一、岡山驛ノ乗降ニ關スル一切ノ事務 一、各團體ノ宿營休止及集合ノ行動 一、岡山縣誘導係下ノ連絡	社 會 教 育 主 事 雇 書 屬 記	主 任 澤 原 正 後 藤 靜 吉 野 悅 栗 田 豪 夫 郎 登

係隊部唱奉	係隊部列分	係護救	係養休及備設	係散
<ul style="list-style-type: none"> 一、奉唱部隊集合援助 一、奉唱部隊編成 一、奉唱部隊指揮 一、奉唱部隊解散援助 	<ul style="list-style-type: none"> 一、分列部隊集合援助 一、分列部隊編成 一、分列部隊指揮 一、分列部隊解散援助 	<ul style="list-style-type: none"> 一、救護隊指揮 一、參加者及陪觀者ノ救護 	<ul style="list-style-type: none"> 一、宿營及休止所ノ設備 一、事務所及御親閱事務本部ノ設備 一、式場ノ設備 一、給養 	<ul style="list-style-type: none"> 一、解散計畫
		學校衛生技師 書記	同屬視學	體育主事 視學
武居大尉	主任 長島中佐 各學校團體ノ配屬將校及教師	濱田友次郎 富士盛彰 岡田寶	主任 小川盛人郎 後藤盛 東歸	高野孫二郎 小川一登 住谷一郎

解及合集	係所止休及營宿
<ul style="list-style-type: none"> 一、宿營及休止所主任トノ連絡 一、部隊編成 一、集合所設備 	<ul style="list-style-type: none"> 一、宿營ノ指揮 一、宿營及休止員ノ給與 一、集合解散輸送ノ方法時刻等ノ指揮 一、輸送指揮者各種團體引卒者各種團體郡市代表者トノ相互連絡 一、携帶品ノ處理 一、部隊編成ノ援助 一、解散計畫ノ援助
同視教育主事 視學	同視教育主事 同視學 同視學 同視學 同視學 同視學
主任 長島中佐 野平正男 佐藤正男 大石靜信	主任 内藤八郎 瀨田平八 東尾勤 間下多 日原多 中村一 坪山太 松尾三 島田修 野田修 松島豪 栗田豪 栗田豪

郡市各團體代表者	一、輸送	部、市、各、市、郡、各、團、體、代、表、者
	二、宿舎	二、宿、舎、給、養
	三、集合	三、集、合、解、散
	四、部隊編成	四、部、隊、編、成

二、事務計畫

岡山、廣島、山口三縣が主催となり大演習終了後岡山練兵場で御親閲を賜はる事となつたので、七月以降四回に亘り三縣學務部長會議を開催して事務計畫の打合をなした。其の要領は左の通である。

御親閲概要

一、御親閲式結構ニ關スル件

(一) 時 日

十一月十九日午後一時(豫定)

(二) 場 所

岡山練兵場

(三) 主 催

岡山、廣島、山口、三縣

(四) 參加團體

1. 分列部隊

高等專門學校程度以上ノ學校

中等程度ノ男子學校

青年訓練所 (青年訓練所充當實業補習學校並青年訓練所規程第八條認定學校ヲ含ム)

男子青年團 (實業補習學校ヲ含ム)

在郷軍人分會

2. 奉迎歌奉唱部隊

中等程度以上ノ女子學校

女子青年團 (實業補習學校ヲ含ム)

(五) 參加人員

約五萬人

內廣島縣 約一萬三千人

岡山縣 約三萬人

山口縣 約七千人

廣島縣受閱人員内譯

人員	103	471	2398	957	2033	3130	482	1327
種別	高等専門 ノ學校以上	男子 中等學校	青年 訓練所	男子 青年團	在郷軍人 分會	中等學校 以上ノ女子	青年 女子團	計

備考

職員ノ數ハ人員中ニ含ム

分列ニ參加スル職員左ノ如シ

中等學校以上

校長又ハ代理者

職員 四以下

青年訓練所

指導員 二以下

主事又ハ代理者

一

青年團

一

團長又ハ代理者

一

(六) 參加者資格

1. 身體強壯ナルモノナルコト

2. 志操堅實ナルモノナルコト
3. 團體行動ヲナシ得ルモノナルコト

(七) 部隊編成

1. 分列部隊
2. 分列部隊ハ數中隊ノ大隊ヲ以テ單位トシ數大隊ヲ以テ一集團トス
3. 奉迎歌奉唱部隊

參加人員ニ應ジ一若クハ三集團ヲ編成ス

(八) 御親閲式次第

集合

臨御

氣ヲ付ケ(喇叭吹奏)

「君カ代」奏樂(一回)

敬禮

喇叭一聲吹奏

「君カ代」奏樂(一回)

分 列

知事御親閱ヲ仰キ奉ル旨奏上

(分列開始) (喇叭「前」吹奏)

分 列 奏 樂

奉迎歌奉唱 (一回)

(奏 樂)

君カ代奉唱 (二回)

(奏 樂)

萬 歲 三 唱

知事發聲ニ依ル

敬 禮

知事行事終了ノ旨奏上

喇叭一聲吹奏

還 御

君カ代奏樂

(九) 分 列 順 位

岡山縣中等學校

同 青年訓練所

同 青年 團

廣島縣中等學校

同 青年訓練所

同 青年 團

山口縣中等學校

同 青年訓練所

同 青年 團

高等專門學校以上ノ學校

岡山縣在郷軍人分會

廣島縣在郷軍人分會

山口縣在郷軍人分會

備考 各種別内ニ於ケル順位ハ行列順位ニ依ル

(一) 設 備

1. 式場設備

玉 座

御休憩所

「奉迎歌」及「君ヶ代」並萬歳ヲ指揮スル臺

集團位置標札

分列目標並旋回點ノ標識

受付 救護所 湯呑所 便所

陪觀席 拜觀席 (柵ノミ)

車馬置場 (位置ヲ定ムルノミ)

通信設備

其ノ他

2. 集合場設備

立札 湯呑所 救護所 便所等

二、集合解散ニ關スル件

(一) 輸 送

1. 鐵道當局ニ交渉シ臨時列車等ニ依リ可及的御親閱當日岡山ニ發着シ得ルヤウ依頼スルモノトス

2. 汽車貨ハ參加者全員(學生ヲ除キ)ヲ一團體トシ二割引トス團體若シクハ個人ニ割引證ヲ交付ス

3. 團體ハ學生ヲ一團トシ青訓、青年、在郷ヲ合シテ一團トス

右ハ郡市ニヨリ分ツ

4. 各團體ハ前日輸送スルモノト當日輸送スルモノトニ二分ス

5. 歸途ハ可成前日輸送ノモノヨリ始ムルモ列車ノ都合ニヨリ必ズシモ其順序ニヨリ難キコトアル

ベシ

6. 輸送指揮者ハ驛毎ニ定メ尙列車内ニテハ車輛毎ニ別ニ指揮者ヲ定ム

7. 歸途ハ下車時刻ヲ考慮シ必要ナルモノハ驛附近ニ休憩所又ハ宿舍ノ準備ヲナスコト

8. 參加者ハ指定セル列車以外ニ乗車スルコトヲ許サズ

9. 輸送計劃ハ九月末決定ノ豫定ナリ確定ノ上ハ速ニ關係者ニ通知ス

(二) 集 合

1. 混雜ヲ避クル爲約十ヶ所ノ集合所ヲ設ケ指定ノ時刻マデニ集合セシメ整列隊形ヲ整へ逐次式場

ニ參集セシム

2. 集会所位置及び其ノ團體配置ハ十月末日迄ニ各關係者ニ通知ス
(三) 退出及解散

順序ニ從ヒ式場ヲ退出シ汽車輸送ノ關係ヲ顧慮シテ一定ノ場所ニ集合シ逐次解散又ハ輸送ヲ行フ
三、宿營及給養ニ關スル件

(一) 給 養

1. 給養ハ各學校、青年訓練所、青年團、在郷軍人毎ニ之ヲ行フ
 2. 式場及各集会所ニ於ケル湯茶ノ設備ハ岡山縣ニ於テ行フ
 3. 各自水筒ヲ携帯スルモノトス
 4. 參加者ハ御親閲當日携行容易攝取簡易ニシテ穀ノ始末ニ便ナル辨當ヲ携行スルモノトス
 5. 食事時間ハ必ズシモ正確ヲ期シ難キヲ以テ辨當ノ外少量ノ食物ヲ携行スルヲ可トス
- 附記 各集会所ニハパン、キャラメル等菓子類ノ販賣所ヲ設クル豫定

(二) 宿 營

1. 止ムナク宿泊ヲ要スルモノ、爲ニ岡山市在約十個ノ學校ヲ以テ宿舍ニ充ツル豫定ナリ人員多數ノ見込ナルヲ以テ設備ハ不完全ナルヲ免レズ雨露ヲ凌グ程度ニ過ギザルベシ板間ニハ藁ヲ敷キ炭火ニヨリ暖ヲ採ルノ外不充分ナレドモ寢具ヲ準備ス設備ニ關スルモノハ概ネ縣ニ於テ之ヲ行

ヒ食事寢具等宿泊ニ要スル經費ハ宿泊者ノ負擔トス

2. 宿泊料ハ一夜五十錢、夕食廿五錢、朝食十五錢位ノ見込ナリ宿營ニ關スル一切ノ計劃ハ十月中旬ニ決定ス

四、奉迎歌ニ關スル件

御親閲式ニ於テ奉唱スベキ奉迎歌ハ己ニ各縣ニ於テ奉唱部隊ヨリ之ヲ募集シ三篇宛ヲ選定シ九月十日岡山縣ニ送付シタリ岡山縣ニ於テ選者ヲ定メテ選定シ作曲ハ陸軍戸山學校ニ委嘱ノ上十月十日頃關係方面ニ配布スル豫定ナリ

五、參加人員ニ關スル件

參加者種類及人員ハ九月六日ヲ以テ締切リ各團隊編成ヲ終ヘタルヲ以テ今後ハ參加人員ノ變更ヲ許サルモノトス若シ參加人員中ニ支障ヲ生ジタル場合ハ學校長、主事及團長ニ於テ適當ナル人物ヲ選ビ之ヲ補充スルコト、シ萬一缺員補充ヲ行ヒ得ザル場合ト雖輸送及宿營費ハ之ヲ參加申込者ヲシテ支辨セシムルコトアルベシ

六、高等専門學校程度以上ノ學生生徒及在郷軍人ノ參加ニ關スル件

各縣所在ノ高等専門學校程度以上ノ學生生徒參加人員ハ各縣ニ於テ在郷軍人ノ參加人員ハ支部及聯合支部ニ於テ取纏メ岡山縣及第十師團司令部ニ於テ九月末日迄ニ其集團ノ編成ヲナスモノトス

七、豫行演習ニ關スル件

七七四

廣島市ニ於テ豫行演習一回ヲ行フ時期ハ概ネ十一月上旬トス此ノ場合ニハ陸軍々樂隊ヲ招聘ス其ノ際ニハ受閱參加者ハ全員之ニ出席スルコト若シ已ヲ得ザル事情ノ爲參加者ノ出席困難ナル場合ト雖各團體長及幹部等ハモレナク出席スルコト
右ノ外各郡市等ニテ相當回數豫行ヲナスコト

八、服裝ニ關スル件

(一) 陪列陪觀者ノ服裝

1. 男子

「フロックコート」若ハ「モーニングコート」帽子ハ「シルクハット」若ハ黒山高帽、靴ハ黒ノ革製トシ制服アルモノハ之ニ相當スル制服トス（軍人ハ通常禮裝トシ陸軍ニ在リテハ刀ハ一銀長靴ヲ用フルコトヲ得）

和服ノ場合ハ紋付羽織、袴、帽子ハ黒山高帽又ハ中折帽トス

2. 女子

「ビヂテングドレス」又ハ白襟紋付トス

(二) 參加者ノ服裝

1. 分列參加者ノ服裝

- (1) 職員ハ制服又ハ「フロックコート」若ハ「モーニングコート」トシ帽子ハ「シルクハット」若ハ黒山高帽トス在郷軍人タル青年訓練所教練指導員ハ分列參加者ノ服裝「4」ニ準ズルモ差支ナク且在郷下士等ニシテ中隊長ノ位置ニアル者ハ分列參加者ノ服裝「5」ニ依ルモノトス
- (2) 男子學生生徒ハ制服（冬服）トシ武裝スルモノトス但シ事情已ムヲ得ザルトキハ此限リニアラズ尙武裝部隊ノ中隊長トナルベキ生徒ハ教練用ノ指揮刀ヲ帶ブルモノトス
- (3) 青年訓練所生徒及青年團員ハ當該訓練所及青年團ニ於テ制服ノ定アルモノハ之ニ依リ靴若ハ地下足袋ヲ用フ服裝ノ制定ナキモノハ其ノ町村ニ於テ各團體毎ニ分列ニ適當ナルモノヲ選ビ可成一定スルヲ可トス
武裝ハ各訓練所ノ隨意トス脚絆ハ之ヲ用フ
青年團長ハ其ノ團ノ制服若ハ分列參加者ノ服裝「1」ニ依ル
- (4) 軍人中陸軍ニアリテハ將校准士官ハ儀式ノ場合ノ軍裝トシ（背囊ヲ除ク）其ノ他ハ其ノ制服（脚絆ヲ穿ツ）ヲ着用ス海軍ニアリテハ第一種軍裝（脚絆ヲ穿ツ將校ハ短劍トス）
勳章記章及徽章ハ之ヲ佩用スルモノトス
- (5) 隊長（集團長、大隊長、中隊長）ハ將校准士官ニアリテハ儀式ノ場合ノ軍裝トシ（背囊ヲ除ク）

七七五

在郷下士等ニアリテハ軍服若クハ訓練服トシ武装部隊ノ隊長ハ教練用ノ指揮刀ヲ帶ブルモノトス

2. 奉迎歌奉唱参加者ノ服装

- (1) 女子職員ハ陪列陪観者ノ服装(若ハ式日ニ用ユル服装トス女子青年團長若ハ代理者タル女子ハ右ノ外質素ニシテ不敬ニ亘ラザルモノヲ以テシ袴ヲ用フルモ差支ナシ
- (2) 女子生徒ハ其ノ學校ノ制服(冬服)トス服制ナキ學校ニアリテハ質素ニシテ不敬ニ亘ラザルモノトシ袴ヲ用フルモノトス
- (3) 女子青年團員ハ質素ニシテ不敬ニ亘ラザルモノトス尙羽織及袴ハ着用セザルモノトス

(三) 拜観團體ノ服装

- 1. 學校職員ハ陪観者ノ服装若ハ不敬ニ亘ラザル服装トス
- 2. 生徒及兒童ハ其ノ學校ニテ定メタル制服又ハ質素ニシテ不敬ニ亘ラザル服装トス
- 3. 團體ノ役員ハ拜観團體ノ服装(一)ニ準ジ或ハ其ノ團體ノ制服ヲ用フルモノトス

(四) 援助委員(軍部)並係員ノ服装

- 1. 援助委員ハ將校准士官ハ儀式ノ場合ノ軍装トシ(背囊ヲ除ク)下士以下ハ徒手帶劍(脚絆ヲ穿ツ)トス

2. 係員ハ陪列陪観者ノ服装ニ準ズ

(五) 其ノ他注意事項

- 1. 外套又ハ雨覆ヲ携行スルモノハ御親閲中ニテ卷キテ左肩ヨリ右腋下ニ掛ケ背囊ヲ負フ者ハ之ヲ背囊ニ附着スルモノトス
- 2. 天候不良ノ場合ハ女子ノ洋傘及雨具ハ御親閲中ニテ左手ニ提ゲ
- 3. 水筒ハ各自ニテ携帶シ雜囊ハ携帶スルモ妨ナシ水筒及雜囊ハ御親閲中右肩ヨリ左腋下ニ懸ク
- 4. 女子ノ羽織ハ式場ニ於テハ之ヲ用ヒザルモノトス
- 5. 服装並携帶品等ニツキテハ各團體毎ニ十分注意シ豫メ集合場ニ於テ検査ヲナスモノトス
- 6. 旗手ハ帶刀セザルモノトス但シ帶劍ハ差支ナシ
- 7. 御親閲中携帶品ハ之ヲ携行スルヲ本體トスルヲ以テ可成輕便ニスルヲ要ス但シ女子ノ携帶品ハ事情ノ許ス限リコレヲ携帶セザルモノトス
- 8. 宿泊ヲ要スルモノハ特ニ防寒ノ用意必要ナルベキモ前項ノ理由ニ依リ可成着用シ得ル範圍ニ止ムルヲ可トス
- 9. 御親閲参加者ハ各自ニ次ノ如キ所屬團體號ヲ記入シタル標識布ヲ作り左胸部ニ之ヲ附着(安全ピン以テ上下ヲ止ムルヲ可トス)シ式場ニ整列シタル後撤去シ御親閲終リテ再ビ之ヲ附着スル

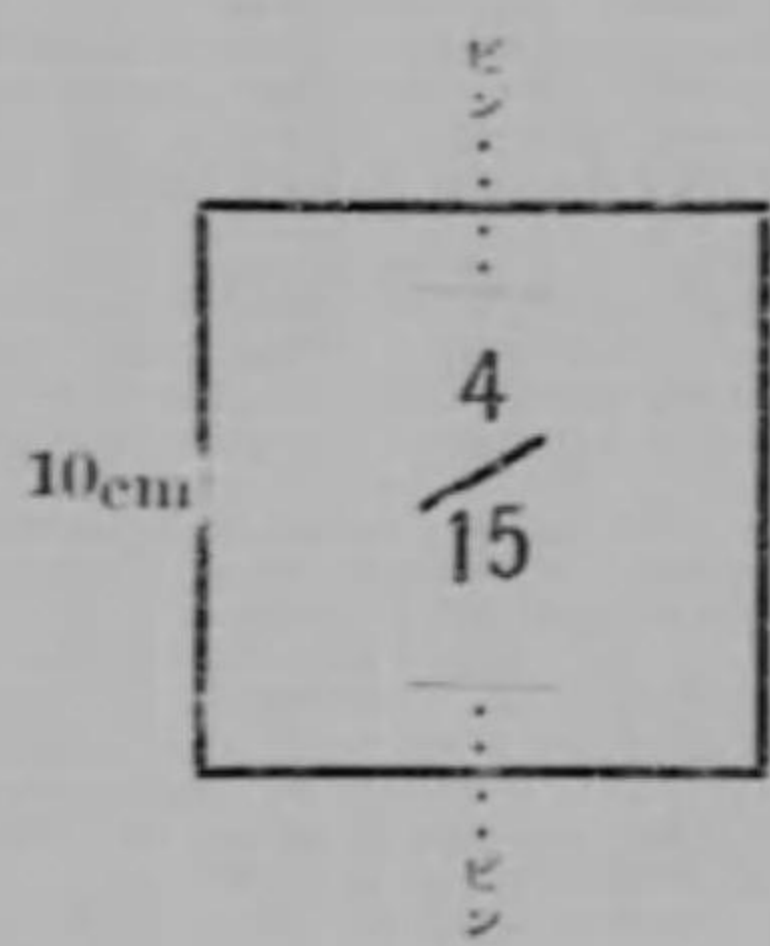
モノトス

地質 木綿

色 岡山縣 白、廣島縣 赤、山口縣 黃

大サ 一〇種 平方

記入文字 中隊號ヲ上ニ集團號ヲ下ニ數字ヲ以テ墨書ス



10. 本項(服裝)ニ規定セザル事項ニ關シテハ不敬ニ亘ラザル限り各自ノ隨意トス

附 本項第九號御親閱參加者ノ所屬團隊番號標識布ノ件ハ更ニ三縣ニ於テ考究シ決定スル豫定ナリ

九、陪列陪觀者及參列者ニ關スル件

陪列陪觀及參列ヲ差許サル、者左ノ如シ但代理者ヲ認メズ

(一) 陪列陪觀者ノ範圍

縣各部長、課長、支廳長

縣選出貴衆兩院議員

縣在住高等官(五等以上)

縣所在官衙長(奏任官以上)

縣會議員

市長及市教育關係課長

市會議長

縣、郡、市聯合青年團長

縣、郡、市聯合女子青年團長

在郷軍人會支部長副長

在郷軍人會聯合分會長

縣、郡、市教育會長

縣、郡、市學校衛生會長

新聞社長、新聞社支局長及通信部主任

○町 村 長

實業補習學校長、小學校長(青年訓練所主事ナルモノ及充實實業補習學校長並規程第八條ノ認定學校長ヲ除ク)

私立中等學校設立者

私立青年訓練所設立者

日本赤十字社支部長、副支部長主事

愛國婦人會支部長及副支部長主事

將校婦人會支部長及副支部長

◎其ノ他特ニ招待シタル者

(二) 參列者ノ範圍

參加學校長

參加青年訓練所主事(充實實業補習學校長及規程第八條ノ認定學校長ヲ含ム)

參加青年團長

參加女子青年團長

參加在郷軍人分會長

以上ノ内分列又ハ奉唱部隊ニ加ハラザル者

一〇、拜觀者ニ關スル件

學校、青年訓練所、男女青年團、在郷軍人會、壯年團、婦人會、消防組等引率者アル成隊ノ團體ニシテ御親閱拜觀ヲ希望スル者ニ對シテハ申込ニ應ジ參入證ヲ交付シ一定ノ席ヲ設ケテ拜觀セシム但輸送及宿營ニ關シテハ各其ノ團體ニ於テ計劃スルモノトス

二、救護ニ關スル件

式場及集合所ニハ夫々救護所ヲ設置ス縣ニ於ハ特ニ救護班ヲ派遣スル豫定ナルモ學校及團體ニ於テ各々救護係ヲ置キ救急藥品ヲ準備スルコト

三、記念綬ニ關スル件

御親閱記念綬トシテ適當ナルモノヲ選定シ希望者ニハ實費ヲ以テ頒與スルコト、ス價格約四圓内外ノ見込ナリ

希望者ハ御親閱直後本縣學務課ニ申込ムモノトス尤モ本件ハ廣島、岡山、山口三縣トモ目下研究中ニシテ未決ニ屬ス確定ノ上ハ更ニ通知ス

三、事務經過

七月十五日

岡山縣廳に於て第一回三縣打合會を開催す。

七月十七日

公立中等學校長及市町村女子青年團長宛奉迎歌募集要項に關し通牒す。
七月二十三日

學校青年團長其他關係者に御親閲に關する大綱を指示して打合をなす。
七月二十五日

參加希望人員報告に關し通牒す。
八月十四日

參加人員決定す。
八月十九日

岡山縣御親閲係及關係師團司令部へ參加者種類及委員編成表を送付す。
八月三十一日

奉迎歌の募集を締切る。
輸送計畫原案を調製す。
九月十二日

岡山縣廳に於て第二回三縣打合會を開催す。
九月二十日

參加者の編成決定す。

奉迎歌の審査發表あり。

九月二十七日

岡山縣廳に於て三縣幹部打合會を開催す。

九月三十日

岡山縣廳に於て第三回三縣打合會を開催す。

奉迎歌々曲成る。

十月一日

御親閲要領を作製す。

十一月五日

岡山縣廳に於て第四回三縣打合會及集團長會議を開催す。

十一月六日

本縣參加者の豫行演習を舉行す。

十一月九日——十四日

各都市豫行演習を舉行す。

十一月十八日

輸送を開始し宿舎準備を爲す。

四、諸規程及心得

御親閲ニ對スル心得

親閲の首尾を全うし 大御心に副ひ奉らむか爲特に緊要なる事項は參加全員旺盛なる國民精神と潑刺たる青年の意氣を充分に發揮し至誠を以て無私協調し御親閲に關する諸規定を嚴守して誤らざるに在り依て各員は別冊御親閲要項を十分に諒解し苟も一員の粗漏不謹慎に依り累を全體に及ぼす等のことなき様嚴に戒慎を望む。

第一 全員心得

(一) 輸送時刻に就て

岡山、廣島、山口三縣の御親閲參加者約五萬人其の他陪觀者參列者等を合すれば其數頗る多數に上り而も之が輸送を極めて短時日間に完了せざるべからざるを以て輸送列車配給の關係上各團體個々の便宜を十分に考慮すること能はざるに至れり特に乗車及降車の時刻は早朝若は深夜に亘るの已むを得ざるものあるを以てそれら各團體の困苦は相當深刻なるへきを想察す之か爲輸送計畫を詳知せざる參加各員に於ては計劃不當の誤解を惹起することなきを保し難し萬一此の如き誤解

に依り不平不満の感を懷くが如きことありては此の盛儀に對し甚だ遺憾なること、謂はざるべからざるを以て學校長、團體長及代表者は參加各員に對し豫め如上の事情を理解せしめ苟も誤解なからしむる様配慮し置くこと。

(二) 集合及解散時刻に就て

輸送列車岡山市に到着の關係上當日最も早きは午前五時式場に到着し御親閲開始時刻午後一時迄に約八時間待機せざるべからず。又儀式終了後は更に解散の關係上夫々式場跡に居残り順次退場せざるべからざるを以て其の最終の出發に屬する部隊は午後七時なり。之亦儀式終了後約五時間同一場所に位置せざるべからざること、なる。參加員はこの困難に對し雄々しく耐忍するの決心を要する次第なり。

仍規定の集合時刻は諸隊が奉迎位置に整列し終ることを目標とし整列の爲め要する時間の見積は必要の最少限度なるを以て諸事迅速機敏を要す。然して最も早く式場に到着する部隊に屬するものによりては其後方に數萬の大部隊が蜿々續行しつゝあるを想はざれば或は過早に集合せしめられたるやに誤解することこれあるべく解散時刻に就ても亦同様の誤解を惹起し易し。之等は參加各員に於て誤解なき様注意すること。

(三) 輸送指揮に就て

各驛には驛指揮者を置き又各列車には輸送指揮者を設け各關係團體の指揮を掌ること、なせり。

之れ等指揮者は互に連絡提携してよく参加員を統制し其の輸送の完了を期すべきも總て輸送の整齊は一に参加各員の自制に俟たざるべからざるを以て團體長は豫め之等の點に關し参加者に詳細なる注意を與へ参加者亦よく之を自覺して列車乗降及列車内の規律等に關して萬遺憾なきを期すること。

(四) 岡山驛發著時の注意

岡山驛は輸送關係上列車は十分毎に發著し一列車毎に千人以上の参加者を出入せしむる豫定なり故に参加者は輸送指揮者及各團體代表の指揮に従ひ靜肅且機敏に動作し岡山驛頭の混亂を少からしむる様注意すること。

(五) 集合場及式場に於ける注意

集合場及式場に於ては特に氣分を緊張し規律を恪守し濫りに離列することなく集合場たる校庭營舍等を汚損せざるは勿論指定の場所以外に於て喫煙せず(正午より還御迄禁煙のこゝ)紙屑辨當器等を散亂せしめざること。

第二、御親閱参加部隊心得

- (一) 一人の行動が團體全員の成績を左右するものなることを思料し各員最善の努力を拂ふべきこと。
 (二) 終始指揮者の命に依り秩序整然たる行動をなすこと。

- (三) 自己の部隊の名稱並其の位置を忘れざること。

團體を標示する胸章は各自製作して胸部に付くること。

- (四) 御親閲中は特に靜肅にし絶對に私語雜談せざること。

- (五) 式場内の待機中にありては距離間隔を離さぬ範圍に於て跏坐休憩するは差支なきも横臥するが如き見苦しき態度をこらざること。

- (六) 分列部隊にありては「直れ」より後旋回行動は緊張を缺きがちなるを以て特に注意するは勿論分列終了後も靜肅にする様注意すること。

- (七) 解散は最も混雜を起し易きを以て戒心を加へ噪急なる行動を慎み事故の發生を豫防するに萬遺漏なきを期すること尙夜間歸著の部隊にありては驛よりの交通機關を考慮し宿舎其の他適宜の方法を講ずること。

- (八) 部隊の式場退出は解散號音に依り各個に之を行ふにあらず係員の指揮に依り順次行動を起すこと。

- (九) 雨天の場合と雖も手拭を冠り外套を頭より冠る等の行爲をなさざること。

- (十) 防寒用として外套を携帯する外なるべくシャツ、襦袢等を深く着込み且萬一の用意として油紙を携行すること。

第三、指揮者心得

- (一) 指揮者は御親閲規程に通曉し謹嚴なる態度を保持して所屬部隊を完全に掌握する様努力するべし。
 - (二) 集合場出發時刻は確實に嚴守すること。
 - (三) 集合場の部隊編成は豫め計劃し置き迅速に完了せしむること。
 - (四) 各集團には專屬の集團係を要所に配置するが故に其の指示に従ふこと。
 - (五) 尙各隊長特に大隊長は常に記號喇叭號音標識等に充分注意すること。
 - (六) 行事の進捗を整正ならしむる爲隨時係員より各隊長に種々の希望を述べることあるべし。この場合には全般の目的を達成する爲に虚心坦懐に之を容れられんことを切望す。
- 尙部隊の集合解散に關しては御親閲要領に詳記すべきを以て各自之に注意すること。

宿營及休養

一、宿 營

- (一) 宿舍は岡山市内の學校を以て之に充て十八日午後十二時迄に岡山驛に到着するものを別表の通宿泊せしむるものとす。
- (二) 宿舍は一坪三人の割合とし床上には簾を敷き一人一枚の割合に蒲團を設備す。
- (三) 舎費は一人一夜五十錢、食費は朝食十五錢、晝食二十錢、夕食二十錢とす。

- (四) 降車驛より宿舍(休止場、集合場)迄及集合場(休止場)より乗車驛迄は係員(又は少年團員、青年訓練所生徒)の案内に依り各都市引率者に於て取纏め行動するものとす。
- (五) 宿舍に到着したるときは各都市引率者に於て團體名及其の員數並に指揮者名を當該郡市代表者に報告すること。
- (六) 郡市代表者は部内團體の員數を取纏め代表者氏名團體名及員數を係員に報告すること。
- (七) 中等學校及在郷軍人會に在りては代表者に於て右に依り係員に報告すること。
- (八) 舎費及食費は到着後代表者に於て取纏め宿泊者員數の報告と同時に係員に納付すること。
- (九) 宿泊中の食事。
 1. 宿泊したる日の夕食は各自携帯すること。
 2. 當日の朝食、晝食及夕食は宿舍に於て供給す。
 3. 宿泊者の食事は總て辨當として各團體代表者に於て取纏め受領の上配布すること。
- (十) 十八日午後四時迄に到着せる宿泊者に對しては午後八時迄の間適宜外出を許可す。此の場合に於ては當該郡市代表者の許可を得、各都市引率者に於て引率するものとす。

二、休 止

- (一) 左の者は集合時刻まで別表に依り休止せしむ。

1. 往路に於ては十九日午前零時より午前四時半(女子に在りては午前五時まで)迄に岡山驛に到着の列車に乗車せる者。
2. 復路に於ては十九日午後八時以後岡山驛を發車する列車に乘車する者。
- (一) 休止の場所は學校を以て之に充て寢具等を用ひざるものとす。
- (二) 休止する團體か休止場に到着したるときは其の指揮者は代表者に代表者は係員に指揮者氏名(代表者氏名)團體名員數を係員に届出て其の指揮を受くるものとす。
- (三) 休止中の食事は各自携帯するものとす。
- (四) 休止中は湯茶を供給す。之に要する費用として一人に付二錢宛を指揮者代表者に於て取纏め係員に納付するものとす。

三、注意事項

- (一) 宿泊する者は十八日夕食迄、宿泊せざるものは御親閲終了後歸途までの辨當を携帯するものとす。
- (二) 食事時間は必ずしも正確を期し難きを以て辨當以外少量の食物を携行するを可とす。
- (三) 携帯品には凡て所屬團體名氏名を記する札を付すること。
- (四) 宿舍、休止場共に暖房の設備なきにつき外套を持參し着込を多くするの外油紙を携帯すること。

- (五) 疾病を生じたるときは直ちに係員に届出つること。
 - (六) 水筒は必ず持參し集合前宿舍又は休止場に於て補給し置くこと。
 - (七) 岡山驛前山長旅館(電話五二四)に廣島縣事務所を設置するに付心得置くこと。
 - (八) 集合所等所定の場所にパン、キャラメル、煙草等の販賣店の設けあり。
- 御親閲及同豫行演習に關する事項。

一、集合に關する事項

1. 豫行演習參加團體は午前十時より同十一時迄の間に於て青訓男女青年團は西入口より男子中等學校女子中等學校女子専門學校は北入口より東練兵場に集合するものとす。
2. 各團體引率者は受付に於て各團體名を報告し誘導係の指示に従ひ各集團及奉迎歌奉唱部隊の位置に到り集團係並中隊長及奉迎歌奉唱部隊の指示に従ひ整列するものとす。
3. 整列終了したるときは參加人員數を分列部隊に於ては中隊長より大隊長、集團長を経て長島中佐に報告し奉唱部隊に於ては奉唱部隊係より横山少佐に報告すへし。
4. 中隊長、大隊長、集團長及奉唱部隊係は受付に於て參加人員調査表を受取り置くものとす。

二、儀式に關する事項

岡山、廣島、山口三縣諸團體御親閲要領摘要に掲記しある御親閲次第に依り説明す。

三、解散に関する事項

集團係及奉唱部隊の指示に従ひ逐次解散するものとす。

宿舍並休止場明細表

輪送 岡山縣	番號 着時刻	男		女		隊	岡山縣出 發時刻
		在軍 男生	男 青調計	在軍 女生	女 青調計		
大臨 三前 一八日 一、五	三九	三七	三七	三三	三三	學 校 及 郡 市 名 忠海中、世羅中、日影中 高船市村長	休 止 所 清輝校
大臨 三後 一八日 三、五	三九	三七	三七	三三	三三	學 校 及 郡 市 名 御調、世羅、賀茂、豊田	休 止 所 清輝校
大臨 三前 一八日 一、五	三七	三七	三七	三三	三三	學 校 及 郡 市 名 油木農、上下農	休 止 所 清輝校
大臨 三後 一八日 三、五	三七	三七	三七	三三	三三	學 校 及 郡 市 名 豊田、御調、世羅、賀茂、 神石、甲奴	休 止 所 清輝校
大臨 三前 一八日 一、五	三七	三七	三七	三三	三三	學 校 及 郡 市 名 安藝	休 止 所 深抵校
大臨 三後 一八日 三、五	三七	三七	三七	三三	三三	學 校 及 郡 市 名 雙三、比婆	休 止 所 鹿田校
大臨 三前 一八日 一、五	三七	三七	三七	三三	三三	學 校 及 郡 市 名 賀茂	休 止 所 清輝校
大臨 三後 一八日 三、五	三七	三七	三七	三三	三三	學 校 及 郡 市 名 廿日市工、八重賀、格致 中、庄原實、雙三實、三 次中、吉田農、新庄中	休 止 所 清輝校

臨 三前 十九日 一、五	臨 三前 十九日 一、五	臨 三前 十九日 一、五	臨 三前 十九日 一、五	臨 三前 十九日 一、五	臨 三前 十九日 一、五	臨 三前 十九日 一、五	臨 三前 十九日 一、五	臨 三前 十九日 一、五	臨 三前 十九日 一、五
三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳
大正中、吳二中、廣文中	大正中、吳二中、廣文中	大正中、吳二中、廣文中	大正中、吳二中、廣文中	大正中、吳二中、廣文中	大正中、吳二中、廣文中	大正中、吳二中、廣文中	大正中、吳二中、廣文中	大正中、吳二中、廣文中	大正中、吳二中、廣文中
集合所	集合所	集合所	集合所	集合所	集合所	集合所	集合所	集合所	集合所
三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
廣高女	廣高女	廣高女	廣高女	廣高女	廣高女	廣高女	廣高女	廣高女	廣高女
後十九日 三三	後十九日 三三	後十九日 三三	後十九日 三三	後十九日 三三	後十九日 三三	後十九日 三三	後十九日 三三	後十九日 三三	後十九日 三三

臨時十九日 大前六〇四六三	一七三〇一、三	福山、沼隈、蘆品、深安	集合所 式後 内山下校	二四二四	福山、沼隈、蘆品、深安	満心高女十九日 式後 高女 后九四〇
備考 臨時一七臨時九及伯備線ノ列車ニ乗車ノ者ハ到着後直ニ集合所ニ集リ式後休止場ニ集合ノ要ナキニツキ之ヲ省ク 宿舎又ハ休止所欄中二重線迄ハ宿舎、以下ハ休止所ヲ示ス◎印ハ宿舎又ハ休止所ト式後休止所ヲ兼ネタルモノヲ示ス						

第三款 諸 計 畫

一、輸 送

一、往 路

十八日午前十時三十分尾道發列車を以て開始し逐次輸送十九日午前五時二十分岡山着（伯備線）にて完了す。

二、復 路

十九日午後四時五分岡山發（伯備線）を以て開始し十九日午後九時四十分發（福山行）最終二十日午前零時二十三分廣島着により完了す。

三、各列車發着時刻乗車人員並種別（省略）

四、輸送指揮監督

イ、往 路

各乗車者は各驛に於ける驛乗車指揮者の指揮により指定の車輛に乗車す指揮者は乗車後直に乗車人員表を列車内の郡市各種團體引率（代表）者に提出す。

郡市各種團體引率（代表）者は自己の郡市に於ける種別分け人員取纏め更に集計表を作成輸送指揮者に提出す。

輸送指揮者は該列車乗車全員を種別毎に集計し一覽表を作成、岡山驛下車の際輸送主任澤原主事に提出す。

驛よりは各誘導係の指揮により指定の場所に向ふ（宿舎、休止、集合場への誘導方法は宿泊、休止並集合の部に記載せり）

ロ、復 路

場式に於て解散のため集合したる場所に於て各驛乗車指揮者は往路に於ける人員を取纏めその人員表を郡市各種團體引率（代表）者に提出す。

郡市各種團體引率（代表）者は往路に於けると同様人員表を作成し輸送指揮者に提出す。

輸送指揮者は該列車乗車全人員の一覽表を作成往路に於ける場合と異状なきを認めたる時出發するものとす。

右一覽表は岡山驛に於て輸送主任澤原主事に提出し乗車するものとす。

乗車者心得

- 一、驛集合は發車前十分とす。但し乗車者百名以上の驛にては一時間前とす。
- 二、乗車切符は成るべく前日に求め置くこと。
- 三、乗車切符は總て往復切符を求むること。
- 四、各驛には在軍、高専學生、男生、男青、青訓、女青、女生の文字記入の赤色腕章を附したる乗車指揮者を置く。
- 五、乗車指揮者の指揮により左の車輛に乗車すること。

油木農一 番

豊御世賀神 田調羅茂石 在軍、男青、青訓二番乃至一〇番

安藝、男青、男青、青訓 一〇番乃至一一番
比婆、在軍、男青、青訓

油木農女 二番乃至一二番

豊御世賀神 田調羅茂石 女青一二番乃至一三番

- 六、列車内には輸送指揮者並に各都市各種團體引率者乗車す。(各名稱を記入せる赤色布の腕章を附す)
 - 七、下車後宿舍、休憩所若しくは集合所には各都市引率(代表)者の指揮により行動す。
 - 八、希望又は不明の事項は都市引率者を通じ輸送指揮者に申出すること。
 - 九、乗車者は總て指揮者引率(代表)者の命に従ひ特に規律を重じ秩序を守り機敏に行動すること。
 - 一〇、列車内にては靜肅に夜間は出來得る限り睡眠をこるること。
 - 一一、列車運行中に締結台上に立た、ざること。
 - 一二、總て夜間歸着なるを以て驛よりの交通機關を考慮し宿舍其他適宜の方法を講じ置くこと。
- (備考) 輸送指揮者は車輛第六番に乗車せり。
- 各指揮者の任務

一、輸送指揮者

- 1. 該列車乗車者を代表すること。
- 2. 輸送に關する一切の交渉に當ること。

二、各種團體引率(代表)者

- 1. 各引率(代表)者は岡山驛に下車したるとき誘導係の指揮を待ちて自己團體を指定の場所に誘導すること。

三、各驛乗車指揮者

- 1. 乗車驛に於て各自擔任の乗車人員を調査し乗車切符未購入者よりは賃金取纏め購入すること。
- 2. 乗車者を引率指定の車輛に乗車すること。
- 3. 乗車後直に郡市引率者に乗車人員を報告すること。
- 4. 復路に於ても同團體を引率乗車すること。
- 5. 歸着驛に於て人員點呼を行ひたる後解散せしむること。

二、集 合

一、女子青年團

- 1. 縣立岡山高女に宿泊並休止せるもの。

(宿泊) 豊田、御調、世羅、賀茂、神石、甲奴、佐伯、高田、雙三、安藝、比婆、山縣、安佐、廣島。

(休止) 吳。

以上午前七時二十分出發清心高女校に集合。

- 2. 石井校に休止せるもの。

深安、沼隈、尾道。

以上午前七時二十分出發清心高女校に集合。

- 3. 其他即ち午前五時以後着車の團體。

福山、沼隈、蘆品、深安、賀茂、豊田、世羅、御調、比婆、神石。

以上は直に清心高女に集合。

右八時十分集合完了九時四十分迄に編成終了同時に出發十時迄に練兵場西南隅豫行位置に到着。

二、女子中等學校

- 1. 縣立岡山高女に宿泊休止せるもの。

(宿泊) 藝陽實科高女、忠海高女、甲山高女、土生實科高女、向島實科高女、日彰館高女、油木農(女)、上下高女、祇園高女、安藝高女、三次高女、庄原實(女)、吉田高女、新庄高女、加計實(女)、江田島實科高女、八重實(女)。

(休止) 吳高女、吳市高女、吳實科高女、土肥高女、吳實科女、廣實科高女。
以上午前七時二十分出發八時三十分女子集合場(練兵場西南隅豫行位置)に集合。

2. 石井校に休止せるもの。

尾道高女、共立尾道高女、松永高女、福山高女、府中高女、鞆實科高女、濟美實科高女、門田高女、増川高女、沼南實(女)。

以上午前七時三十分出發女子集合場(豫行位置)に集合。

3. 深抵校に休止せるもの。

廣島高女、廣島市高女、進徳高女、安田高女、可部高女、廣島女、廣島女子商、廣島女專、山中高女。

以上午前六時三十分出發西大寺町通を西し女子集合場(練兵場西南隅豫行位置)に集合

4. 其の他午前五時以後着車のもの。

賀茂高女、河内高女、森本高女、竹原高女、三原女師、三原高女、東城高女。

以上直に女子集合場(練兵場西南隅豫行位置)に集合

女子部注意

(イ) 女子青年團清心女學校に集合し部隊編成の際は奉唱部隊編成の順序による。

(ロ) 女子中等學校生徒にして午前五時以後着車の團體は出發の際の乗車順に下車し其の順序により集合所に向ふ。

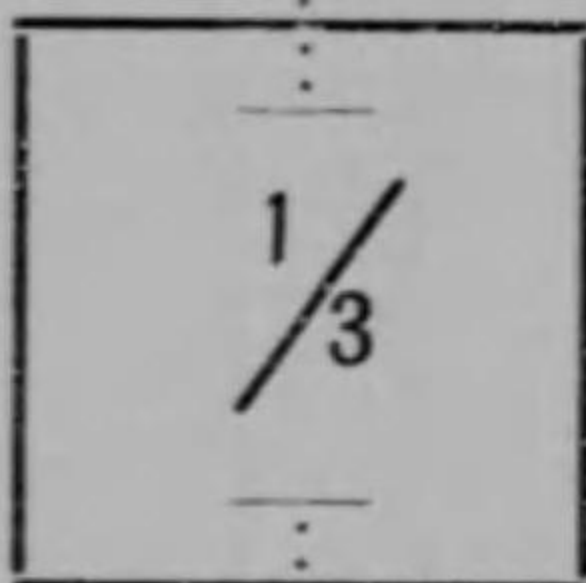
(ハ) 女子奉唱部隊員は各自に次の如き所屬團體番號を記入したる標識布を作り左胸部に之を附着(安全ピンを以て上下を止むるを可とす)し式場に整列したる後撤去し御親閲終りて再び之を附着するものとす。

質 木 綿
色 赤

大 さ 一〇糎平方

記入文字 中隊號を上に奉唱隊號を下に數字を以て墨書す。

例へば第三奉唱部隊第一中隊の場合左の如し。



三、男子の部（在軍、男生、男青、青訓全部を含む）

1. 深抵、清輝、鹿田の各校に宿泊並休止のもの。

（深抵校宿泊） 安藝、山縣、安佐、廣島。

以上午前七時二十分出發出石校に向ふ分岐點に於て待合すものとす。

（清輝校宿泊）

忠海中、世羅中、日彰中、商船、市村農、御調、世羅、賀茂、豊田、油木農、上下農、神石、甲奴。

（鹿田校宿泊）

雙三、比婆、廿日市工、八重實、格致中、庄原實、雙三實、三次中、吉田農、新庄中、佐伯、高田。

（鹿田校休止）

福山師、福山誠中、府中中、戸手實、沼南實、深安實、盈進商。
以上午前七時十分出發出石校に集合。（何れも部隊編成の順に従ふ）

2. 出石校に休止又は集合のもの。

（休 止）

尾道中、尾道商、沼隈、深安、尾道、廣二中、崇徳中、廣陵中、廣工、廣商、廣市商、旭山中、旭山商、松本商。

（集 合）

前記深抵、清輝、鹿田の各校より集合のもの。
以上午前七時五十分出發集合場（練兵場）に向ふ。（九時完了）

3. 午前四時三十分以後着車のもの。

吳一中、吳二中、興文中、大正中、吳、福山、沼隈、蘆品、深安、賀茂、豊田、世羅、御調、本郷農、廣商、廣高工、廣島師、廣島一中、高師附中、修道中、山陽中、比婆、神石

以上直に集合場（高等學校高等工業高師は第六高等學校）其の他は練兵場に集合

4. 映和館に休止のものは七時三十分出發直に集合場（練兵場）に集合するものとす。

男子部注意

(イ) 出石校より集合場に向ふ順序は宿泊又は休止せる學校により左の如し。

1. 出 石 2. 鹿 田 3. 清 輝 4. 深 抵

(ロ) 前記各宿泊又は休止所別内に於ける部隊順左の如し。

1. 在郷軍人 2. 中等學校 3. 青年團 4. 青年訓練所

(ハ) 驛より直に集合場に向ふものは出發の際乗車せる順序に下車し前項の如く在軍、男生、男青、青訓の順序に出發するものとす。

男女を通じての注意

イ、集合場集合に關する事項。

1. 各團體集合場に到着したるときは係員に届出で其の指示を受くるものとす。

2. 各團體の集合場（女子青年團は清心高等女學校）に到着せば各引率者は御親閲當日調の参加票を所屬中隊長（女子青年團は清心高等女學校にて高野主事に、女生徒は集合場にて武居大尉に）に提出す但し武居大尉は女子部全體を取纏め横地少佐に提出するものとす。
3. 廣島縣團體内奉唱隊にありては整列位置に集合するとき集團長（奉唱部隊は横地少佐）は参加票を第一受付（歩兵隊入口）に差出すものとす。
4. 中隊（奉唱部隊を除く）の集合を終らば左の順序に動作す。
 - 一、各中隊長は大隊長に大隊の集合終らば各大隊長は集團長に参加人員表（豫め配付したる用紙に記入すること）を提出す。
 - 一、團體を編成す（約三十分山口縣團體に在りては約十分）
 - 一、中隊長は服装及携帶品の検査をなし式場に於ける諸注意を與へ用便をなさしむ。（約三十分）（山口縣團體に在りては宿泊地出發前）
 - 一、晝食を喫す（約三十分）
5. 奉唱隊集合終らば左の順序に動作す。
 - 一、奉唱隊指揮者は團體を編成し前項は號中隊長の動作をなす（約一時間三十分）
 注意を與ふるに際し整列位置より奉唱位置に着くに當り不體裁ならしめざる様其の携行法に

つき特に注意すること。

- 一、晝食を喫す。（約三十分）（岡山廣島縣女子青年團は式場内豫行位置にて喫す）
- 一、軍樂隊の参加を以て奉迎歌奉唱の豫行を行ふ。（約三十分）
6. 岡山縣各團體及高等専門學校は晝食を喫したる後集合するを本則とするも情況に依り一部は晝食を喫することなく集合し式場到着後喫食せしむることあるべし。
7. 萬町鐵道踏切は交通頻繁なるを以て陸橋の外は通行せざるものとす。
8. 各集合場に於ける中隊番號札は各縣係員に於て準備し之を植立し置くものとす。但し奉唱隊のものは岡山縣に於て高等専門學校のものは第六高等學校に於て準備し植立するものとす。
- ロ、集合場より式場への集合に關する事項。
 1. 式場外集合場に集合したる各團體は編成（山口縣各團體は宿泊地に於ける出發準備）を完了せば指定の出發時刻に大隊毎に行動を起し所定の參入道路を経て式場入口受付に届出の後（集團長は各團體より提出したる参加票を受付に差出こと）指定集合時刻迄に式場に到着し集合を完了するものとす。
 2. 各部隊集合を完了せば各集團長（奉唱部隊は横地少佐）は各集團の参加人員數を参加人員表を

以て援助委員長に報告するものとす。

3. 奉唱部隊豫行終らば(午前十一時)奉唱部隊指揮者の指示により整列位置に集合を完了す。

4. 廣島縣團體奉唱隊に在りては整列位置に集合するとき集團長(奉唱部隊は横地少佐)は參加票を第一受付(歩兵隊入口)に差出すものとす。

ハ、事故發生の際に於ける處置に關する事項。

各團體指揮者は集合に關する事項にして所定の如く實行し得ざる事故發生せしときは其の旨を援助委員長(委員本部に在り)に速報するものとす。

三、解 散

一、解散の爲の集合

(一) 集合地區域及集合順序「休め」の號音後喇叭二聲を合圖に各部隊は編成を解き左記の如く集合す。

1. 左表の列車に依り歸縣するもの。

輪送番號	岡山發時刻及方向	解散の爲の 集團番號	備 考
臨門一〇	廣 島 四、二四	1	

臨門一三	廣 島 五、〇八	3	
臨門一二	廣 島 五、三五	9	此の列車は大竹驛まで運 行す
臨大一〇	福 山 六、二三	12	
伯 備 線	備中紳代 四、〇五	7	
臨門一一	廣 島 六、三三	13	

以上のものは集合順序(同一は赤色旗の合圖により岡山團體先に集合)白色旗の合圖により練兵場西南隅に集合。

集合位置は別紙解散計畫要圖左下隅の場所の列車方向及時刻を記せる箇所なり。下部の數字「解散後集合する團體番號」を示す。

2. 左表の列車に依り歸縣するもの。

輪送番號	岡山發時刻及方向	解散の爲の 集團番號	備 考
臨門九	八本松 七、二五	17	此の列車は廣島驛まで運 行す
臨門一七	西 條 七、一〇	18	

臨大一四	糸崎	七、四〇	21
臨大一一	尾道	八、二二	24
臨大一一	福山	九、四〇	27
臨大一二	尾道	八、五四	28

以上のものは集合順序Ⅴ(同Ⅲが黄色旗の合圖により集合せる次)青色旗の合圖により練兵場中央に集合

集合位置は別紙解散計畫要圖中央Ⅴの場所の列車方向及時刻を記せる箇所なり、下部の數字は「解散後集合する團體番號」を示す。

(二) 集合の方法

1. 各列車時刻毎に其の乗員を以て一團體を編成す此の際各團體は先頭より在郷軍人、男子學校生徒、青年團員、青年訓練所生徒、女子青年團員、女子學校生徒の順位を以て四列側面縱隊に集合するものとす。
2. 集合運動開始の時機は集合合圖色別による旗(本縣關係は初め白色次に青色)を各集合地に掲揚して之を告知さる。

3. 集合地區に於ては各列車方向及時刻を表示せる旗を掲げらるゝにより各團體は之に面して整列するものとす。

4. 練兵場各地區に集合する方法

- (1) 中隊長たりしもの(中隊長退後は集團係の指名せる隊長)は集團係監督の下に集合合圖に基き當該團體を順次呼出し所定の場所に集合せしむるものとす。
集合の際は各個に集合することなく驛乗車指揮者及郡市各種團體引率者等の引率に依るものとす。
- (2) 各集合地區に於ては集團係が別紙解散計畫要圖に示す如く列車毎に集合せしむるものとす。

二、退 散

左の順序に依り逐次式場より退散するものとす。

(一) 第一次退出團體

午後六時三十三分以前に發車するもの即ち別紙解散計畫要圖Ⅰの場所に集合せるものの内縦點線より左例のものは第五出口より、同上右側のものは繪津出口より各發車時刻の遅速に基き行軍序列を定め岡山驛に向つて行進す。

- (二) 第二次退出團體（本縣に關係なし）
- (三) 第三次退出團體

午後七時十分以後乗車（乗車前學校に於て休止するものを含む）するもの即ち別紙解散計畫要圖Vの場所に集合するものは第一次第二次退出團體の後尾に續行退出するものとす。

注意

- (イ) 解散は輸送の關係上巧妙なるを要す、而して本解散が整齊として實行せらるゝことは一面御親閲の終りを全うするのみならず他面歸還をして迅速ならしむる爲緊要事なるを思ひ嚴に本規程を恪守し團體訓練の成果を遺憾なく發揮する様努むること。
- (ロ) 奉送終らば概ね精神の弛緩を來し喧噪に陥り易きを以て特に噪急なる行動を避け混雜を惹起せざる様注意すること。

四、宿營給養

一、宿 泊

- (一) 十八日午後十二時迄に岡山驛に到着の列車に乗車せる者を別表（省略）の通宿泊せしむ。
- (二) 舍費は一人一夜五十錢、食費は朝食十五錢、晝食二十錢、夕食二十錢とす。
- (三) 降車驛より宿舍迄は郡市各種團體引率者に於て取纏め驛構外に立てたる宿泊學校名を記載せる

旗印に向つて行動し宿舍係員（又は少年團員、青年訓練所生徒）の誘導に依り宿舍に向ふものとす。

- (四) 宿舍に到着したるときは郡市各種團體引率者に於て團體名、員數及引率者名を當該郡市代表者に報告すること。
- (五) 郡市代表者は部内團體員數を取纏め代表者氏名團體名及員數を宿舍係員に報告すること。
- (六) 中等學校及在郷軍人會に在りては代表者に於て右に依り宿舍係員に報告すること。
- (七) 舍費及食費は到着後代表者に於て取纏め宿泊者員數の報告と同時に宿舍係員に納付すること。
- (八) 宿泊中の食事
 1. 宿泊したる日の夕食は各自携帯すること。
 2. 當日の朝食、中食、及夕食は宿舍に於て供給す。
 3. 宿泊者の食事は凡て辨當とし各團體代表者に於て取纏め受領の上配布すること。
- (九) 十八日午後四時迄に到着せる宿泊者に對しては午後八時迄の間適宜外出を許可す此の場合に於ては當該郡市代表者の許可を得郡市各種團體引率者に於て引率するものとす。

二、休 止

- (一) 左の者は集合時刻まで別表（宿泊並休止場明細表）に依り休止せしむ。

1. 往路に於ては十九日午前零時より午前四時半（女子に在ては午前五時まで）迄に岡山驛に到着の列車に乘車せる者。
2. 復路に於ては十九日午後八時以後岡山驛を發車する列車に乘車する者。
 - (一) 休止の場所は岡山市内學校を以て之に充て寢具等を用ひざるものとす。
 - (二) 降車驛より休止場迄は郡市各種團體引率者に於て取纏め驛構外に立てる休止學校名を記載せる旗印に向つて行動し休止場係員（又は少年團員、青年訓練所生徒）の誘導に依り休止場に向ふものとす。
 - (三) 休止する團體が休止場に到着したるときは其の引率者は代表者に代表者は休止場係員に引率者氏名（代表者氏名）團體名及員數を届出で其の指揮を受くるものとす。
 - (四) 休止中の食事は各自携帯するものとす。
 - (五) 休止中は湯茶を供給す。之に要する費用として一人に付貳錢宛を引率者（代表者）に於て取纏め係員に納付するものとす。

三、注意事項

- (一) 宿泊する者は十八日夕食迄、宿泊せざるものは御親閲終了後歸途迄の辨當を携帯するものとす。

- (二) 食事時間は必ずしも正確を期し難きを以て辨當の外少量の食物を携行するを可とす。
- (三) 水筒は必ず持参し集合前宿舍又は休止場に於て湯茶を補給し置くこと。
- (四) 岡山驛前山長旅館（電話五二四番）に広島縣事務所を設置するに付心得置くこと。

四、郡市各種團體引率者任務

- 一、岡山驛下車後係員の案内に依り所定の宿舍に團體員を引率し當該郡市代表者に引渡すこと。
- 二、宿舍並休止場に於て郡市代表者と共に人員の整理、舍費、食費、湯茶代の取纏め、辨當の配給舍内の整理等諸般の斡旋をなすこと。
- 三、御親閲終了後團體員を郡市代表者より引繼ぎ之が引率し乗車及車内の監督其の他の斡旋をなすこと。

郡市代表者

- 一、宿舍並休止場に於て郡市各種團體引率者の援助を得て到着後の人員報告、舍費、食費の取纏め及納付、辨當の配給、舍内の整理等諸般の斡旋をなすこと。
- 二、所定時刻迄に團體員を集合場に引率し所屬中隊長に引渡し部隊編成の援助をなすこと。
- 三、御親閲終了後歸還隊形編成の援助をなすこと。
- 四、編成完了と共に團體員を郡市各種團體引率者に引渡すこと。

五、休止場に休止する場合に在りては其の引率、休止場に於ける諸般の斡旋をなすこと。
六、所屬團體員が數列車に別れ乗車する時は可成最初の列車に乗り宿舎其他諸事斡旋に努むること。

五、服 装

一、陪列陪觀者の服装

(一) 男 子

「フロックコート」若は「モーニングコート」帽子は「シルクハット」若は黒山高帽、靴は黒の革製とし服制あるものは之に相當する制服とす（軍人は通常禮装とす）

和服の場合は紋附、羽織、袴、帽子は黒山高帽又は中折帽とす

(二) 女 子

「ビデテングドレス」又は白襟紋附とす

二、御親閱拜受者の服装

(一) 分列參加者の服装

1. 學校及青年訓練所の職員は其の制服又は「フロックコート」若は「モーニングコート」とし帽子は「シルクハット」若は黒山高帽とす、在郷軍人たる職員は分列參加者の服装「4」に

依るも差支なし青年團長は其の團の制服若くは前項の服装に依る。

2. 男子學校生徒は制服（冬服）とし武装するものとす。但し事情已むを得ざるときは此限りにあらず。尙武装部隊の中隊長となるべき生徒は教練生の指揮刀を帶ぶるものとす。

3. 青年訓練所生徒及青年團員は當該訓練所及青年團に於て服制の定あるものは之に依り靴若は地下足袋を用ふ服装の制定なきものは其の町村に於て各團體毎に分列に適當なるものを選び可成一定するを可とす。

武装は各訓練所の隨意とす。脚絆は之を用ふ。（在郷下士兵卒等の青年訓練所指導員にし）
て列員たるものは帶刀せざるものとす

4. 在郷軍人として參加する者の中陸軍にありて將校准士官は儀式の場合の軍装とし（背囊を除く）其の他は軍服（脚絆を穿つ）を着用す。海軍にありては第一種軍装（脚絆を穿つ將校は短劍とす）とす。

勳章記章及徽章は之を佩用するものとす。

5. 隊長（集團長、大隊長、中隊長）は將校准士官にありては儀式の場合の軍装とし（背囊を除く）在郷下士等にして在郷軍人として參加せざる隊長は軍服若は訓練服とし武装部隊の隊長は教練用の指揮刀を帶ぶるものとす。

(二) 奉迎歌奉唱參加者の服装

1. 校長（男子）の服装は分列参加者の服装「1」に依る。
2. 女子職員は陪列陪観者の服装「(二)」若は式日に用ふる服装とす女子青年團長若は代理者たる女子は右の外質素にして不敬に亘らざるものを以てし袴を用ふるも差支なし。
3. 女子生徒は其の學校の制服（冬服）とす服制なき學校にありては質素にして不敬に亘らざるものとし袴を用ふるものとす。
4. 女子青年團員は質素にして不敬に亘らざるものとす。

三、参列者拜観者拜観團體の服装

- (一) 参列者の服装分列参加者の服装は「1」又は奉迎歌奉唱参加者の服装「2」に依る。
 - (二) 拜観者の服装は陪観者の服装若は不敬に亘らざる服装とす。
 - (三) 團體の役員は拜観者の服装に準じ或は其の團體の制服を用ふるものとす。
 - (四) 團體員の服装は其の學校又は團體にて定めたる制服又は質素にして不敬に亘らざる服装とす。
- ### 四、援助委員（軍部）並係員の服装
- (一) 援助委員は將校准士官は儀式の場合の軍装とし（背囊を除く）下士以下は徒手帶劍（脚絆を穿つ）とす。
 - (二) 係員は陪列陪観者の服装に準ず。

五、注 意 事 項

- (一) 外套又は雨覆を携行するものは御親閲中之を巻きて左肩より右腋下に掛け背囊を負ふ者は之を背囊に附着するものとす。
- (二) 天候不良の場合女子の雨具は御親閲中之を左手に提ぐ。
- (三) 水筒は各自之を携帶し雜囊は携帶するも妨なし水筒及雜囊は御親閲中右肩より左腋下に懸く。
- (四) 女子の羽織は式場に於ては之を用ひざるものとす。
- (五) 服装並携帶品等につきては各團體毎に十分注意し豫め集合場に於て検査をなすものとす。
- (六) 旗手は帶刀せざるものとす。但し帶劍は差支なし。
- (七) 御親閲中携帶品は之を携行するを本體とするを以て可成輕便にするを要す。但し女子の携帶品は事情の許す限り之を携行せざるものとす。
- (八) 宿泊を要するものは特に防寒の用意必要なるべきも前項の理由に依り可成着用し得る範圍に止むるを可とす。
- (九) 辨當携帶者にして之を背囊又は雜囊に收容し得ざる者は上衣の下腰部に胸卷の如く纏ふものとす。
- (十) 御親閲参加者は各自に次の如き所屬團隊號を記入したる標式布を作り左胸部に之を附着（安全

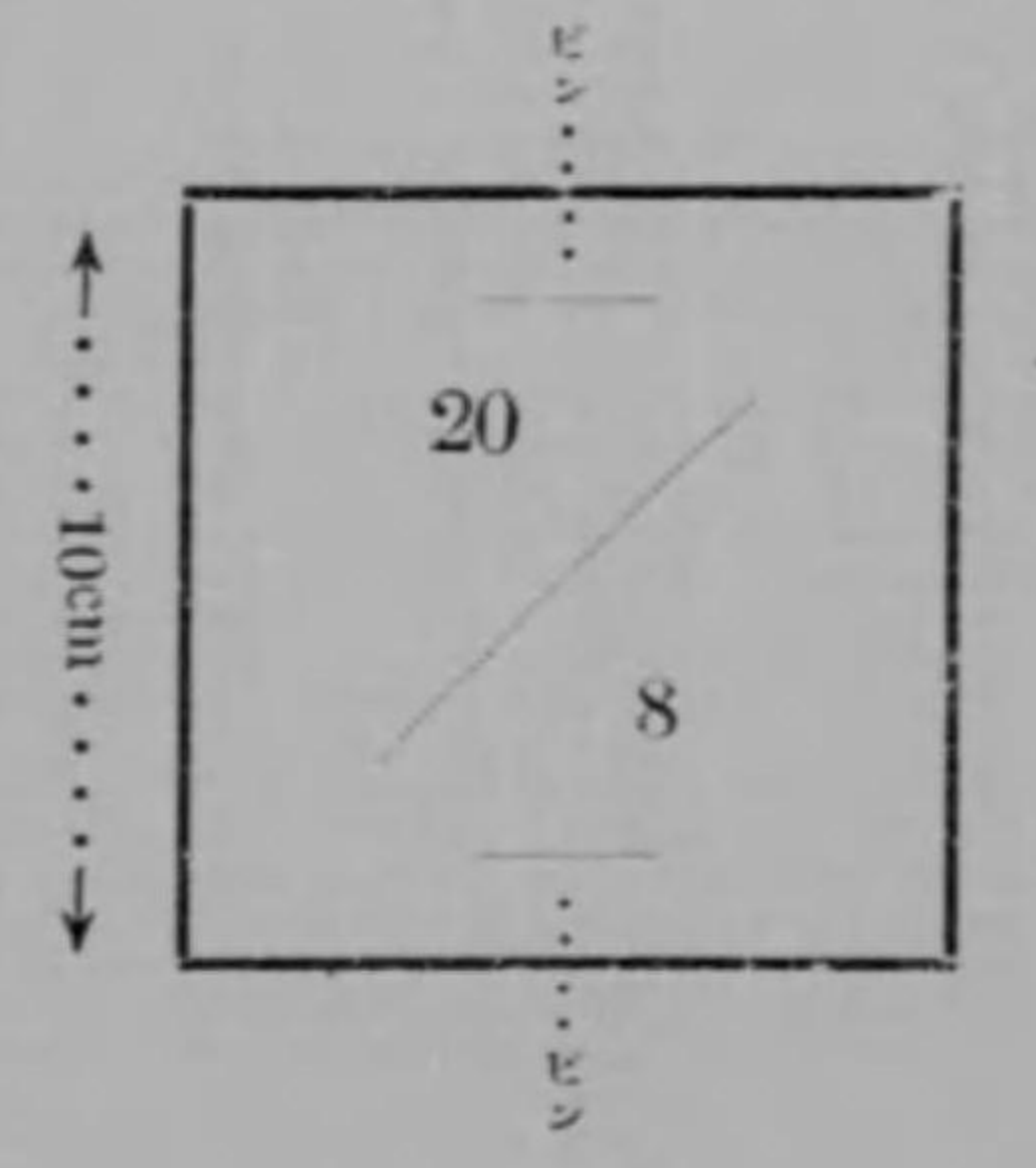
ピンを以て上下を止むるを可し。式場に整列したる後撤去し御親閲終りて再び之を附着するものとす。

地質 木綿

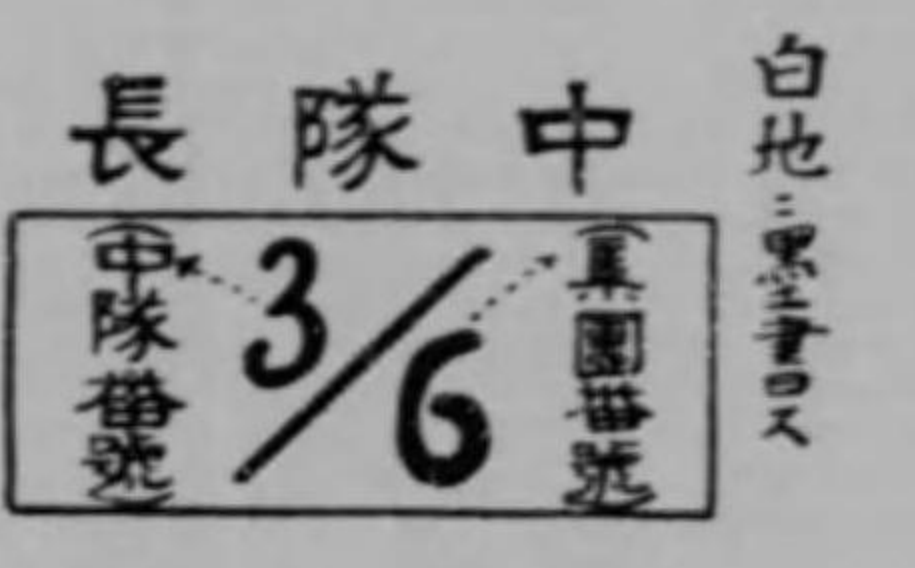
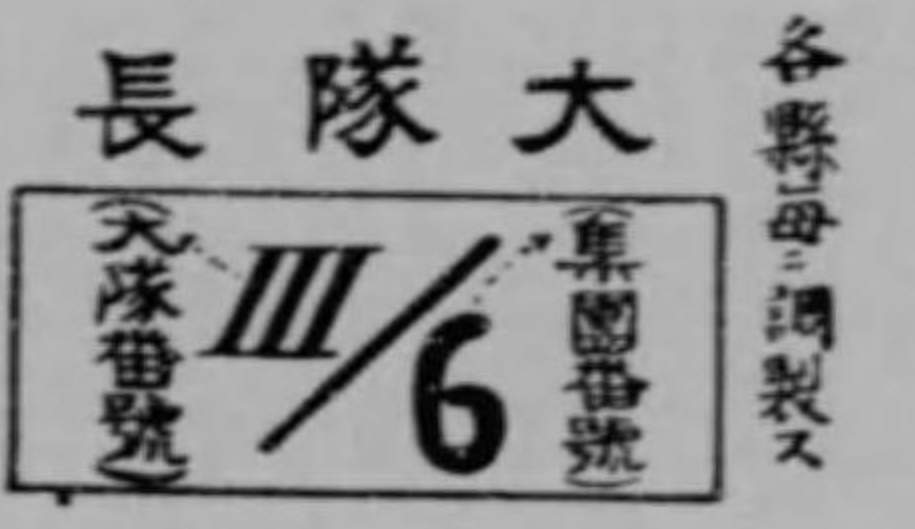
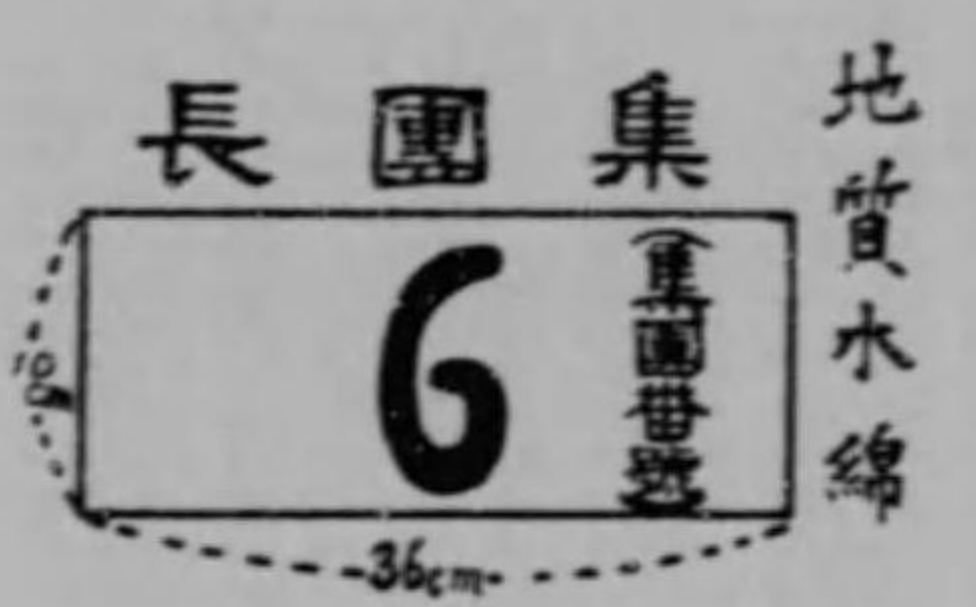
色 岡山縣白、廣島縣赤、山口縣黄

大きさ 一〇厘平方

記入文字 中隊號を上に集團號を下に數字を以て墨書す。



(二) 分列部隊の隊長は次の如き腕章を左腕に纏ひ式場に整列したる後撤去し御親閲終りて再び之を附するものとす。



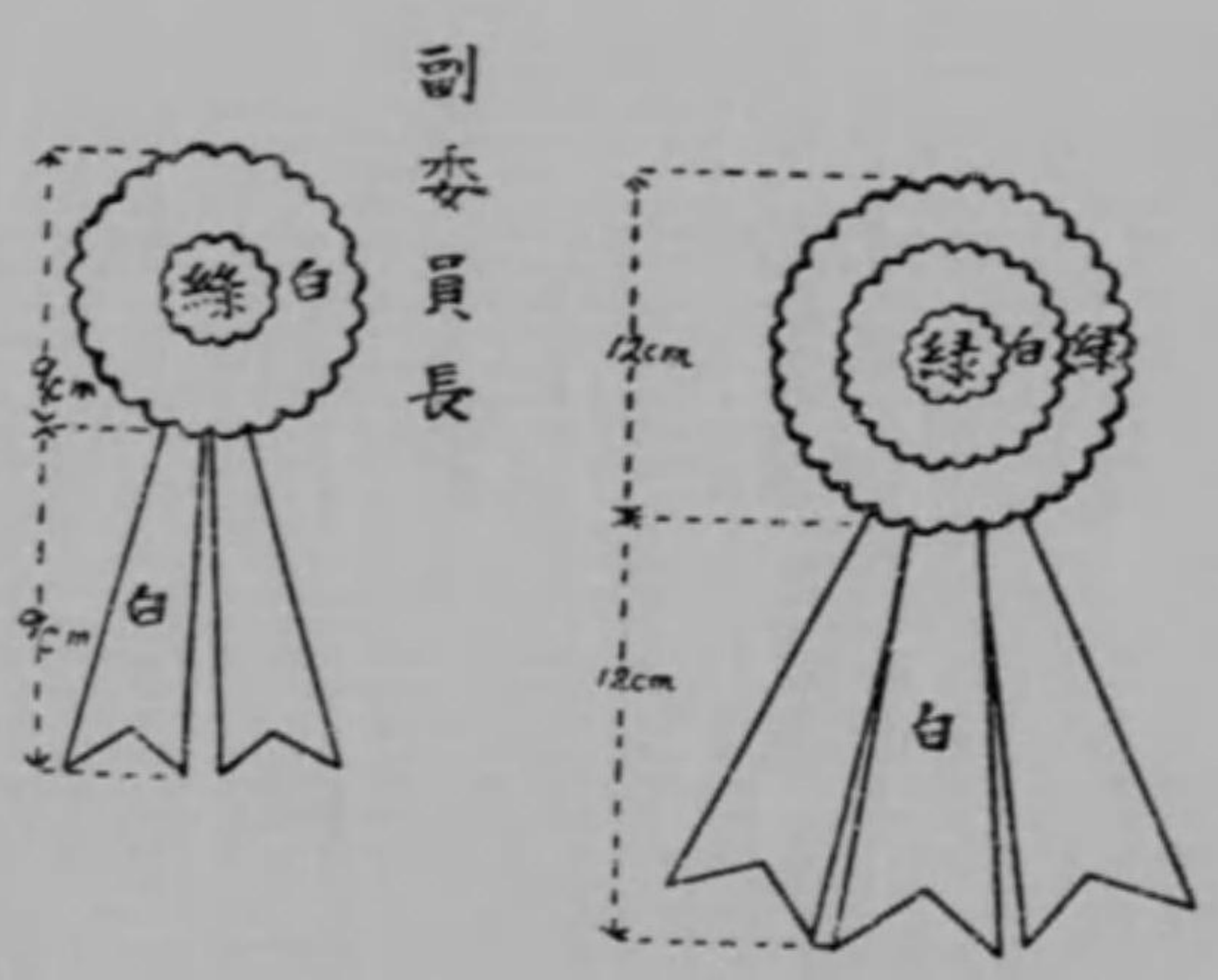
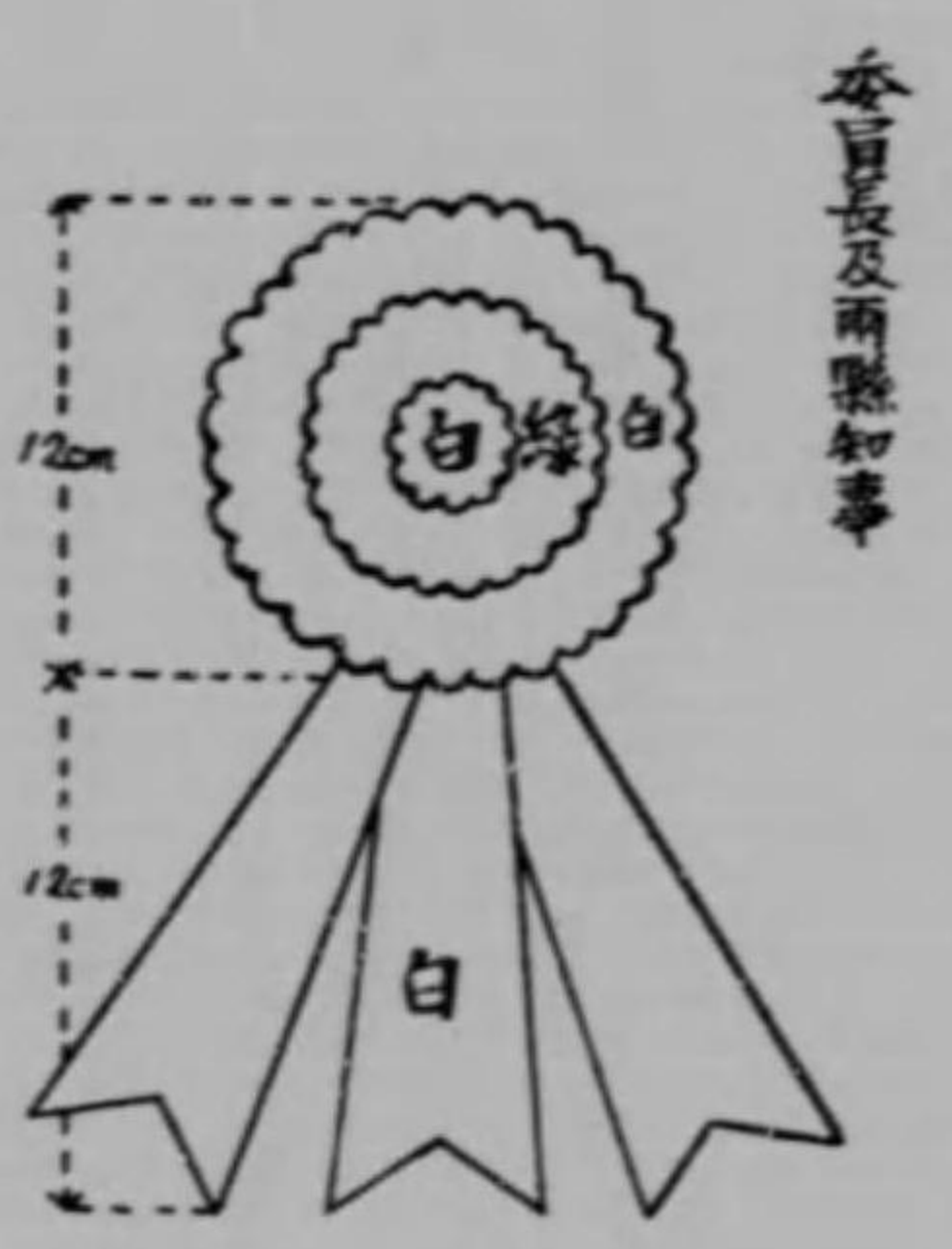
(一) 本章(服装)に規定せざる事項に關しては不敬に亘らざる限り各自の隨意とす。

六、委員並參入者徽章

一、委員徽章

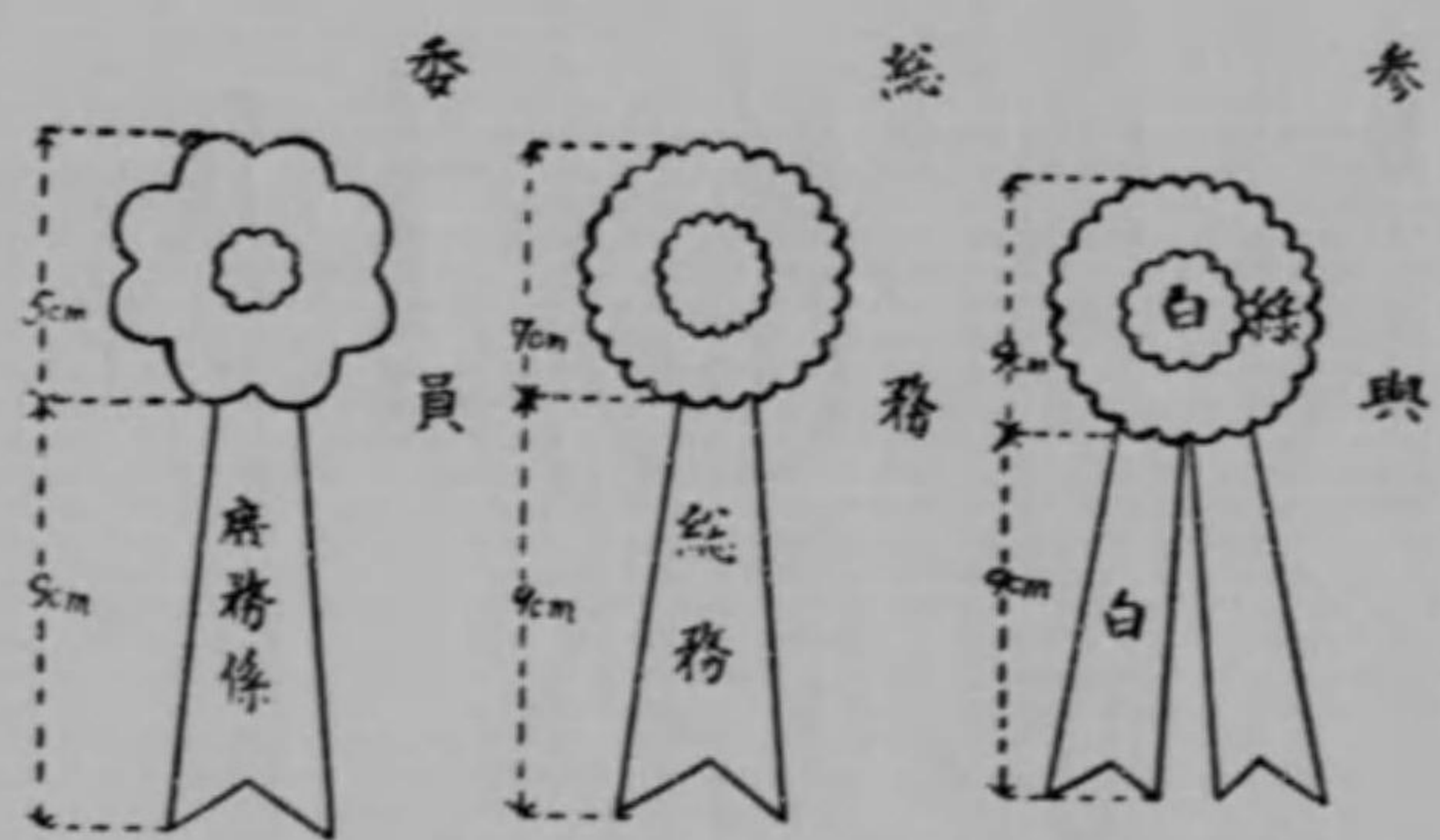
(一) 業務委員の徽章

顧問



二、援助委員の徽章

下の如き腕章（幅十種長三十六種）を左腕に纏ふ。



員 委 助 援

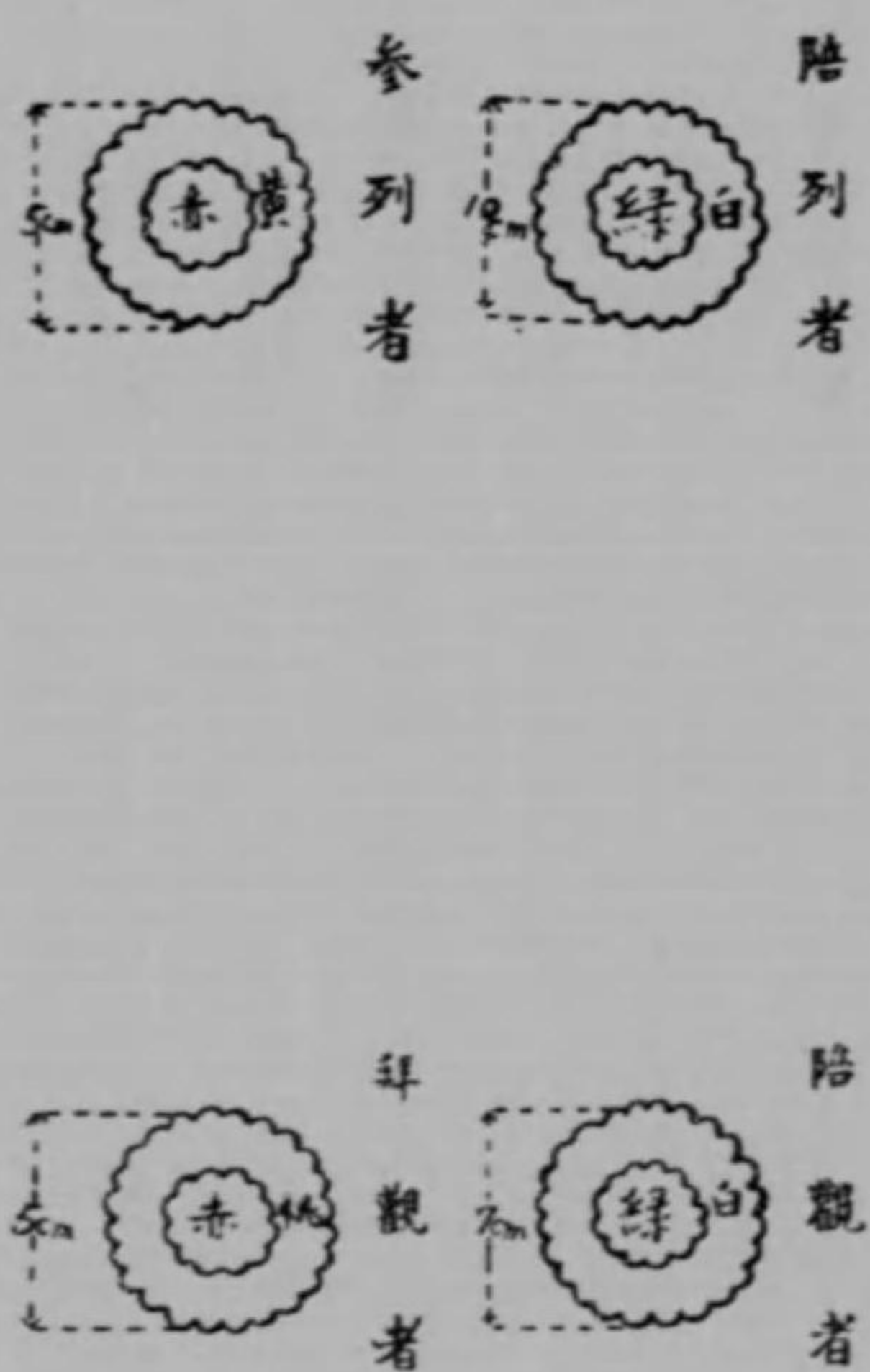
三、参入者の徽章

備考

一、各種徽章及腕章は岡山縣に於て準備し取纏めて關係縣並軍部に宛て豫め送付するものとす。
 二、各縣係員にして識別を要する場合は左記により色別をなすものとす。

- 白 岡 山 縣
- 赤 廣 島 縣
- 黄 山 口 縣

七、陪列、陪観、参列、拜観者並拜観團體
 イ、範 圍



1. 主務大臣陪列するの外陪列陪觀參列及拜觀を差許さるゝ者左の如し但し代理を認めず。

(一) 陪列陪觀者

1. 中央關係

各省大臣、政務次官、次官、參與官、秘書官
貴衆兩院議長、副議長

宮内省關係者

内務省關係者

文部省關係者

軍部關係者 (第五、第十師團を含む)

鐵道省關係者

帝國在郷軍人會長副會長及理事

大日本聯合青年團理事長及理事

大日本聯合女子青年團理事長及理事

新聞社長 (陸軍特別大演習の陪觀を許可せられたる新聞社通信社の社長)

2. 地方關係 (關係縣)

縣各部課長、支廳長

縣選出貴衆兩院議員

縣在住高等官 (五等以上)

縣所在官衙長 (奏任官以上)

縣會議員

市長及市教育關係課長

市會議長

岡山市助役

岡山市會議員

縣、郡、市聯合青年團長

縣、郡、市聯合女子青年團長

在郷軍人會支部長副長

在郷軍人會聯合分會長

縣、郡、市教育會長

縣、郡、市學校衛生會長

新聞社長、新聞社支局長通信部主任

町 村 長

實業補習學校長、小學校長(青年訓練所主事なるもの及充實實業補習學校長並規程第八條の認定學校長を除く)

私立中等學校設立者

私立青年訓練所設立者

日本赤十字社支部長、副支部長、主事

愛國婦人會支部長、副支部長、主事

將校婦人會支部長及副支部長

其の他特に招待したる者

(二) 参 列 者

参加學校長

参加青年訓練所主事(充實實業補習學校長及規程第八條の認定學校長を含む)

参加青年團長

参加女子青年團長

参加在郷軍人分會長

以上の内分列又は奉唱部隊に加はらざる者

(三) 拜 観 者

参加團體引率者(参列者を除く)にして分列又は奉唱部隊に加はらざる者

(四) 拜 観 團 體

學校、青年訓練所、男女青年團、在郷軍人分會、壯年會、戸主會、消防組、婦人會等引率者ある團體

ロ、服 装

(一) 男 子

「フロックコート」若は「モーニングコート」帽子は「シルクハット」若は黒山高帽、靴は黒の革製とし服制あるものは之に相當する制服とす(軍人は通常禮裝とす)

和服の場合は紋附、羽織、袴、帽子は黒山高帽又は中折帽とす。

(二) 女 子

「ビチテングドレス」又は白襟紋附とす。

ハ、参 入

(一) 陪列、陪観者は十一月十九日午前十一時より正午迄に第一受付(歩兵隊入口)より参入し

參入證を係員に差出し所定の位置に着くものとす。

(二) 參列者拜觀者は所屬團體の入場と共に參入し所定の位置に着くものとす。

(三) 拜觀團體は十一月十九日午前九時より正午迄に第二受付(津島入口) 第三受付(茶ヶ崎入口) 及第五受付(偕行社前入口) より參入證(附錄第二) を係員に差出し所定の位置に集合するものとす。

參入口は參入證に示す。

八、救護

御親閱式場に十ヶ所集合所及驛構内に各一個所の救護所を設けて救急處置の設備をなしあるも各學校及團體に於ても夫々救護係を定めて救護の敏活を圖るに共に左に留意して遺憾なきを期すること。

一、學校醫又は適當なる醫師と協議の上救急藥品及衛生材料を適宜準備攜帶すること。(懷爐を所有するものは携帯せしむるを可とす)

二、宿舍及休止場所に於て病者發生したる時は本縣事務所(岡山驛前山長旅館) に通知すること。

三、式場に於て病者發生したる時は救護係をして喧騒することなく敏速に救護所に搬送せしむること。

四、比較的重病者は初療の後岡山赤十字病院に搬送し救護をなすものなるに依り豫め承知し置くこと。

第四款 御親閱要領

一、御親閱順序

イ、整列

(一) 各隊は正午までに整列を完了し午後零時三十分に至らば各隊は抜刀着劍す。
(二) 整列完了せば各集團長は即時出場人員表を援助委員長稻垣少將(陸軍用統監旗を以て位置を示す)に提出す。

(三) 援助委員長は直ちに右の出場人員及準備完了の旨を岡山縣知事に通報す。

(四) 岡山縣知事は午後零時三十分迄に出場人員及準備完了の旨を行幸主務官に電話を以て通報す。

(五) 行幸主務官は行在所御發聲の旨を電話を以て岡山縣知事に通報す。

(六) 通報を受くれば式場入口に設備せる大國旗を掲揚す。

ロ、奉迎

(一) 鹵簿の先驅御親閱場東南隅附近に達したるとき「氣を付け」の喇叭を吹奏す。

(上田大尉は指定の喇叭手をして之を吹奏せしめ他の喇叭手二名は吹繼を爲す)

各縣知事は玉座に正面し玉座の前方二十歩に位置し奉迎す。

全員は喇叭「氣を付け」の吹奏と同時に不動の姿勢を取る陪列、陪觀、參列、拜觀者、受閱者中の職員、係員等にして軍服、男子學校制服、青年訓練所服、又は青年團服を着用せざる者及奉唱部隊は脱帽す。

拜觀團體は右に準ず。

(二) 軍樂隊は「君カ代」一回を奏樂す。

(軍樂隊は兩簿式場の入口稍前に達したる時奏樂を開始し概ね 天皇陛下玉座に着御あらせらるゝ時「君カ代」一回の奏樂を終る如くす)

(三) 天皇陛下玉座に着御あらせられたる時各縣知事は最敬禮をなす。此の時喇叭一聲を吹奏す。(岩井少佐は指定の喇叭手に合圖す。吹繼をなすこと前に同じ)之を合圖に全員同時に敬禮を行ひ軍樂隊は「君カ代」一回を奏樂す。(奏樂終りたる時全員敬禮を終ふ)

敬禮方法

(一) 分列部隊

大隊長の「捧銃」又は「頭右(左)」の號令(執銃徒手混合の大隊は「捧銃」の號令)に依り帶刀者は総て三節の敬禮(「銃」又は「右」の動令にて其の第一節を行ふ)隊長にして帶刀せざる者

は舉手注目(の敬禮執銃者は捧銃の敬禮其の他の者は「頭右(左)」の敬禮(執銃徒手混合部隊の徒手者は執銃者と同時に頭を右にす)とし杖旗訓練所旗青年團旗及分會旗は旗手旗徽を右股より放すことなく右手を十分に前に伸し旗を垂れ敬禮を爲す。脱帽せる者は最敬禮(上體を徐々に前に傾け手は自然に下げ其の指端の膝頭の邊に達するを度「約四十五度」)として凡そ一呼吸の後徐々に元姿に復し注目すること)

(二) 奉唱部隊

其の指揮者の號令に依り最敬禮をなす。

(三) 陪列陪觀參列拜觀者拜觀團體及係員

最敬禮又は舉手注目(の敬禮を爲す。係員は各任務の位置に於て玉座に面し之を行ふ。

(四) 脱帽せる者は敬禮終りたる時(「君カ代」の奏樂終りたる時)着帽す。

ハ、分列

(一) 岡山縣知事は八歩前進し最敬禮(廣島山口兩縣知事も同時に敬禮)の後御親閱を仰ぎ奉る旨を奏上す終りて八歩後退す。

各縣知事は玉座の左後方に移り侍立す。

(二) 林大尉は敬禮點の標兵を配置す。

- (三) 岩井少佐は喇叭「前へ」を吹奏せしむ。
 - (四) 軍樂隊は直ちに行進曲を奏して所定の位置に就き諸隊は分列を始む。
 - (五) 分列部隊御前通過の際知事は左記區分に依り各集團の編成を奏上す。
各大隊毎に團體の縣名と種類在郷軍人は支部名
各縣中等學校青年訓練所青年團 當該縣知事
高等專門學校在郷軍人分會 岡山縣知事
 - (六) 林大尉は分列部隊最後尾敬禮點を通過し終りたる時標兵を舊位に復せしむ。
- 二、奉迎歌奉唱
- (一) 軍樂隊は分列終らば曲目を改め奉唱隊誘導の爲め前進し所定線にて轉回して奉唱隊の前進を待つ。
 - (二) 奉迎歌奉唱部隊は指揮者の號令により前進を起し軍樂隊と合し奉唱位置に着く。
 - (三) 少年團員は上田大尉の指揮により指揮臺を指定位置に運び同臺の後方に整列す。
 - (四) 奉唱部隊は奉唱所定の位置に停止せば玉座に向ひ脱帽し奉唱部隊指揮者横地少佐の號令に依り最敬禮をなす。
 - (五) 軍樂隊は先づ奉迎歌の第一節「あゝ今しめらみこは」を奏樂す。(此の間奉唱せず)續いて

軍樂隊の奏樂に和し奉唱部隊は奉迎歌を奉唱す。

ホ、「君カ代」奉唱

- (一) 各縣知事は奉迎歌奉唱終らば玉座に向し指揮臺の右方に位置す。
 - (二) 軍樂隊は先づ「君カ代」の第一節「君が代は」を奏樂す。御親閱拜受團體全員は之に續いて「君カ代」一回を奉唱す。(軍樂隊奏樂)
 - (三) 奉迎(一)に於て脱帽したるものは「君カ代」の前奏を始むると同時に脱帽す。
- へ、萬歲 三唱

岡山縣知事は「君カ代」終了後軍樂隊長と替り玉座に正面して臺上に上り萬歲を三唱す。全員之に唱和す。其の要領左の如し。

知事	「天皇陛下萬歲」	全員	萬歲
知事	「萬歲」	全員	萬歲
知事	「萬歲」	全員	萬歲

萬歳の唱和を努めて一齊ならしむる爲知事を通視し得る位置に在る係員は知事の萬歲發聲と同事に手を高く擧げ各集團旗手は集團旗を高く掲げ全員は之を合圖に一齊に知事の發聲に唱和す。

ト、奉送

- (一) 岡山縣知事は臺上より下りて玉座の前方二十歩に至り（廣島、山口兩縣知事も右位置に着く）更に八歩前進し本日の行事終了の旨を奏上す。終りて八歩後退す。
 - (二) 各縣知事は最敬禮を爲す。此時喇叭一聲を吹奏す（岩井少佐は之を合圖す。其の方法前に同じ）此合圖に全員同時に敬禮を行ひ（其の方法奉迎の場合に同じ）軍樂隊は「君カ代」一回を奏樂す。奏樂終りたる時全員敬禮を終ふ）
- 一、退出及解散
- (一) 岩井少佐は鹵簿式場の東南隅を通御の後喇叭「休め」を吹奏せしむ。此の時脱帽せる者は着帽し陪列陪觀、拜觀者及拜觀團體は退出し參列者及拜觀者たる參加團體引率者は所屬團體に附く。
 - (二) 喇叭二聲を吹奏せば（指揮者前に同じ）逐次退散す。（第八解散參照）

二、分列

- イ、分列部隊の編成
- (一) 出場各團體はなるべく其の建制及學校の順位を尊重し同一種別の團體毎に一集團とし之を數大隊に大隊は之を數中隊に分ち中隊以下には區分せず。
- (二) 分列部隊編成の一般次の如し。

分列部隊編成一覽表

集團番號	編成に入るべき團體		人員	大隊數	大隊内の中隊數			
	1	2			I	II	III	IV
1	岡山縣	中等學校	五、八三二	四	九	八	八	九
2	岡山縣	青年訓練所	六、三六二	四	八	九	八	八
3	岡山縣	青年團	四、一九六	三	七	八	八	八
4	廣島縣	中等學校	四、一七二	三	一	一	一〇	
5	廣島縣	青年訓練所	二、三九八	二	六	六	六	
6	廣島縣	青年團	九五七	一			六	
7	山口縣	中等學校	二、〇七三	二	一〇	九		
8	山口縣	青年訓練所	九一三	一			七	
9	山口縣	青年團	三五六	一				
10	帝國在郷軍人會	岡山支部	四、六六〇	三	八	八	一一	
11	帝國在郷軍人會	廣島支部	六八八	三	三			

計	9	福山支部	一、九五	三	二	六	
集		山口支部	五三				四
團							
數	九		五、八三	二七	中隊數合計	二二二	

(三) 分列部隊の編成別表の如し。

ロ、分列の隊形

(一) 通 則

イ、大隊の正面幅は四十五米乃至五十米とし中隊間の間隔は中隊數に應じ上記正面を充足する如く定むるを以て本則とす。又列員の縦長は三十名とす。三十名に充たざる列は各中隊の最左翼列に設くるものとす。

ロ、列間の軸心間隔は六十五種とす。(各自左手を腰に當て肘を側方に張りたる時軽く左隣の者の右臂に觸るゝを度とす)

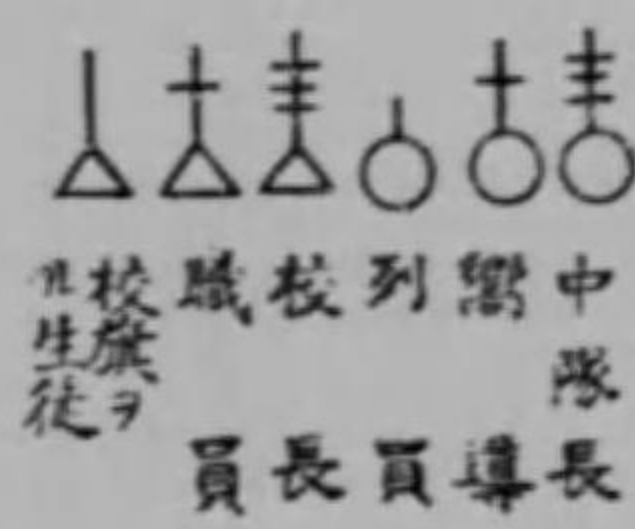
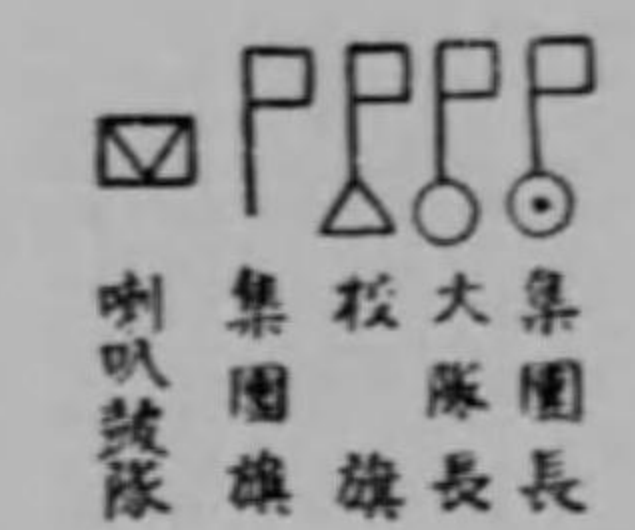
ハ、列員の距離は特に定むる者の外停止間に在りては軸心距離一米(前者の背より後者の胸まで八十五種)とし進行間に在りては一米五十種とす。

ニ、集團長大隊長は大隊の中央前中隊長校長及旗手(集團旗手を除く)は中隊の中央前に位置し

一校を以て數個の中隊を編成せるものは中央右中隊の中央前に位置するものとす。集團旗は其の集團に於ける第一大隊第一中隊嚮導直後の列員之を保持す。集團旗は略ぼ歩兵大隊旗の大きいとし「アラビヤ」數字にて集團番號を記す。旗竿の長さは約一米九十種(銃に附くるものは一米十種)とし執銃者は之を大隊旗の如く附着し執銃せざる者は停止間に在りては之を立銃の如く行進間に在りては擔銃の如く保持するものとす。(旗は岡山縣に於て準備し御親閱當日式場に於て集團係より交附す)

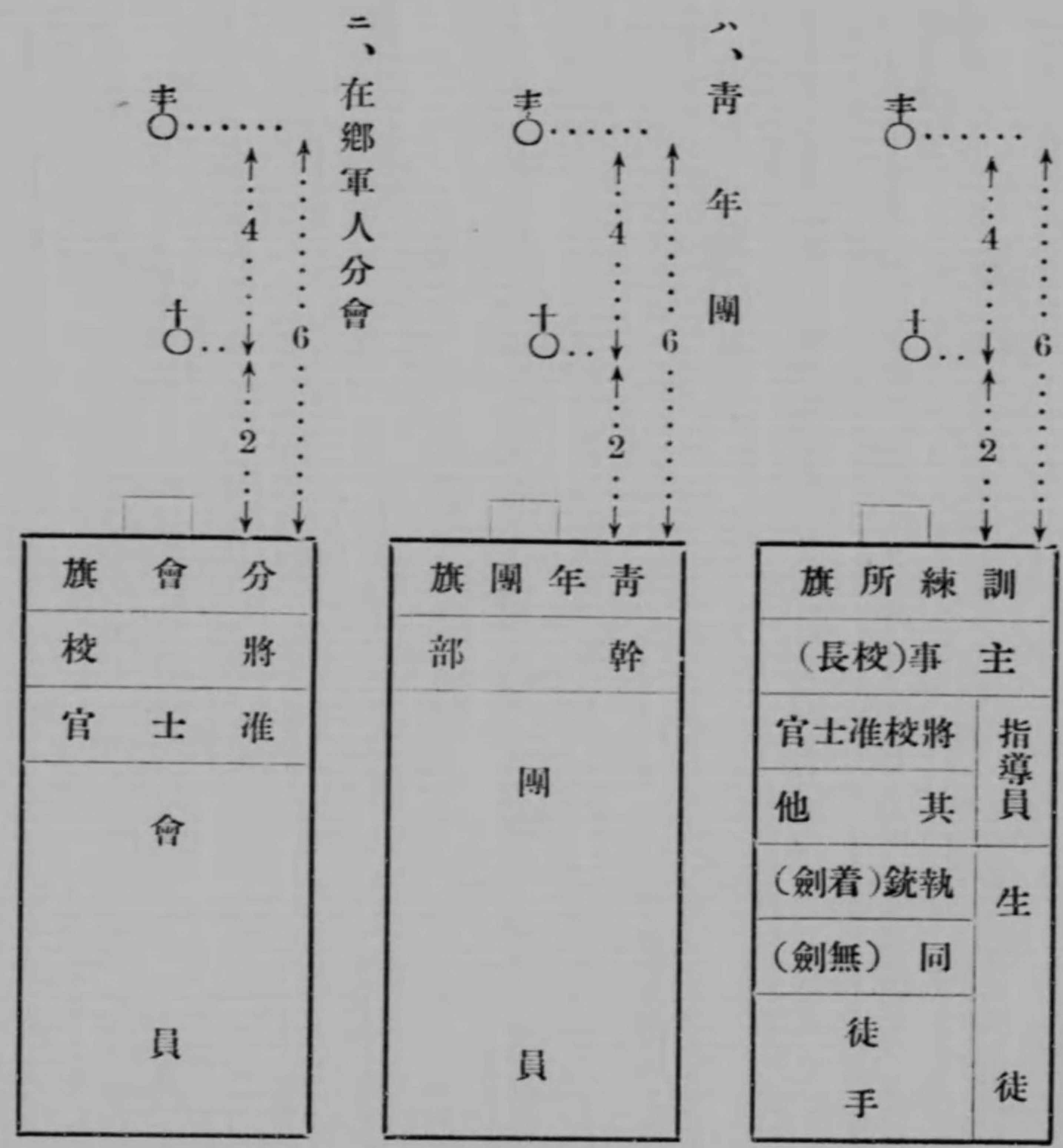
(二) 隊 標

本圖使用の隊標左の如し。



(三) 中隊の隊形

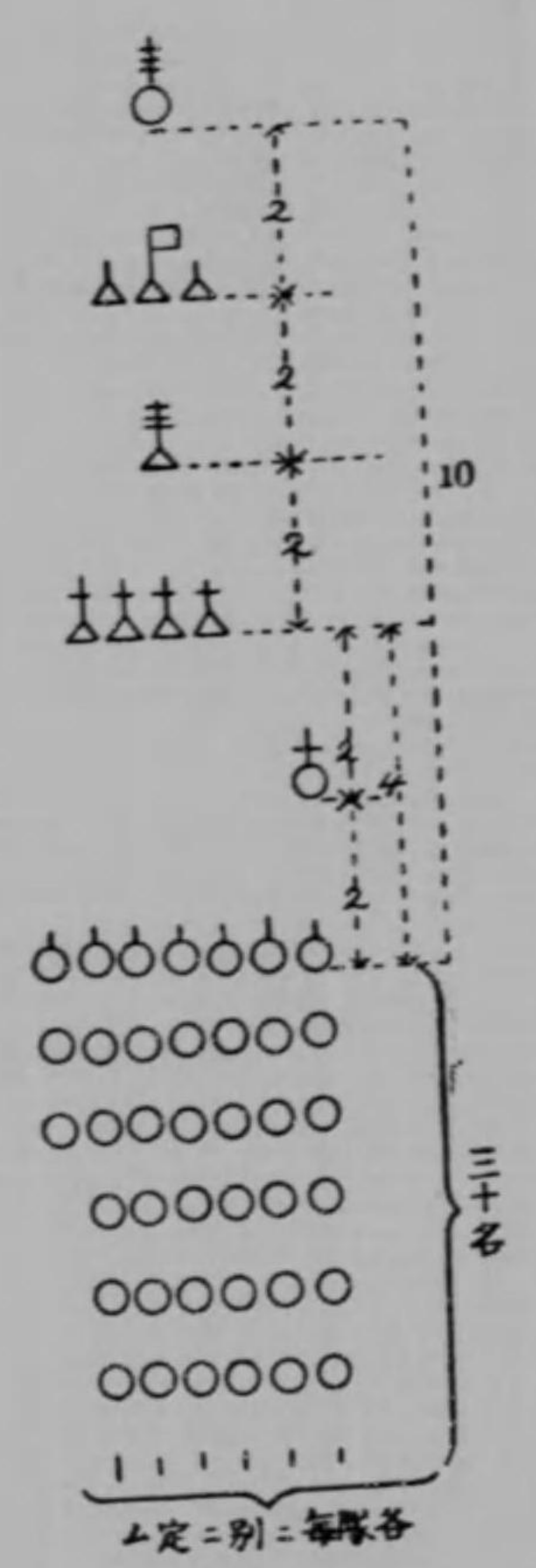
1 學 校



2 青年訓練所

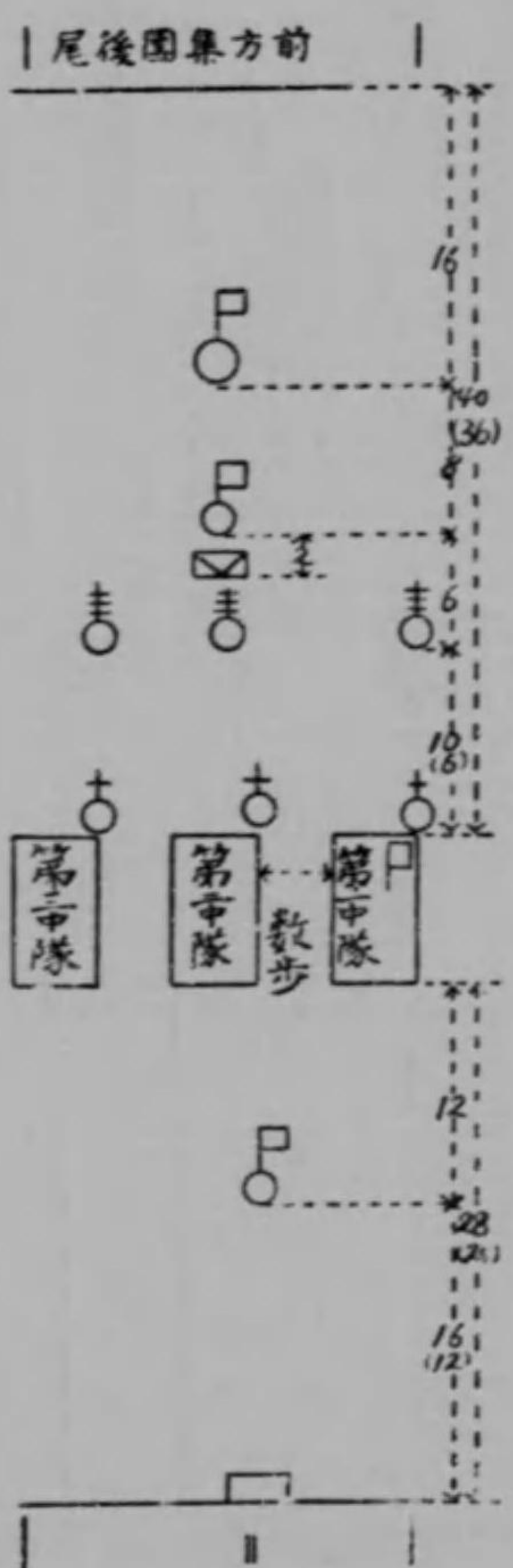
(2) 數校を以て一中隊を編成したるときは校旗(旗を護る生徒を附せず)校長職員共右圖に示す相當位置に於て一列横隊に整列す人員多くして中隊正面を超過せる場合は隣中隊の間隔に及ぶ。

備考 イ、「アラビヤ」數字は步數を示す。
ロ、嚮導の直前を塞がざること。



(1) 一校を以て一中隊を編成したる隊形

(四) 大隊及集團の隊形



備考 イ、喇叭鼓隊は之を纏め大隊長の後方に位置し四名以上の時は之を二列とす、奉迎奉送及分列の際は奏樂せず。

ロ、()内は青訓、青年團、在郷軍人分會を以て編成せる部隊の歩數とす。

(五) 隊長及嚮導の選定
隊長及嚮導の選定は概ね左の標準に據る。

團體別	種類	大隊長以上	中隊長	嚮導
學校	校	其の隊内高級先任の配屬將校	配屬將校を以て充て得ざる學校は教練教師又は生徒	適任なる生徒

青年訓練所	其の團體内高級先任の將校 (同相當官を含む以下同じ)	中隊内高級先任指導員	指導員を以て充て得ざるものは生徒
青年團	團員中高級先任の在郷軍人又は團員外の在郷軍人		なるべく在郷軍人
在郷軍人分會	聯合會支部に於て定む		

ハ、分列前の整列

(一) 各大隊整列時に於ける整頓は右方を基準とす。

第一集團 第一乃至第三大隊の整頓は第一集團長

第二集團 第四大隊第二集團第一乃至第三大隊の整頓は第二集團長

第五集團 第二大隊乃至第八集團第一大隊の整頓は第三集團長

第八集團 第三大隊乃至第九集團第三大隊の整頓は第九集團長

に於て監督するものとす。

集團係は右集團長の監督を援助するものとす。

(二) 各大隊の整列位置は御親閲要圖に之を示す。

整列位置の右翼には隊號を記せる赤色の標札を植立す。此の標札は整頓完了後標識係に於て撤

去す。

- (三) 第一集團の第一乃至第三大隊は分列隊形に整列し列員の距離(踵より踵迄)は一米とす。幹部(集團長より嚮導までの者)は分列隊形に於ける關係位置のまゝ十五米の距離内に過大過小ならざる如く整列し分列發起線出發時より分列隊形に示す距離を取るものとす。
- 爾餘の大隊は前記と同様に整列して「左向」をなしたる隊形とし集團長及大隊長は大隊の最前線に嚮導は中隊の最前線に位置す。列員の間隔内には後列員進出して恰も側面縱隊より横隊となり伍を解きたると同様の状態に在るものとす。
- 何れの大隊と雖正面幅四十五米(第一集團第一乃至第三大隊は四十五米乃至五十米)奥行四十五米乃至五十米(第一集團第一乃至第三大隊は四十五米)の地域内に整列し廣狹なきを要す。各大隊は距離間隔を確守し縦横の整頓を正しくするものとす。
- (四) 奉迎時に於ける集團係の整列位置は集團長の直後とす。
- (五) 分列の標兵は同一學校に於ける四名の生徒を以て之に充て正副二種に分つ同標兵は玉座の後方所定の位置に於て奉迎す其の細部に就ては林大尉指示するものとす。

ニ、分列の方法

- (一) 分列は大隊を單位として行ふものとす。

(二) 分列行進の速度は一分間百十四歩一步幅を七十五糎とす。(之が嚴守は分列の首尾を全うする爲緊要なり)

(三) 分列は「前へ」の號音を合圖に開始す。其の方法左の如し。

1. 軍樂隊は直に發進奏樂しつゝ玉座の對稱位置に至る。
2. 第一集團第一大隊は直に發進す。
3. 第一集團第二第三大隊は幹部間及隊間距離を必要の最小限度として直に分列發起線迄前進し同線に至れる大隊は若干の足踏を爲し隊伍を整頓す。此の間幹部は分列所定の距離を得るに従ひ逐次發進し大隊長は發起線係の合圖に依り大隊の前進を令す。
4. 其の他の各大隊は直に「右向」をなして發進す。分列發起線出發迄の要領は前項に依る。
5. 嚮導は紅白二個の分列目標を一線上に認むる如く前進するものとす。
6. 集團長第一標兵の線に至らば單獨にて「頭右」を行ふ。
7. 大隊長第一標兵の線に至らば「頭右」の號令を下す。
全員は「右」の動令により一齊に玉座に注目す。
(此の際當初より四十五度以上又は二十度以下の旋頭を以て注目する者を生ず)
嚮導は「頭右」の令あるも目標に直進するものとす。

帶刀者は「頭」の豫令にて敬禮の第一節（捧刀）を行ひ「右」の動令にて第二節を行ひ「直れ」にて肩刀（第三節）に復するものとす。

校旗、訓練所旗、青年團旗及分會旗手は「右」の動令にて旗鍬を右股より離すことなく右手を充分前方に伸ばして旗を垂るゝと同時に「頭右」を行ひ集團旗手は旗を擔ひたる儘「頭右」をなす。

學校職員、青年訓練所主事、青年團長にしてフロックコート又はモーニングコートを着用せるものは分列發起線より脱帽し「直れ」の號令にて着帽す。帽は其の庇を握り帽の突出部を右方にして右腋下に抱ふる如く保持し其の臂を自然に振るものとす。

叙上職員は脱帽の儘、制服を着用せる職員は着帽の儘「頭右」を行ひ海軍將校准士官は舉手注目を行ふものとす。

8. 集團長第二標兵の線に至らば「直れ」を單獨にて行ひ大隊長は「直れ」係の合圖により大隊に「直れ」の號令を下す。

9. 方向變換は竝立縱隊の方向變換に準ず大隊長「左に方向を換へ」の號令を下せば各中隊は中隊長の號令により旋回するものとす。

旋回時に所ける内翼の中隊は七十五種の歩幅を以て一分間に百十四歩を行進することにより

旋回を完了し外翼中隊は一分間に百六十歩を駈歩することにより旋回を完了し中間中隊は其の位置に依り速度又は駈歩を以て内外兩翼中隊と齊頭面に在りて旋回を完了するものとす。東北及西南隅角の旋回は分列部隊の分列を整齊ならしむる爲内外兩翼共同一の縱長を以て旋回すること特に必要なり。

(四) 分列の爲特に遵守すべき事項次の如し。

1. 所定距離の保持所定の歩幅及速度の確守は全般の分列及自隊の分列をして整齊ならしむる爲必須の要件なること。

2. 青年の意氣は踏付の確實なるにより遺憾なく表現せらるゝこと。

3. 隊伍の整齊は幹部各線の整頓及列員前後兩線（大隊の先頭後尾兩線）擔ひたる銃の傾度並帶刀者敬禮の第一節第二節の速度及第二節に於ける刀の位置の整一なるに因りて得らるゝこと。

4. 「右」の動令にて一齊に而も活潑に旋頭することは壯觀を得る爲め必要なり。之が爲には「右」の動令にて踏付けると同時に左より右に向くるが如き心持を以て旋頭すること。

5. 「頭右」の號令後整頓を正さんとすは敬禮の價値を著しく失墜するものとす。

6. 「頭右」にて跳上り又屈き込むか如き姿勢に變せざること必要なり。

7. 踏付は太鼓の音と一致せしむること。
 8. 旋回の際外翼の「はみ」出さざること及外翼の縦長を延長せざること肝要なり。
 9. 隊列内に在る所旗、團旗、會旗の敬禮の際旗竿を前方に倒す爲縦長を延伸せざること之れが爲要すれば旗竿を前列右隣者との中間に倒すこと。
 10. 分列部隊第二標兵の位置を過ぎたる以後は緊張を缺き易きを以て注意を倍進し特に旋回行動間に在りては弛緩状態に陥らざること。
- (五) 分列部隊の行軍長徑及各時刻に應ずる諸部隊の態勢左表の如し。
1. 分列部隊行軍長徑表
- イ、前方部隊の後尾より 集團長までの距離 一二米
 大隊長までの距離 九米
 ロ、各隊の長徑は前方部隊の後尾より大隊の後尾迄を示す。

隊 號	長 徑	累 計
I/5	72 _m	1011 _m
I/5	63	1074
I/5	63	1137
I/6	75	1212
I/6	66	1278
I/6	63	1341
I/7	75	1416
I/8	72	1488
I/8	63	1551
I/8	63	1614
I/9	72	1686
I/9	63	1749
I/9	63	1812 _m

隊 號	長 徑	累 計
I/1	75 _m	
I/1	66	141 _m
I/1	66	207
I/1	66	273
I/2	72	345
I/2	63	408
I/2	63	471
I/2	63	534
I/3	72	606
I/3	63	669
I/3	63	732
I/4	75	807
I/4	66	873
I/4	66	939 _m

2. 時刻に應ずる諸部隊態勢概見表

一	一	一	一	一	一	一
二〇	一七	一五	一二	一〇	二	〇分
〇〇	二〇	〇〇	三〇	〇	〇	〇分
I/5、I/3よりI/5まで分列後の整列位置に到着	I/2よりI/3まで分列後の整列位置に集合完了	I/2分列後の整列位置に到着	I/1よりI/2まで分列後の整列位置に集合完了	I/1分列後の整列位置に到着	分列開始	着御
東北隅角附近に	I/5分列發起線附近に I/7第三奉唱隊通路通過完了		I/3分列發起線附近に 西南隅角附近に		分列部隊一齊發進を起す	